
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

紀要

2021



2022年11月
岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門



(表 紙) 耳環
：津島岡大遺跡第37次調査

(裏表紙) 「酒」墨書土器
：鹿田遺跡第12・27次調査

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要

2021

2022年11月

岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門

序

岡山大学の各キャンパスにはそれぞれ遺跡が存在します。造成工事などで貴重な遺跡が無為に失われないように、岡山大学では、埋蔵文化財調査室を1983年に設置し、1987年には埋蔵文化財調査研究センターに改組して構内遺跡の調査・研究・公開と保護に当たってきました。同センターの調査と研究成果は、考古学あるいは地域の歴史解明に大きく寄与してきたところです。その機能をさらに発展させるため、同センターは2022年4月に文明動態学研究所と統合し、同研究所の文化遺産マネジメント部門がセンターの機能を引き継ぐことになりました。本書は、埋蔵文化財調査研究センターとしての最終年度の活動を報告するものです。

2021年度、津島キャンパスでは、複合施設に伴う工事のため第40次調査が、鹿田キャンパスでは、先端治療・臨床検査センター建設に伴う第29次調査が実施されました。前者では縄文時代後期の土抗や弥生時代前期の水田址、後者では弥生時代の溝、中世後半期の屋敷地に関わる遺構が見つかっています。また、数多くの立会調査を実施し、とくに津島キャンパスライフライン再生にともなう枡・配管工事では、13回の立会調査を行い、歴史上有名な「福輪寺縄手」の位置を考察するに重要な手がかりを得ました。小規模な調査もおろそかにせず、丁寧な対応をすることが重要であることが再認識される調査でした。

本年度も、新型コロナウイルス感染症流行に伴い、感染防止に努めながら事業を進めました。疫病禍に悩まされながらも、例年と同様に充実した事業展開をすることができました。これも関係諸機関・学内外の多くの人から協力をいただいた結果であると認識しております。

埋蔵文化財調査研究センターの35年にわたる活動についても、数多くの機関と皆様からご協力とご理解をいただきました。ここに重ねての感謝を申し上げる次第です。上記の通り、埋蔵文化財調査研究センターはその歴史をいったん閉じ、文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門として再出発することになりました。埋蔵文化財調査研究センターの輝かしい成果をさらに発展させるように努めますので、引き続きご支援を賜りますようお願いするものです。

文明動態学研究所

所長 松 本 直 子

文化遺産マネジメント部門 部門長 清 家 章

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2021

目 次

第1章 構内遺跡の調査研究

第1節 発掘調査の概要

1. 津島岡大遺跡第40次調査……………(山口雄治) 1
2. 鹿田遺跡第29次調査……………(野崎貴博) 5

第2節 立会調査の概要

1. 実施状況……………(野崎) 13
2. 津島地区
 - a. ライフライン再生にともなう柵・配管工事……………(野崎) 13
 - b. 高圧ケーブル更新工事……………(野崎) 16
3. 鹿田地区
 - a. トリアージスペース整備工事……………(野崎) 16
 - b. 旧生化学棟改修工事……………(野崎) 17
 - c. 先端治療・臨床検査センター新営予定地……………(野崎) 18
 - d. 歯学部改修工事……………(野崎) 18

第3節 構内遺跡に関する研究

1. 鹿田遺跡の中世～近世における集落の様相……………(岩崎志保) 26
2. 樹種同定・花粉分析データの総合化からみた周辺植生と利用樹種の関係
－岡山大学構内遺跡の事例から－……………(野崎) 34

第2章 調査資料の整理および公開・活用

第1節 調査資料の整理・保存処理

1. 調査資料の整理……………(山口) 42
2. 調査資料の保存処理……………(山口) 42

第2節 調査成果の公開・活用

1. 公開・展示
 - a. 第21回岡山大学キャンパス発掘成果展……………(野崎) 42
 - b. 公開講座……………(山口) 43
2. 資料・施設等の利活用……………(山口) 43

第3節 調査研究員の個別研究活動

1. 外部資金獲得状況……………(山口) 45
2. 論文・研究報告ほか…………… 46
3. 研究発表・講演ほか…………… 47

第3章 2021年度における調査・研究のまとめ……………(山口) 49

資 料

1. 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程・組織等…………… 50
2. 2020年度以前の調査・研究一覧…………… 55

挿 図 目 次

図1 調査地点の位置…………… 1	図17 土層柱状図…………… 18
図2 土層柱状図…………… 3	図18 土層柱状図（東外構）…………… 18
図3 遺構全体図…………… 4	図19 土層柱状図（北外構）…………… 19
図4 鹿田地区発掘調査地点…………… 6	図20 土層柱状図（西外構）…………… 19
図5 土層柱状図…………… 7	図21 2021年度の調査地点【1】 －津島地区－…………… 23～24
図6 弥生時代後期の遺構全体図…………… 9	図22 2021年度の調査地点【2】 －鹿田地区－…………… 25
図7 中世の遺構全体図…………… 10	図23 鹿田遺跡の発掘調査地点…………… 26
図8 室町時代の区画溝2…………… 11	図24 中央部の屋敷地区画の変遷…………… 29
図9 鎌倉時代の井戸と遺物の出土状況…………… 11	図25 V期の遺構配置…………… 30
図10 近世の遺構全体図…………… 12	図26 VII～VIII期の遺構配置…………… 30
図11 調査地点の位置…………… 13	図27 発掘調査地点と切り図の字境…………… 31
図12 土層柱状図（南北方向）…………… 14	図28 岡山大学構内遺跡における周辺植生と 利用樹種…………… 37
図13 土層柱状図（東西方向）…………… 15	
図14 土層柱状図…………… 16	
図15 土層柱状図…………… 17	
図16 土層柱状図…………… 17	

表 目 次

表1 2021年度調査一覧（津島地区）…………… 20	表7 樹種同定結果（津島岡大遺跡）…………… 35
表2 2021年度調査一覧（鹿田地区）…………… 21	表8 岡山大学構内遺跡花粉分析結果…………… 36
表3 時期区分…………… 27	表9 用途と樹種選択（津島岡大遺跡）…………… 38
表4 遺構の推移…………… 28	表10 用途と樹種選択（鹿田遺跡）…………… 39
表5 時期区分…………… 33	表11 2021年度分析一覧…………… 42
表6 樹種同定結果（鹿田遺跡）…………… 35	

付 図 ・ 付 表

付図1 岡山大学の位置と周辺の遺跡分布…………… 71	付図4 2020年度以前の調査地点【2】 －鹿田地区－…………… 75
付図2 津島地区全体図…………… 71	付図5 2020年度以前の調査地点【3】 －三朝地区－…………… 76
付図3 2020年度以前の調査地点【1】 －津島地区－…………… 73～74	

付図6	2020年度以前の調査地点【4】 - 東山地区 - …………… 76	付表2	2020年度以前の構内主要調査…………… 55
付図7	2020年度以前の調査地点【5】 - 倉敷地区 - …………… 76	付表3	埋蔵文化財調査研究センター 収蔵遺物概要…………… 66
付表1	1982年度以前の構内主要調査…………… 55	付表4	埋蔵文化財調査室刊行物…………… 68
		付表5	埋蔵文化財調査研究センター刊行物…… 68

例 言

1. 本紀要は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが、岡山大学構内において2021年4月1日から2022年3月31日までに実施した埋蔵文化財の調査研究成果およびセンターの活動についてまとめたものである。
2. 本紀要において報告している津島岡大遺跡は岡山市北区津島中一丁目～三丁目1番1号、鹿田遺跡は岡山市北区鹿田町二丁目5番1号に所在する。
3. 執筆者は、目次に記載すると共に、原則として、本部門教員の場合は文末に、本部門以外の場合は文頭に記した。
4. 編集は清家章部門長・岩崎志保チームリーダーの指導のもと、山口雄治が担当した。

凡 例

1. 岡山大学構内の埋蔵文化財の調査にあたっては、2002（平成14）年4月1日から施行された「測量法及び水路業務法の一部を改正する法律」に基づき、世界測地系を採用したが、それ以前の日本測地系による構内座標の相対的な位置関係を保持したまま座標値のみ世界測地系に変換している。各区画の座標原点と区割りは次のように定めている。
 - 1) 津島地区では、国土座標第Ⅴ座標系（日本測地系）の座標北を基軸とし、 $(X, Y) = (-144,156.4617\text{m}, -37,246.7496\text{m})$ （世界測地系）を起点とする構内座標を設定している。構内座標の内部は一辺50mの方格で分割した区画を用いている。
 - 2) 鹿田地区では、国土座標第Ⅴ座標系（日本測地系）の座標北より東に15°振り出した座標軸を基軸とし、 $(X, Y) = (-149,456.3718\text{m}, -37,646.7700\text{m})$ （世界測地系）を起点とする構内座標を設定している。構内座標の内部は一辺5mの方格による地区割りをを用いている。
 - 3) 挿図中で用いる方位は、津島地区・鹿田地区は国土座標（日本測地系）の座標北を、その他は磁北を用いている。
2. 岡山大学敷地内で調査地点を示す場合、周知の遺跡にあたる場合はその遺跡名を、それ以外の場合は、地区名を付して示す。
3. 調査名称は、「発掘調査」に分類したものは、遺跡ごとに調査順に従って次数番号で呼称し、「試掘・確認調査」、「立会調査」に分類したものは、原則、原因となった工事名を使用している。発掘調査のうち、小規模で確認調査から連続して調査したものは、「試掘・確認調査」に分類する。
4. 付表に記載した既往の調査一覧は、掘削深度が中世層以下に達するかあるいは遺構などが確認された調査のみを掲載している。未掲載分も含め、すべてのデータは、本部門において保管している。
5. 本文などで使用している調査番号のうち、2021年度のは表1・2および2020年度以前のは付表1・2と一致する。
6. 本紀要に掲載の地形図（付図1）は、岡山市域図を複写したものである。
7. 土層注記において、特徴的な包含物・事項については括弧内に記載した。

第1章 構内遺跡の調査研究

第1節 発掘調査の概要

1. 津島岡大遺跡第40次調査（複合施設、調査番号1、AW・AX5）

調査期間 2021（令和3）年11月16日～2022（令和4）年4月25日

造成土除去：2021（令和3）年11月16日～同年11月25日

発掘調査：2021（令和3）年11月26日～2022（令和4）年4月25日

調査面積 700m²

調査担当 南健太郎（助教、調査主任2022年1月16日まで）、山口雄治（助教、調査主任2022年1月17日から）、岩崎志保（准教授）、木村理（助教、2022年4月5日から）

遺構・遺物

【遺構】 縄文時代後期：土坑7基、ピット3基、弥生時代前期：畦畔、弥生時代後期：溝1条
中世：鋤溝、ピット6基、近世～近代：鋤溝

【遺物】 総数10箱（27リットル容量の箱に換算して）〈内訳〉 土器・石器等

a. 調査地点の位置と経緯・経過

(1) 調査に至る経緯と調査地点の位置

岡山大学津島キャンパスでは、2021年度において複合施設（津島北）（仮称）の建設が行われることとなったため、発掘調査を行った。発掘調査地点は、津島北地区の中央やや東寄りに位置する（図1）。本調査地点のすぐ西側では、第28次調査によって、縄文時代後期の土坑やピット、弥生時代前期の畦畔、弥生時代中期中葉の溝、古代・中世の溝や耕作痕が確認されている¹⁾。また、東側では第31次調査によって縄文時代後期のピット状凹み、弥生時代前期の畦畔、古代の溝、中世以降の耕作痕が確認されている²⁾。

(2) 調査の経過

表土掘削は2021年11月16日～11月25日まで行い、〈3層〉（近代）上面まで下げた。発掘調査は11月26日から開始し、調査員2名が調査にあたった。層位ごとに調査を進め、〈3・4・5層〉（中世～近代）上面の精査において鋤溝を検出した。〈6層〉（古代～中世）は南側1/3程度を上面精査したが遺構は検出されず、また調査区四周の壁面にも遺構は見当たらなかった。そのため、残りの部分については遺構検出はせず掘り進めた。こうして〈7層〉（弥生時代後期以前）上面までの掘削を2月10日までに終了させた。〈7層〉上面では溝を検出した。3月に入り急遽、施設企画課から工程上一部先行して工事に入る必要が生じたとして協議を求められ、調査区南西の突出部について集中的に調査を行うこととなった。層位的に掘り下げと遺構検出を行い、〈9b層〉上面において南北方向の溝を検出した。その後〈12層〉上面まで掘削し、この場所の調査を3月24日に終わらせ、引き渡した。その他の場所も層位的に調査し、調査区南側では〈10層〉（弥生時代前期）上面において畦畔を検出した。

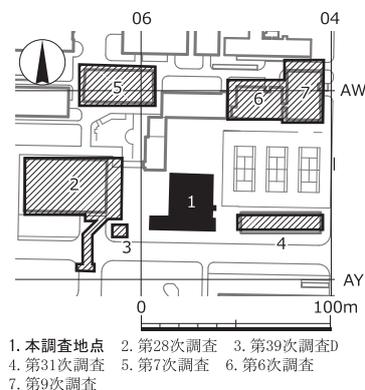


図1 調査地点の位置（縮尺1/4,000）

4月からは調査員3名体制とした。地形と遺構の記録を行った後、〈11層〉（縄文時代後期）上面まで下げた。遺構検出を行ったが遺構は確認できず、〈12層〉（縄文時代後期）上面まで下げ土坑やピットを検出した。その後、調査区の5地点に2×2mの範囲で深掘りを行った。遺物は確認されなかったが、土層の堆積状況を記録した。また、プラント・オパール分析等のために基本層序の土壌試料を採取した。2022年4月25日までにすべての作業を完了した。

現地説明会はコロナ禍ということもあり、広報は学内および近隣にとどめ、2日間行った。4月19・20日に開催し、47名の参加を得た。

b. 調査の概要

(1) 層序と地形

【層序】

本調査で確認された土層は16層に大別される（図2）。以下、各層の概要を記載する。

〈1層〉（近代）：本地区が1907～1908（明治40～41）年に陸軍駐屯地として造成された際の土である。標高は4.69～4.89mである。

〈2層〉（近代）：灰色砂質土で近代の耕作土にあたる。砂を多く含む。調査地点全面に確認でき、上面では鋤溝を検出した。上面の標高は、3.59～3.76mを測る。

〈3層〉（近代）：黄灰色砂質土で近代の耕作土にあたる。砂を多く含み、鉄分の強い沈着が観察される。調査地点全面で確認できる。上面の標高は、3.47～3.64mを測る。

〈4層〉（近世）：〈4層〉は、主に色調により2層に分層できる。〈4a層〉は、鉄分、マンガンをよく含む淡褐灰色の砂質土である。調査地点全面で確認できる。上面では鋤溝が確認できた。近世の耕作土と考えられる。上面の標高は、3.39～3.56mを測る。〈4b層〉は、鉄分、マンガンをよく含む淡黄褐灰色の砂質土である。調査地点全面で確認できる。上面では鋤溝が確認できた。近世の耕作土と考えられる。上面の標高は、3.33～3.49mを測る。

〈5層〉（中世）：淡黄褐灰色を呈する粘質土で鉄分、マンガン、砂を含む。調査地点全面で確認できる。中世と考えられる。上面の標高は、3.25～3.4mを測る。

〈6層〉（古代～中世）：淡灰色を呈する粘質土である。〈5層〉によく似るが、鉄分の沈着は少なく、しまりが非常に強い。調査地点全面で確認できる。古代～中世と考えられる。上面の標高は、3.1～3.26mを測る。

〈7層〉（弥生時代後期以前）：黄灰色を呈する粘質土である。鉄分の沈着が激しい。およそAXライン以南でのみ確認される。上面で弥生時代後期と考えられる溝を検出した。上面の標高は、2.96～3.12mを測る。

〈8層〉（弥生時代前～後期以前）：暗褐色を呈する粘質土で鉄分をよく含む。およそAX-40ライン以南でのみ確認できるが、⑤地点では確認できない。上面の標高は、2.79～2.94mである。

〈9層〉（弥生時代前～後期以前）：色調、包含物によって2層に分層できる。〈9a層〉は、淡黄褐色を呈する砂質土である。鉄分、マンガンを含む。上面の標高は2.72～3.01mである。〈9b層〉は、〈9a層〉とよく似る淡褐色を呈する砂質土であるが、〈10層〉をブロック状に含む。両層ともにAX-20～30以南でのみ確認できる。なお、この〈9b層〉は後述する〈10層〉上面で検出された畦畔に伴う耕作土と考えられる。上面の標高は2.63～2.96mである。

〈10層〉（弥生時代前期）：黒褐色を呈する粘質土であり、砂を少量含む。管状に鉄分が多く沈着しており、上層からの根の貫入が激しいことが観察される。調査区全面で確認でき、調査区南半ではその上面において畦畔を検出した。本層は、植物の影響による腐植土層であると考えられ、津島地区において「黒色土」と呼ぶ弥生時代前期の鍵層と考えられる。上面の標高は、2.59～2.97mである。

〈11層〉（縄文時代後期）：鉄分を帯びた淡茶褐色を呈する砂質土である。調査地点全面で確認できる。遺構は検

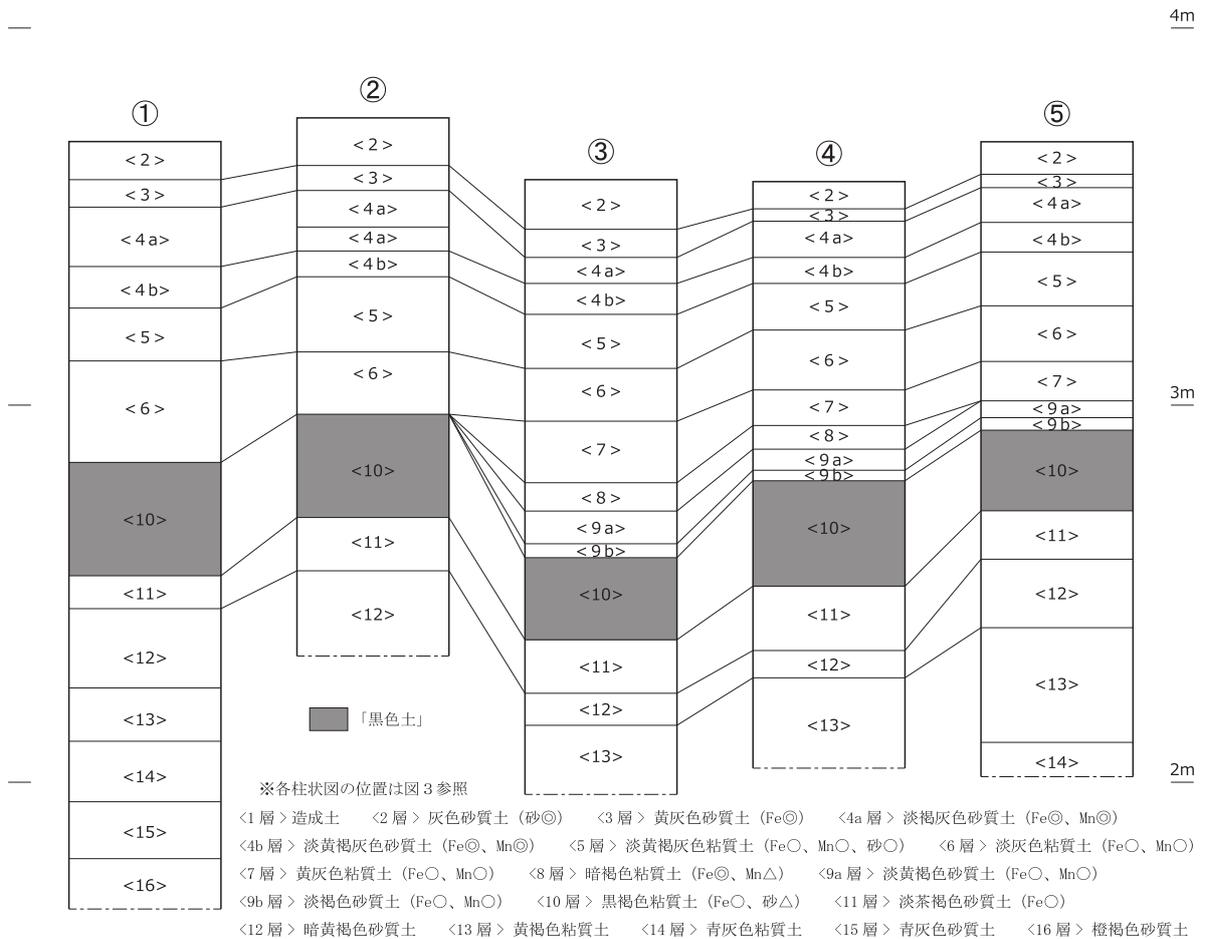


図2 土層柱状図 (縮尺1/20)

出できなかった。上面の標高は、2.38～2.72mを測る。

〈12層〉(縄文時代後期)：暗黄褐色～黄灰色を呈する砂質土である。細砂～微砂をよく含み、下層ほど微砂となる。調査地点全面で確認できる。上面において縄文時代後期と考えられる遺構を検出した。上面の標高は、2.24～2.59mを測る。

〈13層〉(縄文時代後期以前)：黄褐色を呈する粘質土である。上面の標高は、2.14～2.41mを測る。

〈14層〉(縄文時代後期以前)：青灰色を呈する粘質土である。①・⑤地点でのみ確認した。上面の標高は、2.11mを測る。

〈15層〉(縄文時代後期以前)：青灰色を呈する砂質土である。①地点でのみ確認した。上面の標高は、1.95mを測る。

〈16層〉(縄文時代後期以前)：橙褐色を呈する砂質土である。①地点のみ確認した。上面の標高は、1.8mを測る。

【地形】

縄文時代後期以前の堆積層である〈14層〉は①・⑤地点でしか確認できていないが、2.11mと同じ標高を示すため、少なくとも南北方向の傾斜はなかったものと考えられる。〈13層〉になると、南側では⑤地点が高く、③地点が最も低くなる。その比高は、0.27mを測る。北側では、②地点では不明だが、①地点ではほぼ④地点と同様の標高を示す。すなわち、この段階では東に向かって地形が下がっているようであり、南北方向の傾斜は観

察されない。縄文時代後期の遺構が検出される〈12層〉では、南側の③～⑤地点ではそれ以前と同様に東へ下がり、北側の①・②地点では西へ下がる。南北方向では、北が高く、南が低くなり、②・③地点の比高は0.31mを測る。この段階において、その後の地形を規定する特徴的な基盤が形成されるようであり、続く〈11～10層〉の地形も〈12層〉のものとは大きな変化はない。ただし、北側（①・②地点）の〈10層〉上面は、〈6層〉の造成によって削平されていると考えられることから、現状では0.38mある南北方向の高低差はもっと大きかった可能性がある。〈10層〉上面で検出された畦畔は、こうした地形を巧みに利用し、本調査地点南側の最も標高の低い部分に形成されたものと考えられる。

〈8～7層〉は、南側の低位部を埋めるように堆積しており、地形の起伏が次第に減じていく過程が示される。その詳細な時期と要因は現時点では定かではないが、弥生時代後期までの間に進行したものと考えられる。なお、北側の〈7層〉は〈6層〉の造成によって削平を受けているものと考えられることから、本来は南北に緩やかな傾斜がついていたものと考えられるが、その程度は不明である。古代～中世の遺物が含まれる〈6層〉では、南北方向の傾斜はほとんど解消されており、南側において東に向かって下がるという地形特徴がわずかに看取される程度である。その後、〈5～2層〉においても基本的に〈6層〉時の地形が継続し、近代に至る。

(2) 調査成果 (図3)

【縄文時代後期】

〈12層〉上面において土坑7基とピット3基を検出した。北側の土坑2基には焼土が確認されたが、南側の土坑には出土遺物等はなかった。

【弥生時代前期～後期】

弥生時代前期では、AX-30ライン以南の〈10層〉上面において畦畔を検出した。小区画の畦畔であり、最も標高の低い南東部ほど残りがよい。また、〈9b層〉上面において、南北方向に走る溝（SD3）を検出した。水路と

考えられるが、他に遺構は確認できなかった。

〈7層〉上面では東西方向に走る溝（SD1）を検出した。出土遺物から弥生時代後期の可能性がある。

【古代～近代】

古代の遺構は確認できない。中世に至り、溝（SD2）とピットを確認した。また、南北方向の鋤溝を〈5～2層〉上面においてそれぞれ確認した。

c. まとめ

本調査地点では、遺構・遺物の検出がわずかではあったが、隣接する第28・31次調査間の地形および人間活動について面的に明らかにすることができた。

縄文時代後期の活動痕跡は希

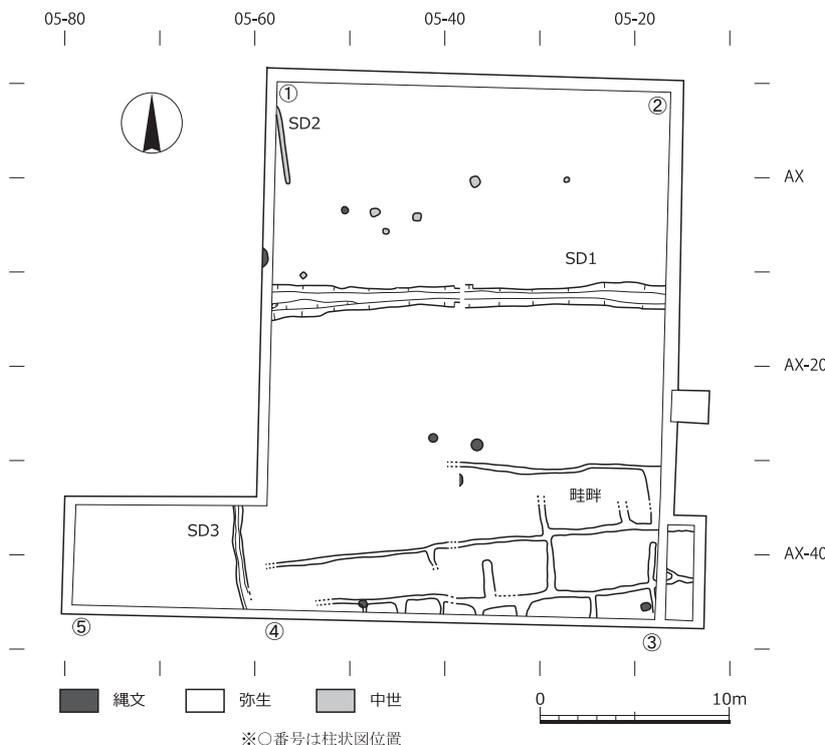


図3 遺構全体図 (縮尺1/400)

薄であることから、本調査地点は集落縁辺部に当たるものと考えられる。弥生時代前期には低位部に畦畔がつくられていることが判明し、既往の調査成果を補強する成果となった。なお、畦畔については、各層の土壌サンプルを採取しているため、今後プラント・オパール分析や花粉分析を行う予定である。中世以降では、鋤溝が多く検出されたことから、本調査地点が耕作地へと変化したことが明らかとなった。

なお、以上の内容は整理途中の暫定的なものであり、詳細な分析・検討を経て後日正式報告を行う。

(山口雄治)

【註】

- 1) 岩崎志保編2008『津島岡大遺跡18』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 2) 岩崎志保2010「津島岡大遺跡第31次調査（福利厚生施設東棟新営）」『紀要2008』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

2. 鹿田遺跡第29次調査（先端治療・臨床検査センター予定地；鹿田地区BW36～CB44区）

調査期間 2021（令和3）年7月12日～12月14日
 造成土除去：7月12～28日、発掘調査：8月2日～11月18日
 基礎撤去部立会：11月19日～12月14日（随時）

調査面積 584m²、基礎部分63.7m²

調査担当 野崎貴博（助教、主任）、山口雄治（助教）

遺構・遺物

【遺構】 弥生時代：土坑6基、溝9条、中世：土坑8基、溝11条、ピット176基、近世：土坑7基、溝1条

【遺物】 総数28箱（27リットル容量の箱に換算して）

〈内訳〉土器・石器・礎石等（弥生～近世）20箱

木製品・骨等8箱

a. 調査地点の位置と経緯・経過

(1) 調査に至る経緯

2020年、岡山大学では、民間事業者の資金と経営能力等によって、整備、維持管理および運営を委ねるPFI（Private Finance Initiative）という手法を用い、最新装置による高度画像診断と先進的放射線治療、最先端機器・技術による高精度で迅速な検査結果の提供、医学研究や新薬開発のためのオープンラボスペース整備を目的とした先端治療・臨床検査センターの建設が計画された。

(2) 調査地点の位置（図4）

建設予定地は鹿田地区のほぼ中央に位置し、鹿田地区に設定した構内座標では、BW36～CB44区にあたる。周辺の既調査区は、北に第1・5次調査地点、北西に第13次調査地点、西に第7・17次調査地点が位置する。特に、南東に隣接する中央診療棟から病棟にいたる範囲では、6次10回（第9・11・14・18・20・25次）にわたって発掘調査が実施され、その調査面積の合計は12,000m²を超える。ここでは、弥生時代後期の水田、中世の屋敷地などが検出され、こうした遺構の広がりには本調査地点でも確認されることが予想された。

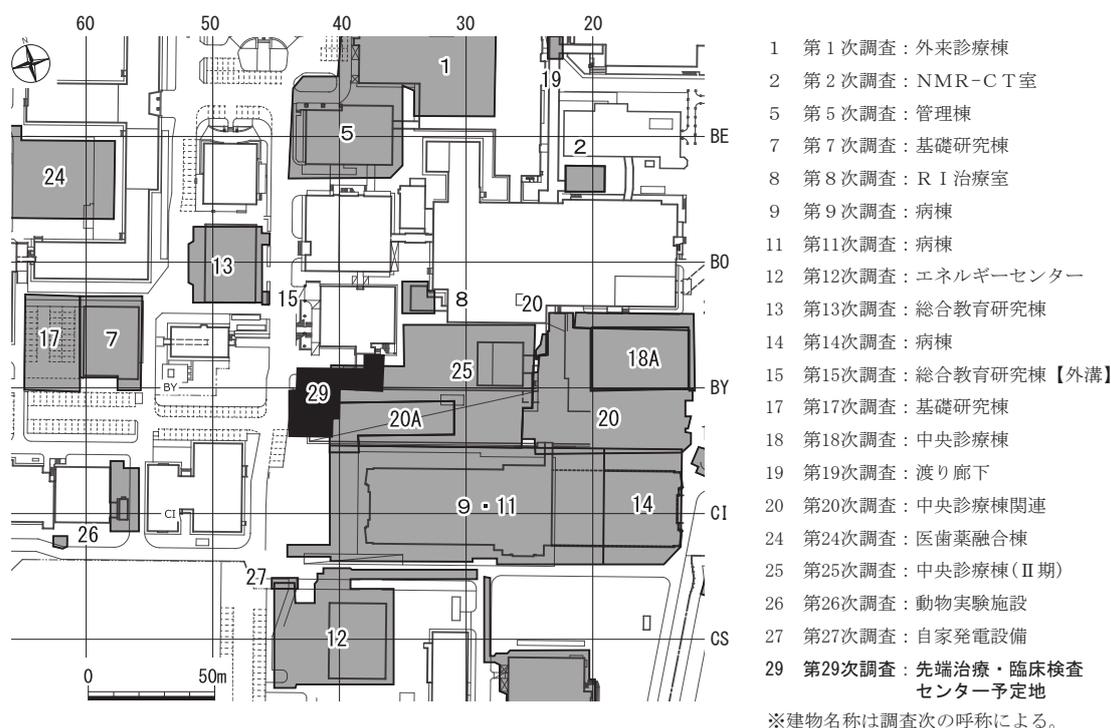


図4 鹿田地区発掘調査地点(縮尺1/3,000)

(3) 調査の経過

施設整備計画は2021年になり具体化し、7月から実施することが決定した。発掘調査に先立ち、2021年7月12～28日の期間で、重機により近現代の造成土と攪乱埋土を除去した。また、調査区南東には既調査区が重複しており、造成土除去とあわせて埋め戻し土を撤去した。なお、調査区南西部には、旧東西病棟建設時に構築された南北2列のコンクリート基礎があるが、これらは発掘調査終了後に撤去し、立会調査で対応することとした。

発掘調査は岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの調査員2名を担当者として8月2日より開始した。まず調査区内の攪乱清掃および周囲の側溝掘削を行い、以降、調査区四周の断面の観察により分層した基本層序にしたがって下位の土層へと掘削をすすめ、〈3層〉、〈4層〉、〈8層〉上面で遺構検出のための精査を実施し、遺構を検出した。

調査区四周の断面観察では、〈9層〉以下に遺構はなく、遺物も出土しなかった。これは周辺調査区の成果とも矛盾しなかったため、〈8層〉が弥生時代の基盤層であると判断し、必要な記録と土壌サンプルをとったうえで、11月18日に発掘調査を終了した。

なお、本調査区では一部で土壌汚染が確認されており、粉塵飛散防止のためベルトコンベアは使用できなかった。排土の処理にはフレキシブルコンテナバック(1t)を用い、クレーンにより吊り上げて調査区外へ搬出した。出土遺物についても汚染土が付着している可能性があり、そうした土壌を外部に持ち出さないようにするため、現地で洗浄作業を実施した。

11月19日からは、調査区南東において、南北2列にのこされたコンクリート基礎について、重機で圧砕したうえで、基礎を支えるコンクリート製パイル(φ0.3m)の間にのこる遺構の有無を確認する目的で立会を実施した。その結果、2か所で中世の東西方向の区画溝および溝にともなう遺物を検出した。すべての基礎の下位の状況を確認した12月14日に本調査に係るすべての作業を終了した。

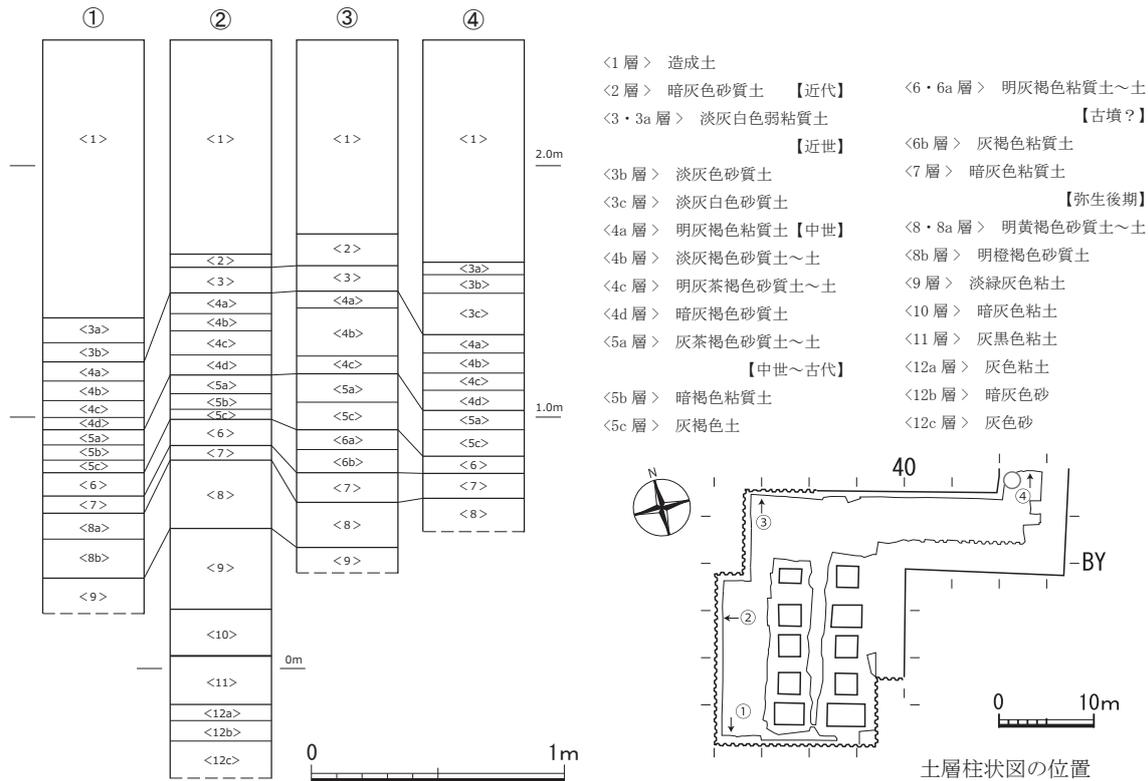


図5 土層柱状図（縮尺1/30・400）

b. 調査の概要

(1) 層序と地形（図5）

本調査区で確認された土層は12層に大別される。このうち<10層>～<12層>は調査区西辺中央に設定した約1.5m四方の深掘りトレンチで確認した土層である。以下、各層の概要を記載する。なお、土層の時期を判定する手掛かりとなる遺構・遺物の少ない層については、隣接する第20・25次調査地点の調査成果も参照して時期を推定している。

<1層> 近代以降、現代にいたるまでの造成土である。現地表面の標高は約2.4～2.5m、層厚0.77～1.1mである。

<2層> 暗灰色砂質土で、鉄分の沈着が著しい。礫・砂・粘土ブロックを多く含む。岡山医科大学の造成が開始された1922（大正11）年よりも前の耕作土で、上面の標高は1.64～1.73m、層厚0.06～0.13mである。

<3層> 淡灰白色を基調とする色調の土層で、部分的に3層に細分される。出土遺物に近世陶磁器を含んでおり、近世の土層と考えられる。

<3a層> 淡灰白色弱粘質土で、鉄分の沈着が少ない。土器小片を多く含む。検出した遺構・遺物から、近世の土層と位置づけられる。上面の標高は1.4～1.62m、層厚0.05～0.1mである。

<3b層> 淡灰色砂質土で、鉄分の沈着が少ない。上面の標高は1.3～1.57m、層厚0.07～0.08mである。

<3c層> 淡灰白色砂質土で、鉄分の沈着が少ない。上面の標高は1.5m、層厚0.17mである。

<4層> 部分的には4層に細分される。いずれの細分層にも焼土・炭・ブロック等の包含がみられることから、中世段階の造成土と考える。

<4a層> 明灰褐色粘質土で、鉄分の沈着がみられ、小礫、炭をわずかに包含する。上面の標高は1.22～1.5m、層

厚0.07～0.08mである。

〈4b層〉 淡灰褐色砂質土～土で、鉄分の沈着が著しい。焼土小片、炭小片をわずかに含む。淡黄色粘土ブロック（φ 2～3 cm大）を包含する。上面の標高は1.15～1.44m、層厚0.06～0.18mである。

〈4c層〉 明灰茶褐色砂質土～土で、鉄分の沈着が著しい。焼土小片、炭小片をわずかに包含する。上面の標高は1.06～1.34m、層厚0.07～0.1mである。

〈4d層〉 暗灰褐色砂質土で、鉄分の沈着、マンガンの凝集がみられる。焼土塊（φ 1～5 cm大）、黄色粘土ブロック（φ 3 cm大）の包含が顕著に認められ、炭小粒の包含も認められる。そのほか土器小片も多く包含する。上面の標高は1.0～1.25m、層厚0.05～0.08mである。

〈5層〉 灰褐色の色調を基調とするが、部分的に暗褐色粘質土（〈5b層〉）を挟んでおり、3層に細分される。遺物の出土は少ないが、古代の土器を包含しており、古代から中世の土層と考えられる。

〈5a層〉 灰茶褐色砂質土～土で、鉄分の沈着がみられ、マンガンの凝集が顕著である。焼土・炭小粒をわずかに含む、淡黄灰色砂ブロック（φ 1～2 cm大）、淡灰白色砂の包含がみられる。上面の標高は0.95～1.17m、層厚0.06～0.11mである。

〈5b層〉 暗褐色粘質土で、調査区西南の範囲に堆積が認められる。鉄分の沈着、マンガンの凝集はわずかで、黄色砂ブロック（φ 1～2 cm大）をわずかに含む。上面の標高は0.89～1.1m、層厚0.06mである。

〈5c層〉 灰褐色土で、鉄分の沈着はわずかであるが、マンガンの凝集が顕著にみられる。淡灰白色砂を包含する。上面の標高は0.83～1.05m、層厚0.04～0.11mである。

〈6層〉 部分的には2層に細分される。上下の層の時期から、古墳時代を主とした土層と推測される。

〈6a層〉 明灰褐色粘質土～土で、鉄分の沈着が顕著にみられ、マンガンの凝集も認められる。白色砂が厚さ1～2 cmの厚みでラミナ状に堆積し、黄褐色粘土ブロック（φ 1～2 cm）の包含が認められる。上面の標高は0.78～0.99m、層厚0.06～0.1mである。

〈6b層〉 灰褐色粘質土で、鉄分の沈着が顕著にみられ、マンガンの凝集も認められる。黄褐色砂ブロックを含む。上面の標高は0.87m、層厚0.1mである。

〈7層〉 暗灰色粘質土で、鉄分の沈着が顕著にみられ、マンガンの凝集はわずかである。下位の〈8層〉を起源とする黄褐色砂質土ブロック（φ 1～2 cm）を包含する。遺物の出土はわずかであるが、弥生時代後期の土器を包含している。周辺調査区との対応関係もあわせ、弥生時代後期から古墳時代初頭の土層と考えられる。上面の標高は0.69～0.89m、層厚0.05～0.12mである。

〈8層〉 部分的には2層に細分される。弥生時代後期の基盤層と考えられる。

〈8a層〉 明黄褐色砂質土～土で、鉄分の沈着が顕著にみられる。しみこみ状の灰～明灰色粘土ブロックを含む。上面の標高は0.52～0.83m、層厚0.1～0.27mである。

〈8b層〉 明橙褐色砂質土で、〈8a層〉よりも鉄分の沈着が顕著にみられる。上面の標高は0.51m、層厚0.16mである。

〈9層〉 淡緑灰色粘土で、鉄分の沈着が顕著である。本層以下は無遺物層となる。上面の標高は0.36～0.56m、層厚0.32mである。

〈10層〉 暗灰色粘土で、鉄分の沈着がわずかにみられる。砂を包含する。上面の標高は0.24m、層厚0.19mである。

〈11層〉 灰黒色粘土で、砂を包含する。上面の標高は0.05m、層厚0.2mである。

〈12層〉 3層に細分される。

〈12a層〉 灰色粘土で、砂の包含が顕著である。上面の標高は-0.14m、層厚0.06mである。

〈12b層〉 暗灰色砂で、炭化した植物遺体を含む。上面の標高は-0.21m、層厚0.08mである。

〈12c層〉 灰色砂である。湧水のため、詳細は観察不能であった。上面の標高は-0.29m、層厚0.15m以上である。

地形は、各時期を通じて、おおむね柱状図②・③のある調査区北西部が高く、東・南が低い。詳細にみれば、弥生時代後期には柱状図②部分が最も高く、そのほかはほぼ等しい標高であるが、古墳時代から古代にかけて調査区北西部（柱状図③）の土層が厚みを増し、一段高くなる範囲が広がっていく。中世段階の造成と考える〈4層〉の段階でも調査区東・南との高低差は保たれたままであるが、これは造成の時期、土地利用の在り方とも関わっていると考えられる。近世には調査区東側の高さが増し、北半部はほぼ平坦化するものの、南半部の高低差は残っている。

(2) 遺構

①弥生時代（図6）

〈8層〉上面で土坑6基、溝9条を確認した。また、溝に沿って帯状の高まりや弧状のカーブをもつ高まりを確認した。

土坑は調査区西半部に点在する。いずれも直径約0.6～0.8mの円形や楕円形の平面形を呈するものである。残存する深さは約0.1～0.25mである。埋土はいずれも暗灰色粘質土を基調とするものであり、〈7層〉を起源とするものと考えられる。

溝は高まりに沿って掘削される。いずれも幅約0.35～0.7m、残存する深さ約0.1～0.2mである。埋土はいずれも暗灰色粘質土を基調とするものであり、〈7層〉を起源とするものと考えられる。隣接する第25次調査地点でも同様の溝が検出されており、本調査区の38・39ライン間の2条の溝は第25次調査地点の溝7・8に接続する¹⁾。

土坑・溝からは、遺物はほとんど出土していない。埋土の特徴や第25次調査地点の溝との関係から弥生時代後期の所産と推測される。

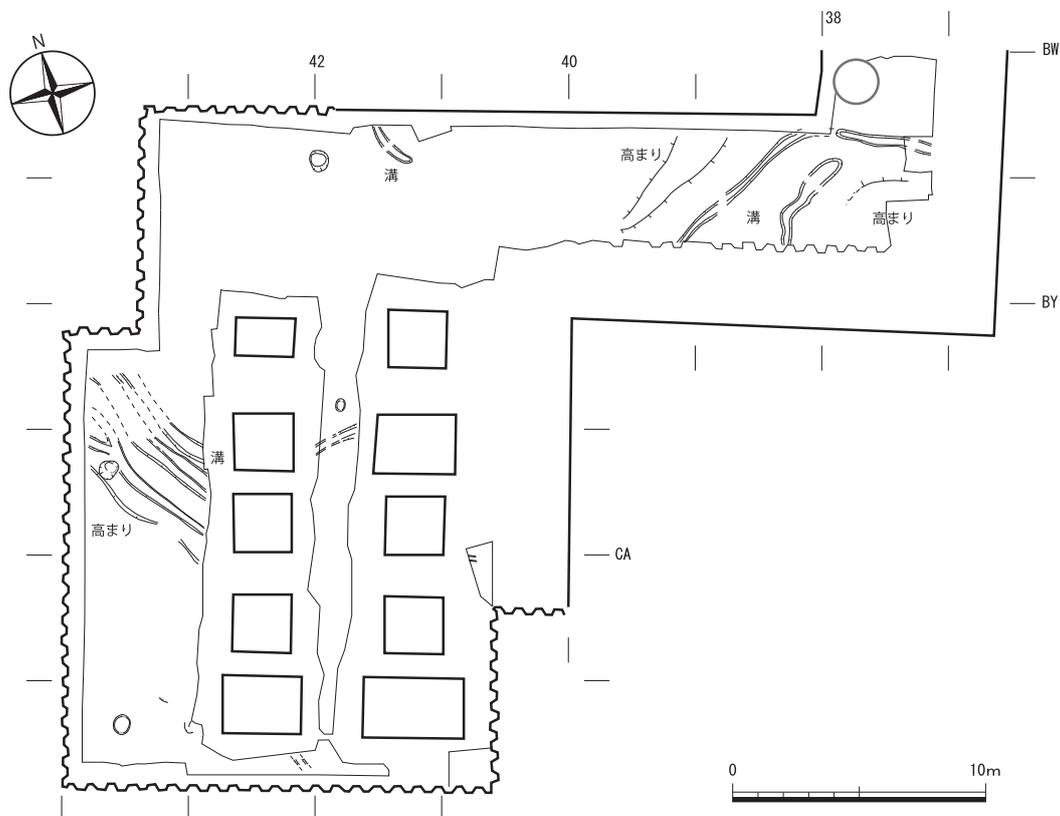


図6 弥生時代後期の遺構全体図（縮尺1/300）

こうした溝と帯状や弧状のカーブをもつ高まりで構成される空間は、本調査区の南東に広がる第9・11・12・14・20・25次調査地点で確認されており、畦畔や島状高まりをともなう水田と考えられている²⁾。こうした理解が正しければ、本調査地点にも弥生時代後期の水田が広がることとなる。

②中世 (図7～9)

〈4層〉で井戸2基、土坑6基、溝11条、ピット176基を検出した。

検出した溝のうち、調査区東端の南北溝、BYラインに沿う東西溝、CBラインに沿う東西溝の3条は区画溝とみられる大規模な溝である。このうち、調査区東端の南北溝(区画溝1)は第25次調査地点で検出された溝40の西側の上端にあたる。CBラインに沿う東西溝(区画溝3)は第20次調査A地点の溝42に接続する可能性が高い³⁾。BYラインに沿う東西溝(区画溝2)は、幅約3m、深さ約1.5mをはかり、断面はV字形を呈している(図8)。また、42・43ライン間では複数の南北溝が検出された。この範囲内において確認された南北方向の遺物集中域は、掘り方を確認できなかった溝の可能性が高く、その場合、この範囲に4条の南北溝が繰り返し掘削されたことになる。

溝からは中世の土器・陶磁器が出土した。今後、時期の詳細な検討を行う必要があるが、中世後半段階のものが主体を占めている。この傾向は第25次調査地点の溝40、第20次調査A地点の溝42の時期と矛盾しない。

土坑・ピットのほとんどは区画溝2の北側で検出されている。この区画溝2が屋敷地の区画溝で、その北側に屋敷地が展開していたことを示唆する。ピットには礎石・礎板を伴うものも多く検出されたが、建物を構成する柱穴群は抽出できていない。

井戸は調査区東端で1基、南端で1基を確認した。東端の井戸は上部を攪乱で失っていたが、位置的には区画溝1の掘り方と重複する。井戸内からは13世紀に位置づけられる土師質土器碗や瓦器碗が出土しており(図9)、

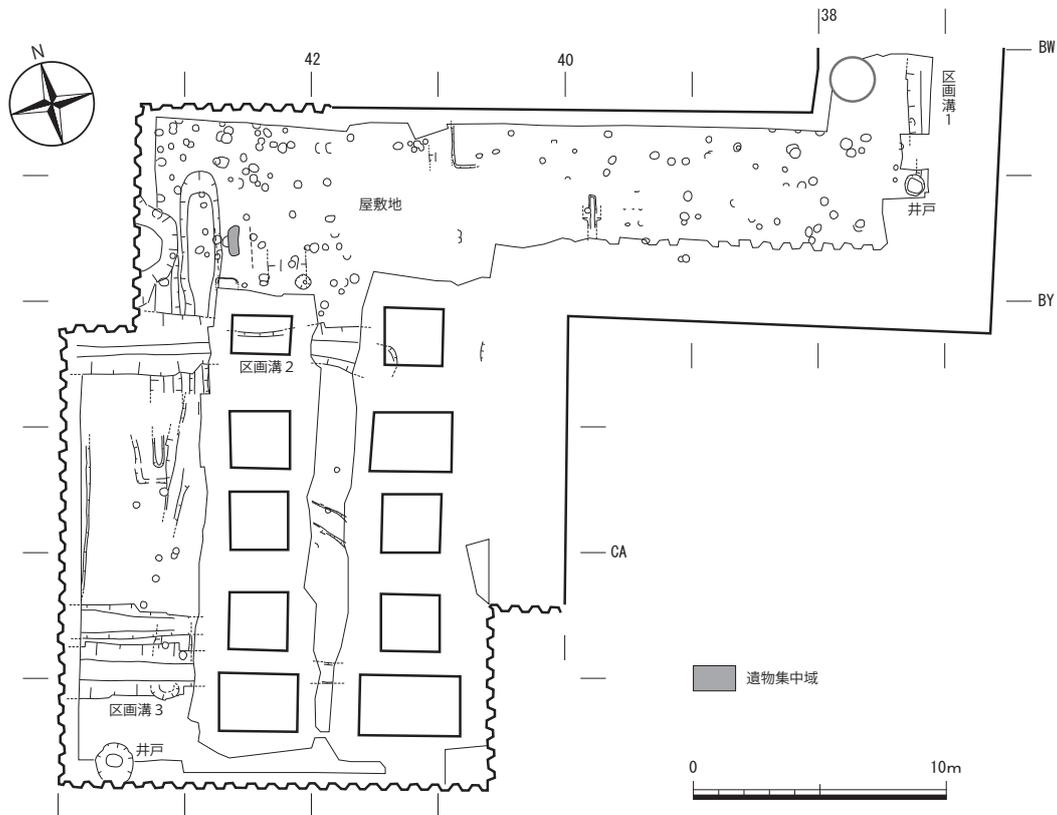


図7 中世の遺構全体図(縮尺1/300)



図8 室町時代の区画溝2



図9 鎌倉時代の井戸と遺物の出土状況

出土遺物からは井戸が溝に先行して構築されたことが明らかとなった。なお、これらの遺物は数段階に分けて埋置されており、祭祀行為に伴うものと考えられる。一方、調査区南端の井戸では立位状態で竹管を検出した。そのほか、僅少であるが中世後半と考えられる土器のほか、木製椀が出土した。

本調査地点の遺構の時代的な分布をみると、調査区東端の井戸のみが鎌倉時代（13世紀）に位置づけられ、ほかはすべて中世後半段階に位置づけられる。隣接地である第9・11、20、25次調査地点では、中世前半期・後半期の屋敷地が確認されているが、本調査地点では東端の井戸1基をのぞき、すべてが後半期の遺構で構成されている。このことから、本調査地点は、中世前半期には未利用であったものが、後半期に入ってから新たに区画溝が掘削され、屋敷地が形成されるなどの土地利用が開始されたものと評価される。

③近世（図10）

〈3層〉で土坑7基、溝1条を検出した。

溝は調査区東辺を南北方向に走行するものであり、第25次調査地点の溝43に連続するものである⁴⁾。中世段階の大型の区画溝である南北溝と重複する位置にあり、近世段階にも区画が踏襲されたことを示すものと評価される。

土坑は、南北溝に沿って3基、調査区西半で3基が確認された。西半の2基は旧東西病棟建築時の攪乱により破壊されている。調査区東側の土坑はすべて円形で、木枠を内包するもの1基が含まれる。調査区西辺の土坑は隅丸方形1基、円形と推測されるもの1基、隅丸方形あるいは長楕円と推測されるもの1基である。

調査区東側の土坑群については、南に隣接する第20・25次調査地点においても南北溝に沿う位置に土坑群が検出されており、同様に区画溝に沿って構築されたものと考えられる⁵⁾。

検出面および周辺調査区の成果から、これらの遺構の時期は近世と考えられる。

c. まとめ

本調査区では弥生時代後期の水田と考えられる高まりおよび溝群、中世後半を主体とする屋敷地を構成する遺構が確認された。

弥生時代後期の溝は、地形の高まりと低位部を画する位置に沿って掘削されている。隣接する既調査区では、

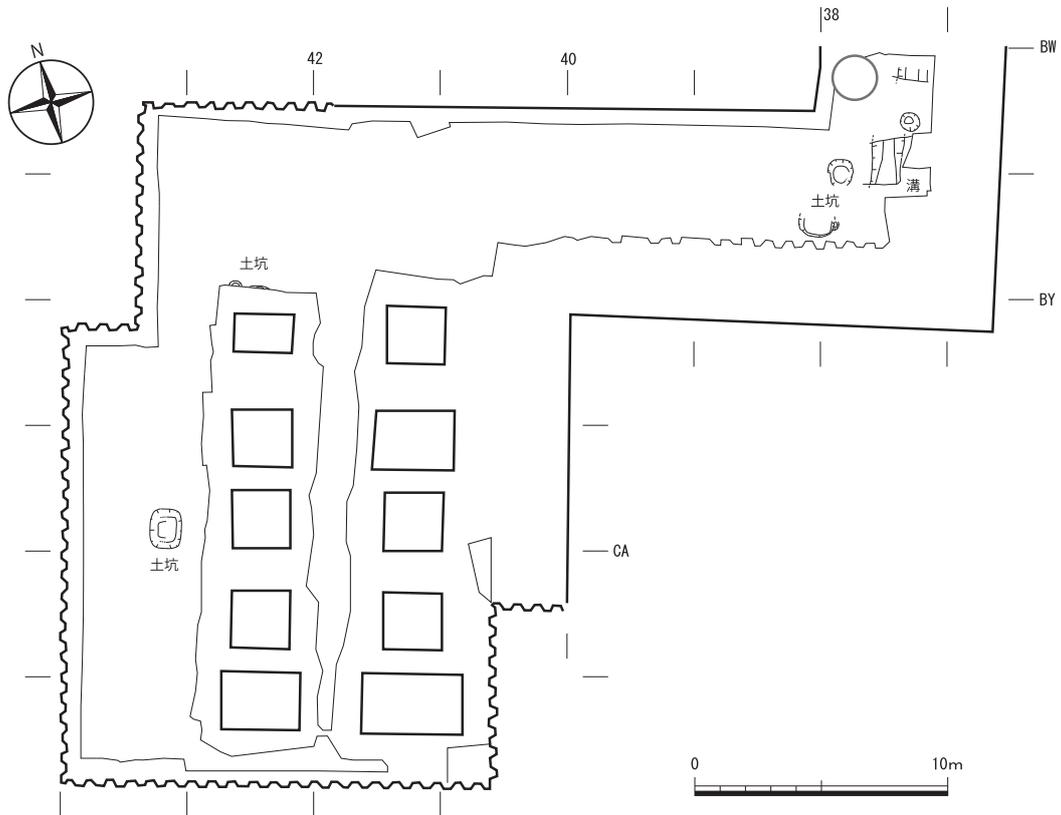


図10 近世の遺構全体図（縮尺1/300）

こうした溝は水田耕作に伴う給排水の水路としての機能が想定されてきた。同様の機能を想定すれば、本調査区にも水田が広がることを示すものと評価される。ただし、水田と考えている領域の土壌については、自然科学的分析を経ておらず、今後、多角的な分析を総合したうえで土地利用状況を考察する必要がある。本調査区でのサンプリングは、こうした状況を考慮して実施したものである。

中世の屋敷地については、本調査区の南東に広がる調査区では、中世前半・中世後半の屋敷地が確認されているが、中世前半の屋敷地は、本調査区までは広がりを見せず、当該期には未利用地であったことが明らかとなった。中世後半に入り、新たに区画溝が開削され、屋敷地が形成されており、既調査区での調査成果もあわせた集落の変遷を考えるうえで新たなデータをくわえるものとなった。

なお、以上の概要報告は暫定的なものであり、正式な報告は整理作業後に行うものとする。（野崎貴博）

註

- 1) 山口雄治編2018『鹿田遺跡12』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第34冊
- 2) 山本悦世編2017『鹿田遺跡10』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第32冊
- 3～5) 前掲註1

第2節 立会調査の概要

1. 実施状況

津島地区で13事業37件、鹿田地区で4事業19件の立会調査を行った（表1・2）。このうち、津島地区調査番号5-1については岡山市教育委員会が実施した。本節では、中世層以下の包含層を確認した調査番号2、3（津島地区）、2～5（鹿田地区）について報告する。（野崎）

2. 津島地区

a. ライフライン再生にともなう樹・配管工事（津島地区：調査番号2、AU07～AX06区）

(1) 調査地点の位置（図11）

本調査地点は津島北地区東半部に位置する。工事箇所は工程にしたがって複数の経路として設定されている。教育学部から東門周辺では、複数の経路がそれぞれ独立して設定されている。工学部周辺では、校舎間を縫うように経路が設定され、それぞれの経路は起点となる樹を共有しながら樹枝状に分かれている。ここでは、地形復元に有益な成果のあった経路、中世以前に遡る包含層を確認した経路について報告する。なお、表1および柱状図では樹番号と経路番号を併記した。

(2) 調査成果

①層序（図12・13）

本工事にともなう立会調査で確認された層序は、津島地区でこれまでに実施された発掘・試掘・立会調査から得られた、縄文時代から近現代にいたる各時代の基本層序におおむね一致している。しかし、経路ごとに樹間の距離が大きいものや、掘削の深浅があるものがあり、細別層では土層の連続が追えていない。また、湿地や丘陵を示す局地的な土層があったり、土層自体にも土色・土質の漸移的变化がみられたりするなど、多様な土層の様相が確認されており、全経路を包括した土層の説明をすることは難しい。

そこで土層註記はまとまりのある経路ごとに示す。各土層は、津島地区で広く確認される基本層序をローマ数字によって示し、アラビア数字による各層の細別番号と組み合わせて表記した。湿地や丘陵の地層はアルファベットとアラビア数字を組み合わせて報告する。冠するローマ数字、アルファベットが示す内容を以下に示す。
I：造成土、II：近代の土層、III：近世の土層、IV：中世の土層、V：古代の土層、VI：弥生～古墳時代の土層、VII：弥生早～前期の土層、VIII：縄文時代の土層、A：湿地状堆積、B：丘陵裾部の花崗岩地山。このほか、遺構埋土は、番号にSを冠することとする。なお、VII層は津島地区では「黒色土」と呼称している、上面が弥生時代前期に相当する鍵層である。各経路の土層の詳細は柱状図の土層註記を参照いただきたい。

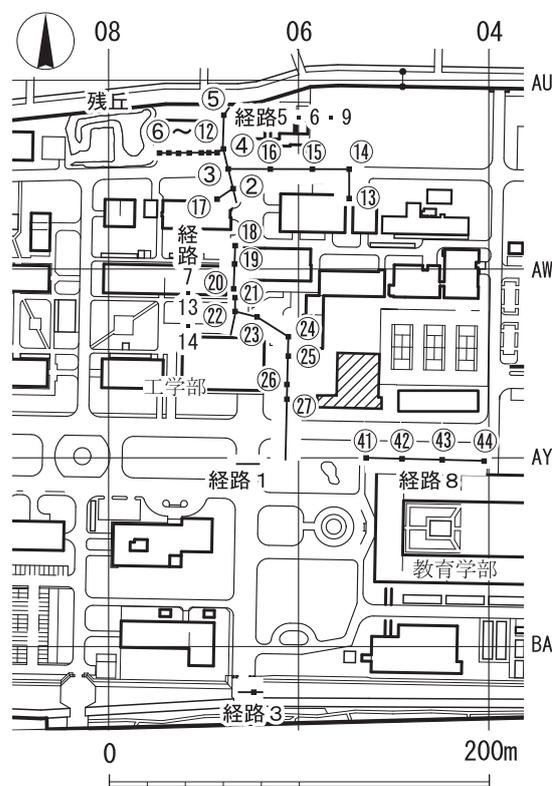


図11 調査地点の位置（縮尺1/4,000）

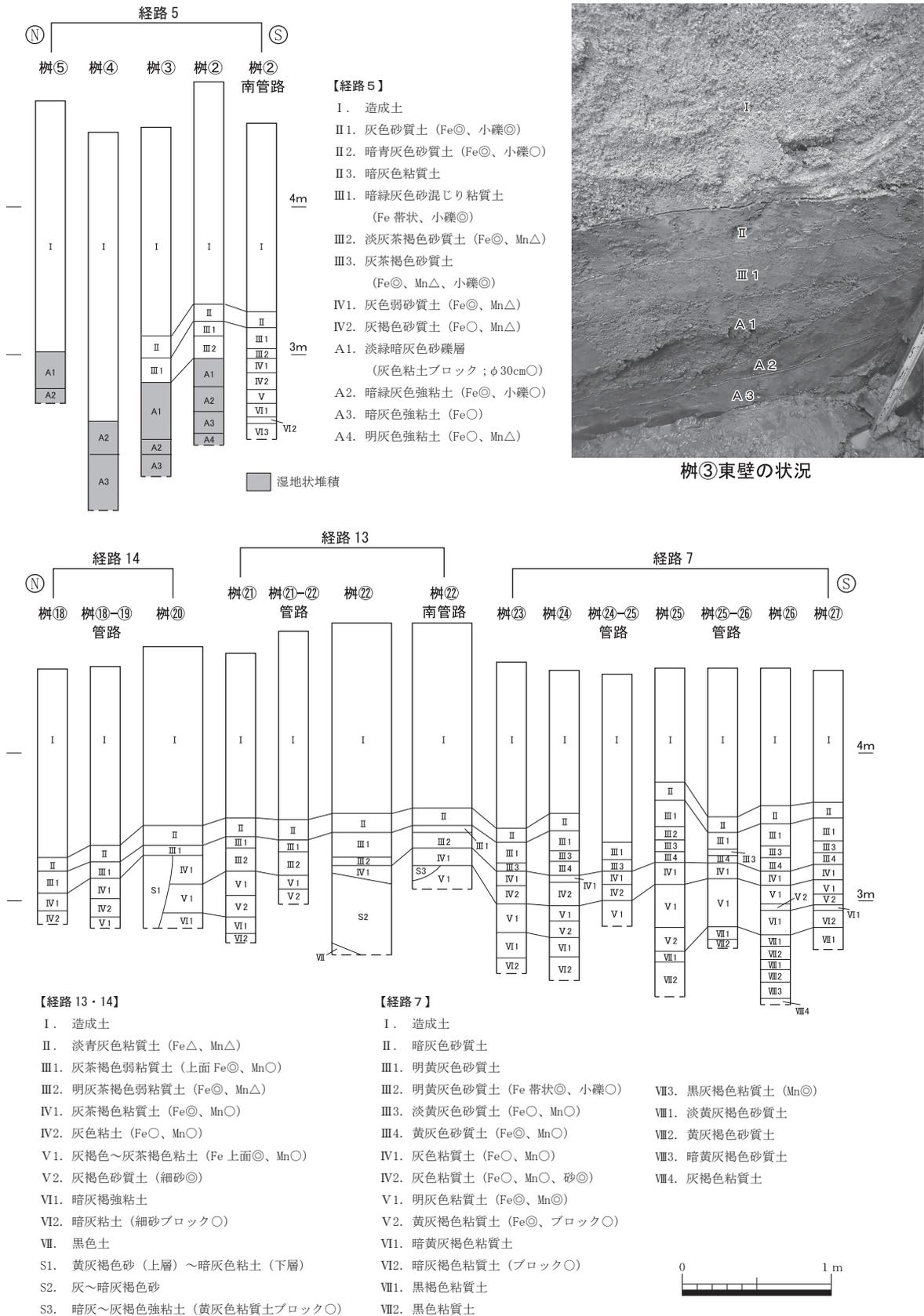


図12 土層柱状図 (南北方向) (縮尺1/40)

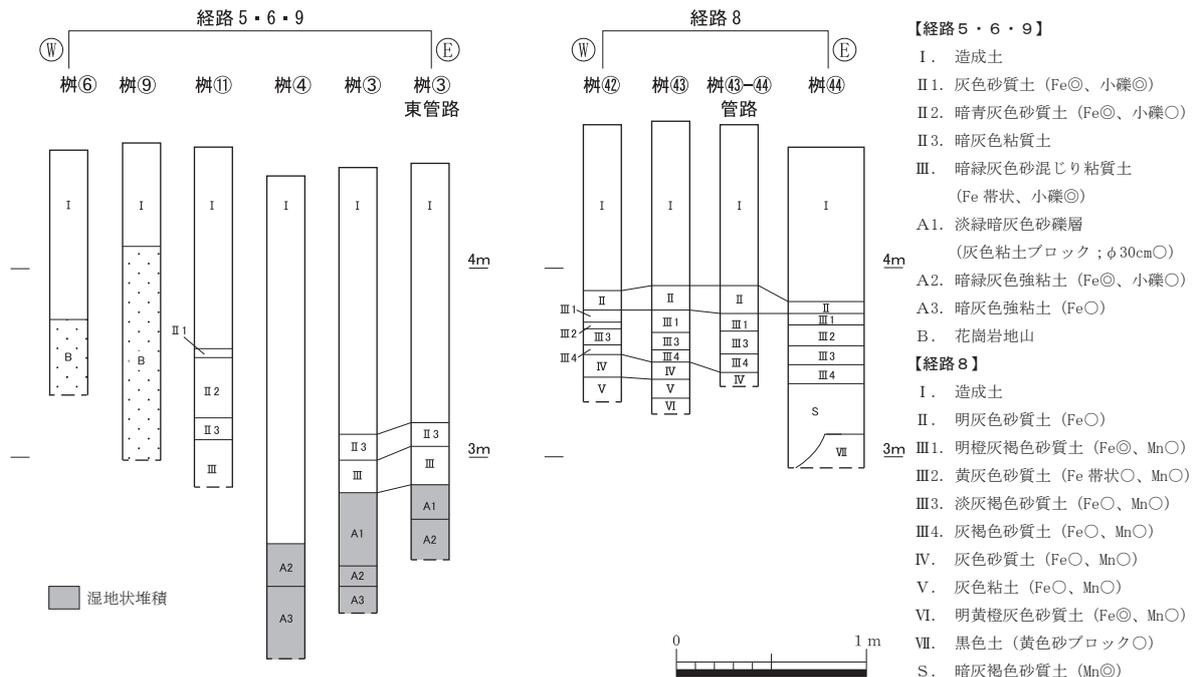


図13 土層柱状図（東西方向）（縮尺1/40）

②地形

本報告では、地形の変化を把握するため、図12・13では、南北方向に管路が設定された経路5・14・13・7と東西方向に設定された経路5・6・9および経路8に分けて柱状図を配した。

経路5（図12上） 津島北地区北辺から南北にのびる約30mの区間である。最北端の柵⑤から柵②の間では、近世層の下面以下において、暗緑灰色～暗灰色の粘性の強い粘土層が厚く堆積していることが確認された。柵②の南側管路では弥生～古墳時代以降の各時代の包含層が検出されており、津島北地区北辺には湿地状の地形が幅約30m以上にわたって広がっていることが推測される。

経路14・13・7（図12下） AWライン北からAYラインまで、一部で屈曲するものの、南北方向に約140mにわたって掘削した区間である。このうち、北半部にあたる経路14・13では、古代～近代の包含層は北から南にむかって標高を増している。また、古代・中世にあたる土層では柵②で溝または流路とみられる堆積が確認された。AWラインは古代の条里の坪境にあたる位置で、津島岡大遺跡では大規模な溝が掘削され、中世においても規模は縮小するものの、溝が踏襲されているので、こうしたものを確認したと考えられる。南半部にあたる経路7では、標高2.65～2.8mで「黒色土」が確認された。柵②6では縄文時代の土層も確認されており、南に向かって地形が高まることを示す。これは西に隣接する28次調査地点の成果¹⁾とも合致している。

経路5・6・9（図13左） 経路6・9は経路5の柵③・④を經由して東西方向に連結する。長さ約100mの経路である。西端の柵⑥の西には、津島地区北側に控える半田山山塊から南北方向に延びる尾根の先端部が残っており、柵⑥・⑨では造成土直下に花崗岩質の地山が確認された。近世・近代の耕作土が確認された柵⑩を挟み、東側に連結する経路5の柵③・④と柵③から東に延びる経路9の管路では、先述した近世層下面から暗緑灰色～暗灰色の粘性の強い粘土層が厚く堆積しており、湿地状の地形が東へも広がることを予測させる。

経路8（図13右） 教育学部北辺に沿い、東西に設定された長さ約65mの経路で、第39次調査D地点に接続する。堆積状況は第39次調査D地点²⁾と同様で、各層上面の起伏は小さく、ほぼ平坦な地形をなす。

(3) まとめ

本調査では、津島北地区北辺から中央では、07ライン沿いで南北方向、津島北地区北辺では、おおむねAVラインに沿う東西方向の地形復元データを得ることができた。

南北方向では、北辺から幅約30m以上の湿地状の地形の広がり、やや高まったAWラインで古代の条里溝の可能性ある堆積、掘削深度の大きい経路7において、縄文・弥生時代の段階で北から南に高まる地形を確認した。

北辺では東西方向の地形を確認した。08ラインの位置に、半田山山塊から南へ延びる尾根残丘があることは図11上でも現認できるが、地下ではこの残丘よりも約20m東まで花崗岩地山が延びていることが確認された。さらに07ラインより東では中世のものと考えられる湿地状の地形が広がる。東への広がりを復元できるデータは得られていないものの、半田山山塊から南北に延びる幾筋かの尾根地形を勘案すると湿地状の地形はさらに東に延びることが予測される。

半田山南山麓には、『源平盛衰記』や『平家物語』に「福輪寺阡」あるいは「福輪寺繩手」として記載される東西方向の道があったことが知られている³⁾。福輪寺繩手は中世の山陽道の一部をなすと考えられている道で、『平家物語』では、繩手の左右（南北）が深田であったと記されている。福輪寺繩手の位置を考察した土井基司は、津島北地区を東西に通る条里の溝に沿って福輪寺繩手が走っていた可能性が強いことを指摘している⁴⁾。今回の立会調査の結果、半田山の山裾から本地点までの間は尾根と湿地が交互に入り組む地形であったことがより明確になった。これにより、福輪寺繩手が直線道路として計画・敷設されていた場合、繩手の位置は経路5・6・9よりも南で、条里溝より北側の幅約40mの範囲に絞り込むことが可能となり、土井の指摘の蓋然性が高まった。文献の描写とも合致する景観が確認されたことも土井の指摘を補強するデータといえる。（野崎）

註

- 1) 岩崎志保編2008『津島岡大遺跡18』
- 2) 野崎貴博・南健太郎2021「津島岡大遺跡第39次調査」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2021』
- 3) 岡山県史編纂委員会1988『岡山県史』第十九巻 編年資料
- 4) 土井基司1990「半田山城測量後記」『岡山大学構内遺跡調査研究年報7』

b. 高圧ケーブル更新工事（津島地区：調査番号3、BD15～18区、図14）

津島南地区西半、薬学部南辺から事務局棟西にかけての経路上に設けられた5か所のハンドホールで工事に立ち会い、事務局棟南東のハンドホール1か所で包含層を確認した。掘削規模は上面で1.75m四方、深さ1.3mである。既往の調査成果から、1層は陸軍駐屯地造営時の造成土、2層は青灰色粘質土で近代の耕作土である。3層は淡黄灰色砂質土、4層は淡緑灰色砂質土で近世層と考えられる。5層は淡青灰色粘質土で鉄分の沈着が顕著である。中世～近世の土層とみられる。6層は青灰色粘質土で中世層と考えられる。（野崎）

3. 鹿田地区

a. トリアージスペース整備工事

（鹿田地区：調査番号2、AS03～AV09区、図15）

地域医療人育成センター北側の駐車場に新たに計画されたトリアージスペースの整備工事に伴うものである。計画建物西辺の地盤改良に伴う

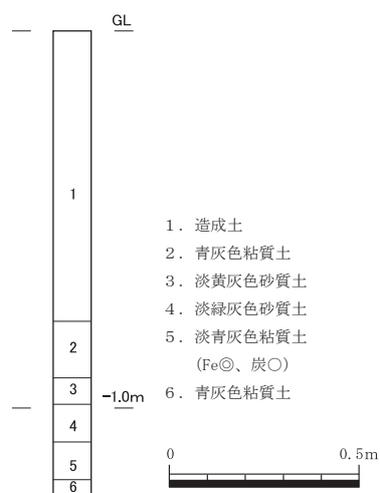


図14 土層柱状図（縮尺1/20）

南北方向の掘削、計画建物南西から歯学部にわたって東西方向にのびる管路の掘削で中世層と考えられる土層を確認したため、この2か所で確認した土層を報告する。

建物西辺地盤改良地点

1層が造成土で、その下面で遺構が検出されている。2層は灰褐色砂質土、3層が淡灰褐色砂質土で、近世・近代の土層と考えられる。4層は灰

褐色砂質土、5層は淡灰褐色砂質土で、中世の土層と考えられる。

管路（東西方向） 1層は造成土、2層は淡灰色砂質土で、粘土ブロックの顕著な包含に加え、瓦片を含む。3層は暗灰褐色砂質土、4層は黄灰色砂質土で、いずれも粘土ブロックを包含し、4層では炭や焼土が認められる。5層は灰色砂質土、6層は灰茶褐色砂質土で近似した土層である。7・8層は管路西側で確認した。7層は灰褐色砂質土で灰色砂質土ブロックを含む。8層は淡灰褐色砂質土である。3層以下で時期を示す遺物は出土していないが、土質・土色・各層の高さを勘案すると、すべて近世・近代に属するものと考えられる。

当地点のうち、管路東側では造成土厚が約0.3~0.4mと薄く、包含層の検出高が高かったが、2011年に実施した試掘・確認調査でも現地地表下約0.7mで包含層が確認されている¹⁾。今後、この一帯の造成土厚が浅いことを念頭に置き、掘削深度の小さい工事においてもより慎重に対応する必要がある。（野崎）

註

1) 野崎貴博2012「岡山県地域医療総合支援センター予定地」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2010』

b. 旧生化学棟改修工事（鹿田地区：調査番号3、AD59、AJ58~AH60区、図16）

旧生化学棟改修に伴う周辺排水配管工事である。調査地点は旧生化学棟北側に設置される排水中継槽地点である。掘削規模は掘り方下面で1.8×1.8m、深さ2.13mである。

確認された土層は、1層が造成土、2層が暗灰色粘質土で近代の造成以前の耕作土である。3層は灰褐色粘質土である。2・3層からは近世陶磁器小片が出土しており、近世・近代の土層と考える。4層は黄灰褐色粘質土である。5層は灰~淡黄灰褐色粗砂、6層は橙色粗砂で、いずれも均質な粗砂層である。このうち5層は約0.3mの層厚を確認した。土質および堆積状況、これまでに実施されてきた周辺調査区の成果から河道堆積物と評価できる。4層以下での遺物の出土はないが、周辺調査区の成果¹⁾を参照すると、4層は中世、5層以下は古代に位置づけられる。遺構は確認されなかった。（野崎）

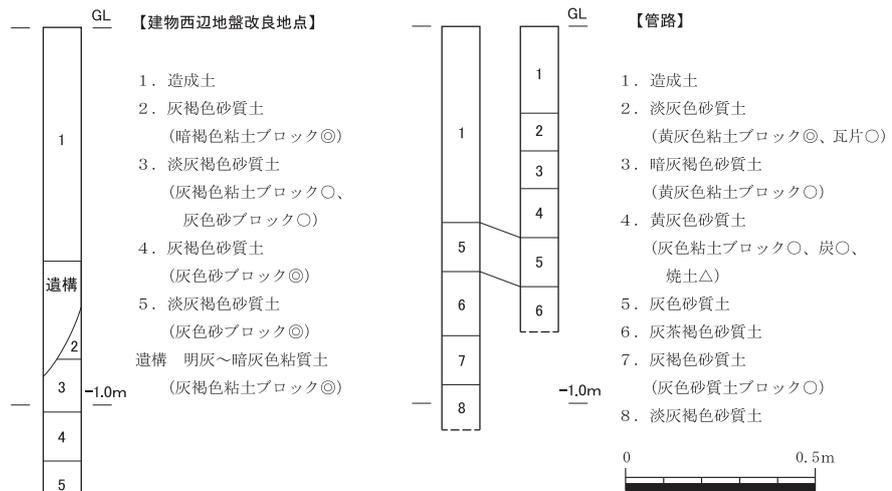


図15 土層柱状図（縮尺1/20）

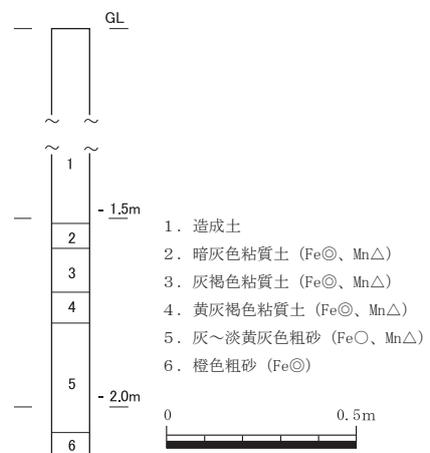


図16 土層柱状図（縮尺1/20）

註

1) 南健太郎2021「鹿田遺跡第28次調査」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2019』

c. 先端治療・臨床検査センター新営予定地

(鹿田地区：調査番号4、BP38～CD42区、図17)

先端治療・臨床検査センター新営予定地の発掘調査に先立ち、予定地内の配管の迂回工事および矢板打設時に支障となる既存の地中梁撤去のために実施されたものである。このうち、予定地南西の既存地中梁周囲の掘削では現地表面から2.0mの深さまで掘削し、弥生時代後期以前の基盤層から近代までの包含層を確認した。本立会調査後に実施された発掘調査の成果¹⁾を加味して各土層を説明する。1層は造成土、2層は暗青灰色粘質土で近代の造成以前の耕作土である。3層は灰褐色粘質土で、近世の耕作土と考えられる。4層は暗灰褐色粘質土、5層は暗黄灰褐色粘質土で、中世の包含層と対応する。5層上面から掘削される遺構が確認されているが、狭い範囲での土層観察であり、発掘調査の成果を参照すると4層から掘削された可能性もある。

6層は暗灰褐色粘質土で古墳時代～古代の土層である。7層は灰褐色粘質土で、弥生時代後期～古墳時代初頭の耕作土である。8層は明青灰色強粘土で、弥生時代後期以前の基盤層である。(野崎)

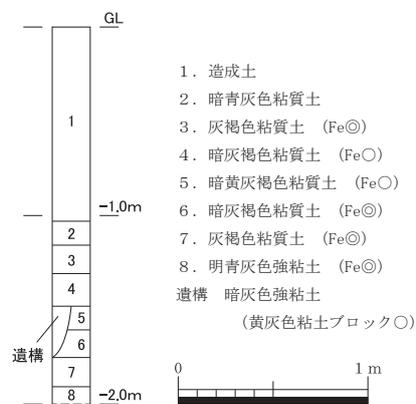


図17 土層柱状図 (縮尺1/40)

註

1) 野崎貴博2022「鹿田遺跡第29次調査」(本書第1章第1節)

d. 歯学部改修工事

(鹿田地区：調査番号5、AO～AV22、AK～AN12・13、AR～AW08・09、AZ10～20区、図18～20)

歯学部改修工事に伴う建物四周の外構排水接続工事である。このうち、東・西・北辺の外構工事で中世以前の土層および遺構埋土の可能性のある土層が確認された。

東外構 歯学部東辺中央、鹿田地区構内から東の市道へと抜ける車路の屈曲部南西に位置する。周辺では鹿田遺跡第16・22次調査および立体駐車場・地域医療人育成センター新営に伴う周辺工事立会調査が実施されている。

掘削規模は上面で1.65×1.6m、深さは現地表面から1.45mである。1層は近代の造成土、2層は褐灰色砂質土、3層は淡灰褐色砂質土で近代の土層と考えられる。4層以下では砂質土および砂層の厚い堆積が確認された。本層に類似の土層としては、2012年に実施した地域医療人育成センター新営に伴う配管工事で確認された溝埋土があり、土質だけでなく、検出面の高さや上層との関係も類似する。この溝は立会調査の範囲内では南北方向を基調とし、東に分岐することが報告されている¹⁾。また、第22次調査地点には、近代まで存在していた有力庄屋の庭園があり、池・水路が検出されている²⁾。今回の調査地点周辺における近世・近代の水路の検出例を鑑みると、本調査地点の4層以下の土層についても近世・近代の溝埋土と考えられる。

北外構 歯学部玄関前スロープの北側に位置する車椅子利用者等用駐車場内に位置する。掘削規模は上面で2.0×1.3m、深さは2.2m、造成土厚は約

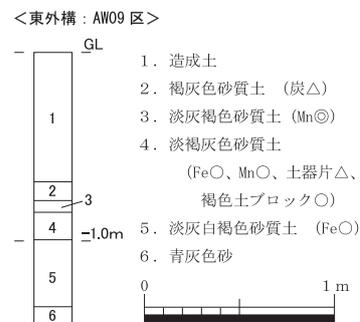


図18 土層柱状図 (東外構) (縮尺1/40)

2.1mである。本地点は駐車場整備等により約1mの盛り土がなされているため、周辺よりも厚い造成土が確認された。造成土下では近世・近代の土層は確認されず、古代～中世の河道堆積物と考えられる明橙色粗砂を検出した。鹿田地区北辺では、東方の第16次調査地点³⁾、西方の第28次調査地点⁴⁾や2013年度に実施した医歯薬融合棟新営に伴う污水配管工事の立会調査⁵⁾で東西方向にのびる当該期の河道が確認されており、本立会調査地点で確認した土層もこうした所見と合致している。

西外構 歯学部と外来診療棟間で南北にのびる通路上に設定された経路である。このうち、最南部の柵で包含層を確認した。1層は造成土、2層は灰褐色弱粘質土で近代の土層と考えられる。3層は鉄分の沈着が著しい明灰褐色砂質土で、近世の土層と考えられる。4層は明灰茶褐色弱粘質土、5層は淡灰茶褐色弱砂質土で、中世の土層と考えられる。遺構は確認されなかった。(野崎)

註

- 1) 野崎貴博2013「地域医療人育成センター新営に伴う配管工事」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2012』
- 2) 岩崎志保2013「鹿田遺跡第22次調査地点」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2011』
- 3) 高田貫太2006「鹿田遺跡第16次調査」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2004』
- 4) 南健太郎2021「鹿田遺跡第28次調査」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2019』
- 5) 野崎貴博2015「医歯薬融合棟新営にともなう污水配管工事」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2013』



図19 土層柱状図（北外構）
(縮尺1/40)

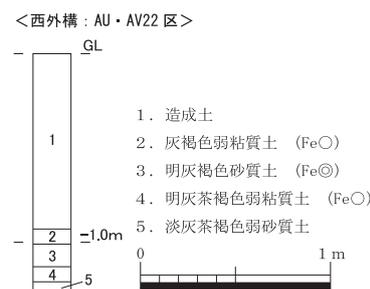


図20 土層柱状図（西外構）
(縮尺1/40)

表1 2021年度調査一覧（津島地区）

種別	調査番号	工事名称		調査期間	構内座標	調査深度 (GL-m)	造成土厚 (m)	内容	
発掘	1	複合施設		11/26~4/25	AW・AX5	3.09	1.13	縄文後期土坑、弥生前期畦畔、弥生後期溝、中世～近代掘溝確認	
立会	2	ライフライン再生	経路1： 枡④-T39-B間	管路	4/1	AU07～AX06	0.75	-	造成土内
			経路2： 枡④-⑤間	管路	4/5		0.9～1.4	-	既掘内
				樹	4/5		1.2	-	既掘内
			経路3： 枡③-④	管路・樹	4/6・7		2～2.2	-	既掘内
			経路4： 枡③-④	管路	4/8		0.8	-	造成土内
			経路5： 枡①-⑤	管路	4/8～23・5/14		1.7～2.13	1.27～1.42	中世層（泥炭層）確認
				樹	4/12・15・5/13		1.95～2.45	1.4～1.5	中世層（泥炭層）確認
			経路6： 枡③-⑬	管路	4/19～22		1.0～2.1	1.3	中世層（泥炭層）確認
				樹	4/19～21		0.8～1.55	1.3	近世層確認
			経路7： 枡⑬-⑯	管路	4/19～22		1.7～1.9	0.9～1.2	黒色土確認
				樹			2.1～2.28	0.9～1.2	縄文基盤層確認
			経路8： 枡④-⑭	管路	4/26～28		1.05～1.4	0.9	古代層確認
				樹	4/26～30		1.05～1.69	0.9	黒色土確認、弥生溝確認
			経路9： 枡④-⑥	管路	5/6～11		1.3～1.48	0.8	近代層、残丘岩盤確認
樹	1.3～1.8	0.55～1.4		近世層、残丘岩盤確認					
経路10： 枡②-⑱	管路	5/13	1	-	造成土内				
	樹	5/13	1.2	-	造成土内				
経路11： D194-D201（撤去）	樹	5/17	1.05～1.15	-	既設内				
経路13： 枡⑱-⑳	管路	5/19～24	1.55～1.85	1.05～1.27	古墳東西溝確認				
	樹		1.7～1.8	1.95～2.24	黒色土確認、古墳東西溝確認				
経路14： 枡⑱-㉑	管路	5/26～28	1.39～1.5	1.17～1.27	近世層確認				
	樹	5/25～31	1.72～1.9	1.17～1.27	古代～中世東西溝確認、弥生～古墳層確認				
3	1	高圧ケーブル更新	ハンドホール	10/4・5・7	BD15～BD18	1.3	0.73～1.15	中世層～近代層確認	
4	1	理学部2号館改修	樹木伐根	2/7	AY08～AZ10	0.8	-	造成土内	
			電気管路A	2/10		0.35	-	造成土内	
			電気管路A設置極			0.75	-	造成土内	
			電気管路①	9/6		0.6～0.85	-	既設・造成土内	
			電気管路②	9/15		0.5～0.65	-	既設内	
			管路A（排水）	2/10・14		0.75～1.1	-	既設内	
			管路B/C（排水）	2/14		1.14	-	既設内	
			管路D（給水）	2/18		0.9	-	造成土内	
5	1	中国電力ケーブル埋設	管路南端	8/25	AU02～AV04	2	1	弥生～古墳層確認、岡山市教育委員会実施	
			構内ブロック塀	9/6	0.85	-	既設・造成土内		
6	1	薬用植物園管理舎改修	衛生設備配管	10/6	BB18	0.7	0.45	近代層確認	
7	1	RI施設改修	雨水配管・橋	1/25	AZ08	0.7	-	造成土内	
			排水管路A	1/28	BA08	0.9	0.9	近代層上面確認	
			排水管路B	2/7	BA08	1.1	0.85	近代層、近世層上面確認	
			空調排水	1/17	BA07	0.4	-	既設内	
		給水配管	1/17	BA08	0.4	-	造成土内		
8	5	複合施設	駐輪場整備	11/22	AW04	0.9	-	造成土内	
9	光・放射線情報解析部門津島施設改修	焼却炉解体 基礎撤去	11/17	AZ06	0.7	-	既設内		
10	文化科学系総合研究棟	石積み撤去復旧に伴う掘削	11/25	BA16	0.5	-	掘削は土塁におよばず		
11	座主川護岸修復工事		2/28	BA13・14	1.3	0.9	近代層、近世層確認		
12	大学会館	ボイラー室改修	1/27	BC10	0.5	-	造成土および既設内		
13	薬学部大講義室	屋根取設工事	3/3	BC・BD17	0.6	-	基礎8か所掘削、造成土内		
14	教育学部東棟	屋外排水管修繕等工事	3/14	AZ02	0.8～1	-	既設内		

表2 2021年度調査一覧（鹿田地区）

種別	調査番号	工事名称		調査期間	構内座標	調査深度 (GL-m)	造成土厚 (m)	内容	
発掘	1	先端治療・臨床検査センター予定地		8/2～11/18	BW36～CB44	3	0.75～0.85	弥生時代の耕作地、中世の集落確認	
立会	2	トリアージスペース整備	地盤改良	4/28	AS03～AV09	0.85～0.95・1.25	0.6	近代～中世層確認	
			給排水配管	5/21		1.1	0.8	近代層確認	
			給排水・ガス配管	6/22・24・25		0.77～1.7	0.23	近代～中世層確認	
	3	旧生化学棟改修	電気配線	7/14	AJ58～AH60	0.6～0.75	－	既設・造成土内	
			排水中継槽	10/5	AD59	2.13	1.5	古代河道確認	
	4	先端治療・臨床検査センター新営予定地	排水・ガス盛替	既存地中梁周囲	6/3	BP38～CD42	2	1	近代～弥生時代以前の基盤層確認
				西側管路	6/3～6/15		0.87～1.27	0.57～0.96	近代～中世層確認
				北側管路東	6/10		0.75～1	－	既設・造成土内
				北側管路西	6/15		0.9～1	0.8	近代～近世層確認
				北側管路中央	6/25		0.85	－	既設内
				西側管路南端ガス管撤去	6/25		1.14	－	既設内
				北東角ガス管	6/30		1.05	0.75	近世層確認
	5	歯学部改修	西外構①	1/26	AU・AV 22	1.27	0.93	近代～中世層確認	
			西外構②	1/6、3/18	AO～AT22	0.9～0.96	－	既設内	
			北外構①	2/2	AN12・13	2	－	造成土および既設内	
			北外構②	2/2	AK・AL13	2.2	－	GL-2.12mで明橙色粗砂（古代～中世河道埋土）	
			東外構①	2/8	AR・AS08・09	1.52～1.59	－	既設内	
			東外構②	2022/5/19	AW09	1.45	0.65	DN10地点砂層確認：近世遺構埋土？	
			南外構	2/14・17 2022/4/20	AZ10～20	0.8～1.27	－	既設内	

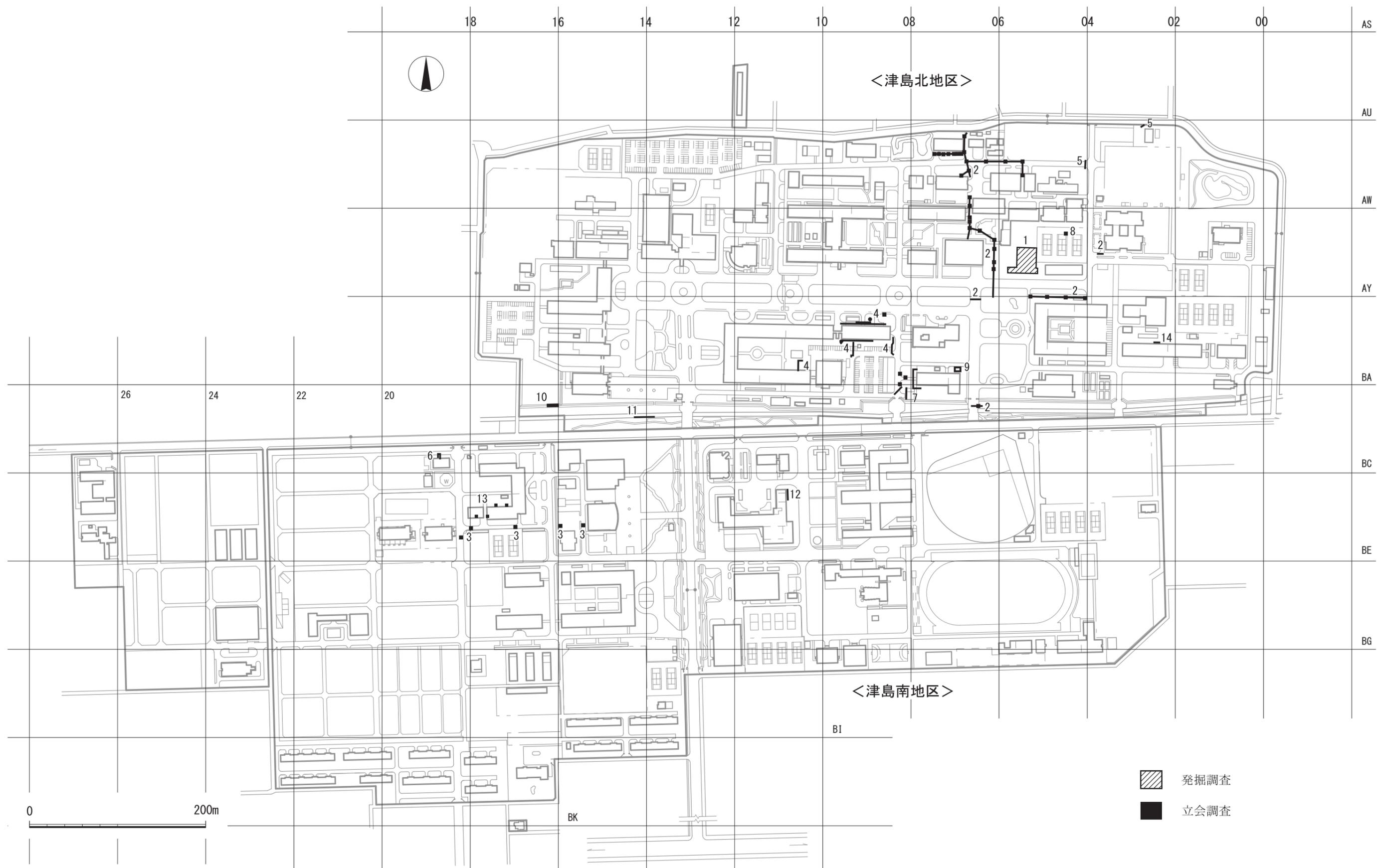


図21 2021年度の調査地点【1】—津島地区— (縮尺1/4,000)

※番号は表1の調査番号に対応する。

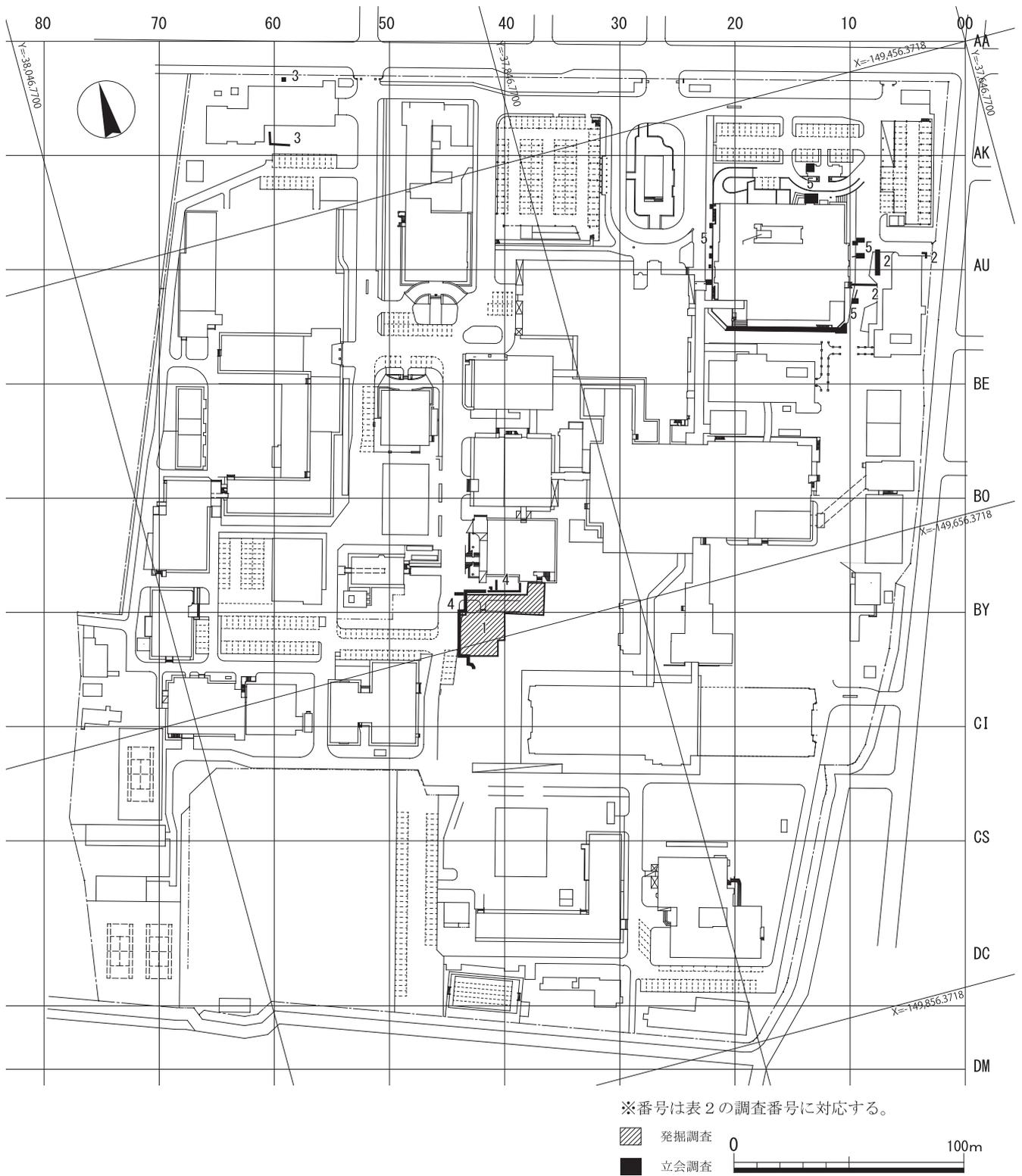


図22 2021年度の調査地点【2】—鹿田地区—（縮尺1/2,500）

第3節 構内遺跡に関する研究

1. 鹿田遺跡の中世～近世における集落の様相

岩崎 志保

a. はじめに

鹿田遺跡では2021年度までに実施した29次にわたる発掘調査で弥生時代中期～近代の遺構・遺物が確認されており、長期におよぶ土地利用について資料の蓄積が進んでいる。2021年度末に刊行した第20次調査地点B・D地点（以下本地点と記す）は鹿田遺跡の中央部に位置し、周辺の第18次調査B地点、第14次調査地点、第9・11次調査地点、第20次A地点・第25次調査地点を合計した調査面積は9,400m²を超え、中央部の状況がひろく明らかとなってきたといえる（図23）。中世～近世においては、井戸・掘立柱建物を含む一定の区画を抽出することができ、この屋敷地を区画するいくつかの主要な溝が確認され、集落構造を検討するうえで重要な知見を得ることができた。なかでも本地点では近世における居住域の状況が初めて判明したことから、本稿では屋敷地と区画溝の配置について時期ごとに整理し、中世後半～近世・近代の土地利用に関する予察も含めて検討することとしたい¹⁾。

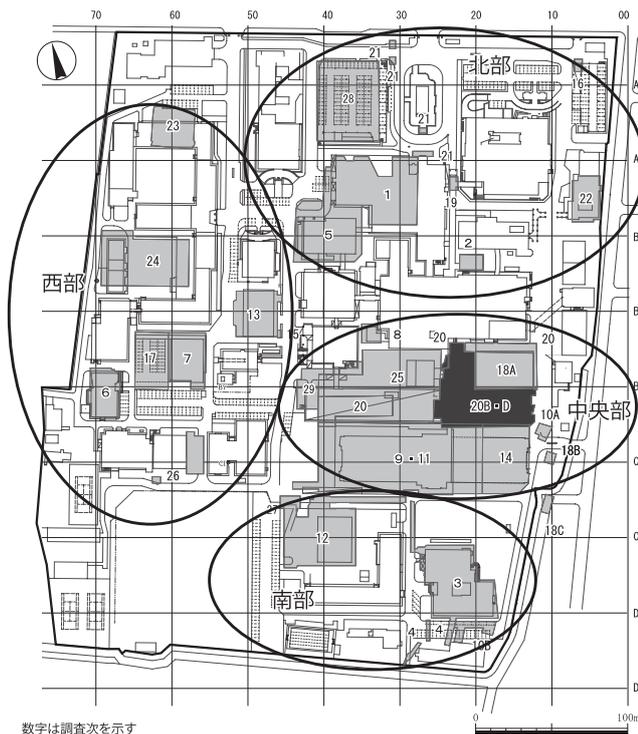


図23 鹿田遺跡の発掘調査地点（縮尺1/5,000）

b. 鹿田遺跡の中世～近世の時期区分

本地点では11世紀前半～19世紀前半に埋没した井戸25基が認められた。これらの井戸と溝との対応関係を周辺地点も含めて整理しよう。時期区分については表3に示したように、中世前半についてはⅠ～Ⅳ期の設定時期を用い、中世後半以降については試行的にⅤ～Ⅸ期とした区分を仮設定する²⁾。仮とするのはこれまでの調査地点において該期の井戸の検出が極めて少なく、また井戸からの遺物の出土が見られない、あるいは非常に少ないことに拠り詳細時期の決め手に欠ける遺構が多いことによる。また鹿田Ⅰ-1期よりも古く位置付けられる遺構もわずかではあるが確認されており、それらについての時期設定は現在のところ行っていない。

この時期区分を用い、該期の井戸・溝について整理したものが表4である。前述したように中世後半（Ⅳ・Ⅴ期）の井戸には遺物が出土せず、詳細時期の不明なものがあり、それらは除外している。空欄=0ではない。また調査地点は大きく北部、中央部、南部、西部にまとめた（図23）。以下本稿では、鹿田遺跡第20次調査井戸1をS20-井戸1というように記すこととする。

c. 平安時代後期～鎌倉時代

I期以前～IV期における鹿田遺跡の集落構造と変遷は山本（2005）に主に北部・南部・西部の詳細が論じられている。ここでは本地点の成果を加えた中央部の状況を中心に時期ごとに概観しよう。

(1) I - 1期以前～II期

鹿田遺跡における中世集落の萌芽期である。10世紀代に比定される井戸は、北部1基（S24）、西部1基（S13）の2基のみ、ついで11世紀前半に中央部1基（S20-井戸2）が僅かに確認される。I - 1期にはいると、中央部4基（S20-井戸3、S14-井戸1・2、S18B-井戸1）が認められ、I - 2期では、中央部4基、北部4基、西部2基、南部2基と、屋敷地が全域に広がるといえる。I - 1期までの屋敷地には、それに伴う溝は明確には確認されない。

既に指摘されているように、鹿田遺跡における屋敷地の集住は11世紀前半に認められ、次いで区画溝による屋敷地の設置はI - 2期よりはじまり、II期に遺跡の全域に広がる³⁾。

中央部の状況は、本地点で井戸4～9の6基、S14-井戸1～4、S18B-井戸1の合計11基が確認されており、II期までに中央部の屋敷地の区画は、7～8区画が認められよう（図24左）。各区画に井戸1～3基が確認される。これらに対応する溝はS11-溝22、S14-溝8・9、そして、本地点-溝10・11、S11-溝24が挙げられる。これらの溝のうち正方位に沿う方向のS20-溝10・11、S11-溝24、S14-溝8・9が12世紀前半に埋没する一群であり、屋敷地の区画の一端を構成している。正方位に近い方向を志向していることがこの時期の区画の特徴の一つであろう。

中央部の屋敷地の南端は、S14-溝9が確認されているCMライン付近が境界となっており、これより南の南部ではII期までで屋敷地は終焉している。

(2) III～IV期

本時期には中央部で井戸16基、北部で9基、西部で6基が確認されている。中央部には、井戸の配置から少なくとも5区画の屋敷地を想定した（図24右）。その区画の境界となる主要な区画溝は南北方向のものが31ライン付近を走行するS25-溝26～S9-溝46～48と15～16ラインを走行するS20B-溝14～S14溝10、東西方向のものがCEラインを走行するS11-溝38・39とCMラインを走行するS14-溝16～S11-溝49・50である。これらのうちCMラインが屋敷地の南端を画するラインであることは前代から踏襲されている。敷地の東端は次第に東へ拡張されていく状況を以下のように追うことができる。まず南北方向の15～16ラインのS20B-溝14～S14-溝10が12世紀末に埋められ、14～15ラインを走行するS20B-溝18～S14-溝15に代わる。この東端ラインは地形の影響か、北が東に振れた方向をとるもので、これらの主要区画はいずれも13世紀末～14世紀初頭に、または14世紀前半までに埋没する溝であり、方向は鹿田の地割方向に概ね沿うものである。

屋敷地内の井戸の推移をみると、①S20-井戸10→同-井戸13、井戸14、②S14-井戸6→S20-井戸12、③S11-井戸3→同井戸2→同井戸4（S20-井戸11）、④S9-井戸8→同井戸6→同井戸7・S20-井戸3、と4区画で2時期あるいは3時期にわたり屋敷地の存在が窺える。このほかS14-井戸5・9も屋敷地の可能性が考えられる。

以上の状況は、14世紀初～前半に大きく再編される。再編後に屋敷地が継続するのは、ほぼ中央部に限られ、北部・西部では井戸の検出がきわめて少なくなる。

表3 時期区分

時 期	鹿田時期区分
10世紀代	-
11世紀前半	-
11世紀中～後半	I - 1
11世紀末～12世紀初	I - 2
12世紀前～中	I - 3
12世紀中葉～後葉	II
12世紀末～13世紀初	III - 1a
13世紀前葉～中葉	III - 1b
13世紀中葉～後半	III - 2
13世紀末～14世紀初	III - 3
14世紀前半	IV
14世紀中葉～後半	(V)
15世紀前半	
15世紀後半～16世紀前半	
16世紀中葉	(VI)
16世紀後半	
16世紀末～17世紀前半	(VII)
17世紀後半	
18世紀前半	
18世紀後半	
19世紀前半	(VIII)
19世紀後半	
20世紀初め	(IX)

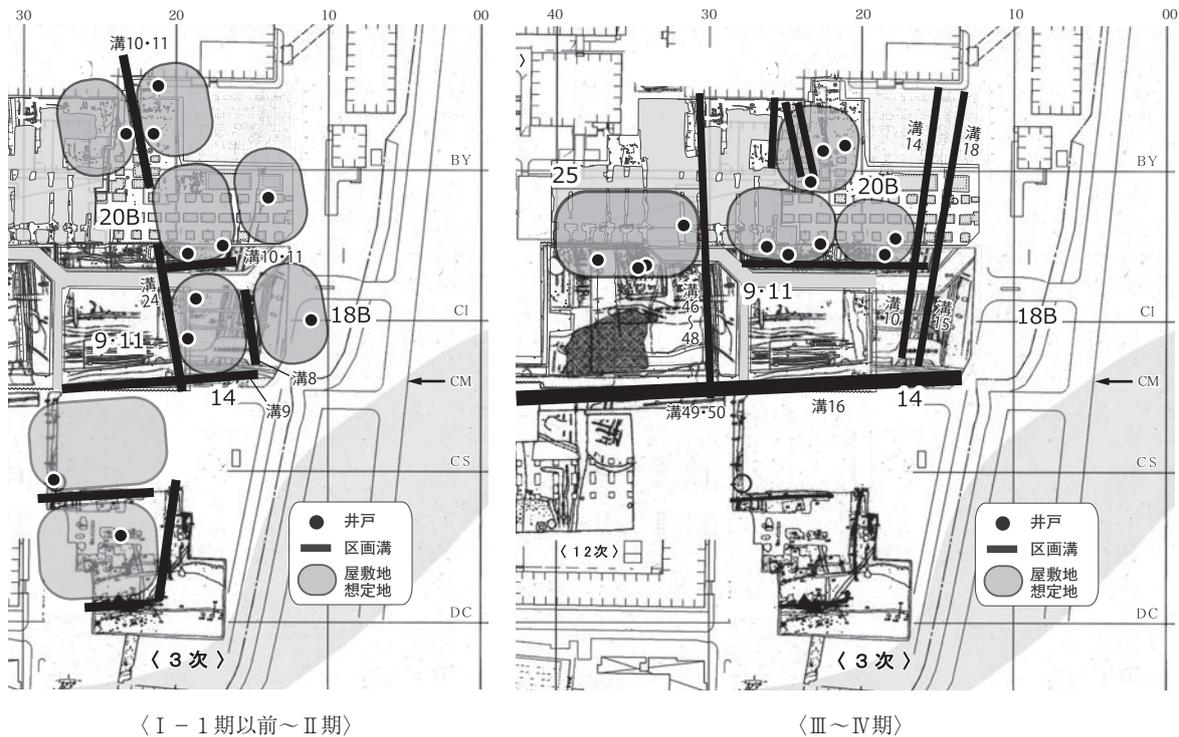


図24 中央部の屋敷地区画の変遷 (縮尺1/2,500)

これまで述べてきた平安時代後期～鎌倉時代の区画については12世紀前半と13世紀前半の2度にわたり、鹿田の地割方向ではなく正方位の南北方向の溝が認められることを改めて注意しておきたい。S20-溝10・11と、S25-溝25とS20-溝15である。12世紀前半に埋まるS20-溝10・11のラインを北に延長した先の鹿田遺跡の北端にあたる第21次調査地点でも同時期の溝が確認される。さらに北へ延長したラインは、岡山平野の条里における主要な南北ラインに合致する可能性が高いことが指摘されている⁴⁾。鹿田遺跡の敷地において屋敷地造営の画期ともいえる時期に、条里に則るラインが認められるもののすぐに鹿田独自の地割方向により再編されている状況は、この地における土地区画の意識が古くから強固であることを伺わせるものと考えられる。

d. 室町時代～江戸時代

V～Ⅷ期の区分を試行的に設定し、井戸の時期を中心に屋敷地の推移をみていこう。

(1) 室町時代 (V期) (図25)

V期の井戸は、中央部に10基、西部に2基が認められる。中央部の区画溝の推移とともに屋敷地の動きをみてみよう。井戸は15世紀前半の4基 (S9-井戸9～12)、15世紀後半～16世紀前半の6基 (S20-井戸15～18、S25-井戸3、S14-井戸8) の大きく2時期に分かれる。西部の2基 (S17-井戸2、S26-井戸3) についての評価は保留とする。

主要な区画の南端ラインは変わらずCMライン付近 (S14-溝16～S11-溝59c・d)、東端ラインは前代よりもさらに東に拡張した12～13ラインに代わりS20-溝23～S14-溝17が境界となる。30ライン付近の南北ラインも廃絶し、36～37ラインにS25-溝40～S9-溝59aが走行している。北端についてはS20-溝24がBSラインに位置しており、このラインが境界の可能性を有す。以上の溝による大型の区画内には、北東部をL字状に区画するS20-溝21・22、南側を逆L字状に区画するS11-溝58a・b、L字状区画となるS11-溝55・56が認められ、それ

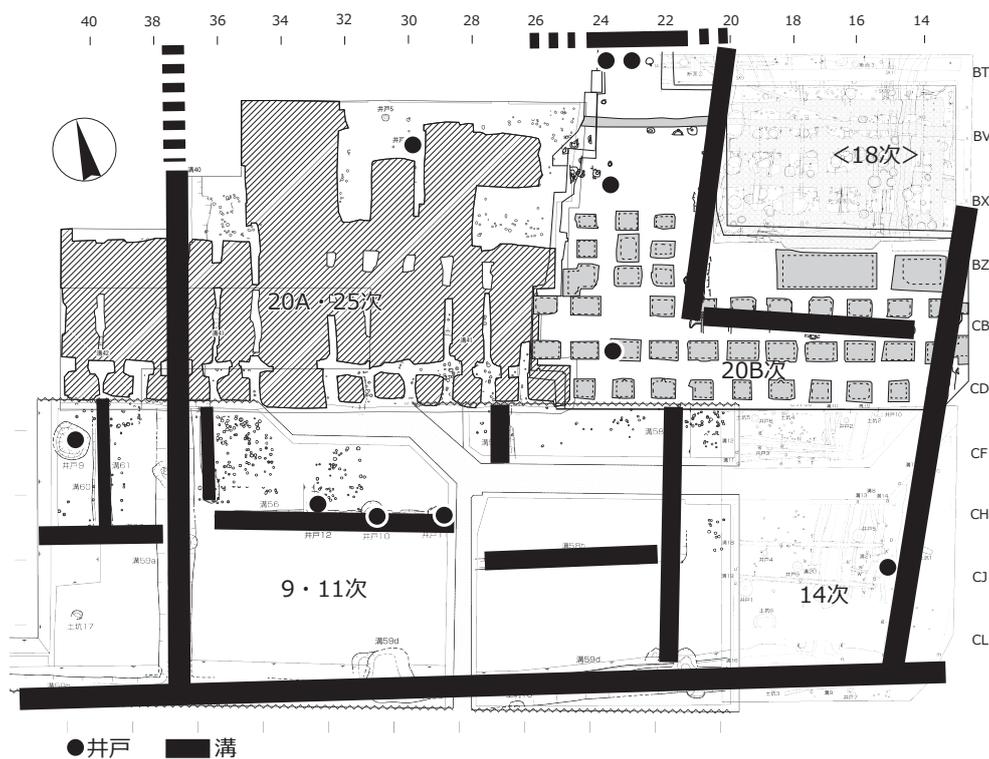


図25 V期の遺構配置 (縮尺1/1,200)

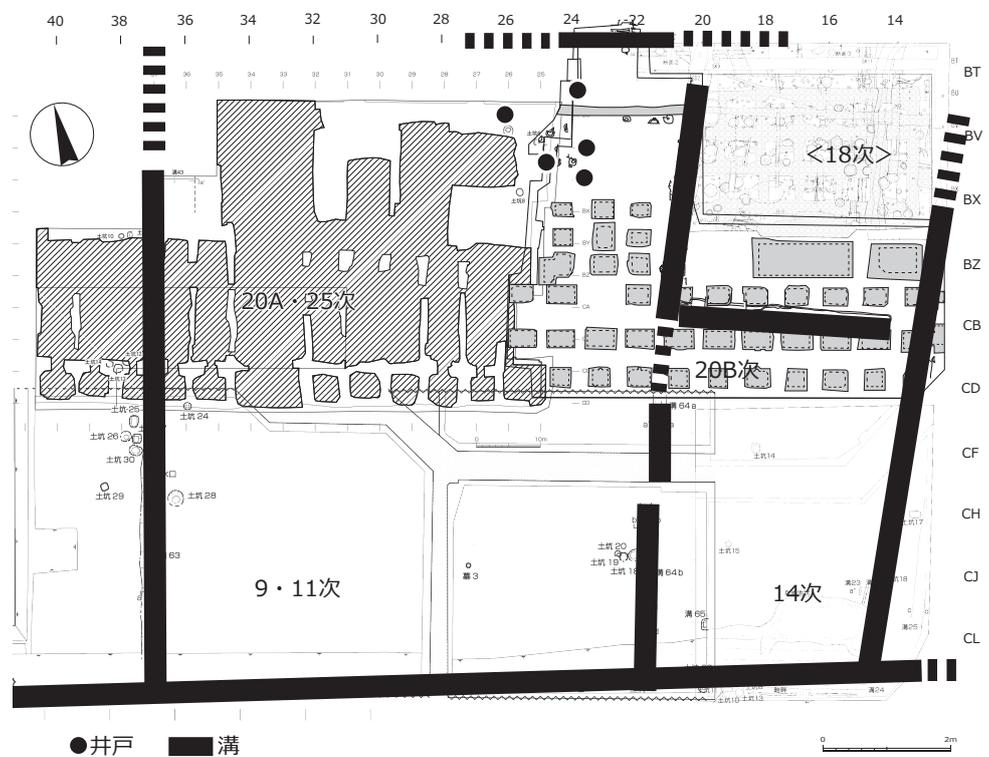


図26 VII～VIII期の遺構配置 (縮尺1/1,200)

ぞれ屋敷地の区画を示す可能性を指摘できる。

上述した東西南北の主要な区画溝は、江戸時代に入っても継続的に使用されているが、井戸の配置との関係を見ると、次第に耕作地利用が拡大していく中で用水路としての整備・改修が継続して行われていったであろうと考えられる。いくつか確認されたL字・逆L字状を呈する比較的小規模な区画溝は15世紀後半～16世紀前半に廃絶する。

(2) 戦国時代～明治時代 (図26)

Ⅵ期に属する遺構はこれまで確認されていない。次いでⅦ期の井戸は、中央部の中でも北東部に5基が限定的に認められる。S20-井戸22～25、S25-井戸7である。埋没時期としては16世紀末～17世紀前半に2基、18世紀前半に2基、19世紀前半に1基であり、すくなくとも屋敷地2区画の存在が窺える。またこれらの屋敷地内からの出土遺物には京焼水滴を初め、「寺」の刻印のある瓦片、染付の水滴片、多数の瓦等特徴的であり、寺に関連する建物の存在が指摘されている。中央部では、第18次調査A地点の正式報告が未刊であり、そこでは中世後半～近世の遺構が多く検出されていることから、Ⅶ期の屋敷地の様相は今後検討することとする。

これらの屋敷地に伴う区画溝としては、前代と同じくS20-溝21～24が機能している。このうちL字状区画を構成するS20-溝21・22は19世紀前半に廃絶する。そのほかの区画溝も19世紀後半までに埋まっており、屋敷地としての利用はこの時期までと判断される。その後は主に耕作地として利用されていくと考えられる。溝のうち、南端の境界をなすCMラインの東西溝、37ラインの南北溝は明治時代以降も継続的に機能しており、岡山医科大学の建設以降にも利用されていたことが、出土遺物からも確認される。

(3) 「切り図」にみる土地利用

「切り図」とは明治政府によって字単位で作成された地図である。鹿田遺跡の所在する鹿田本町は旧字名では岡・東古松・大供にあたる。該当する地番の切り図を入手し、調査地点に重ね合わせた(図27)⁵⁾。この図から読み取れることはいくつかあるが、本稿では区画溝との関係について述べるため、字境と字内の番地の境界ラインを抜き出して示している。これまでの発掘調査において確認される近代の遺構、なかでも溝・畦畔の位置と対照してみると、これまで述べてきた中央部では、南端を画する区画溝の位置(CMライン付近)が、岡の南端と東古松北端の字境にあたる。このラインにはS14-溝9以降、継続的に溝がつくられている。少なくとも12世紀か

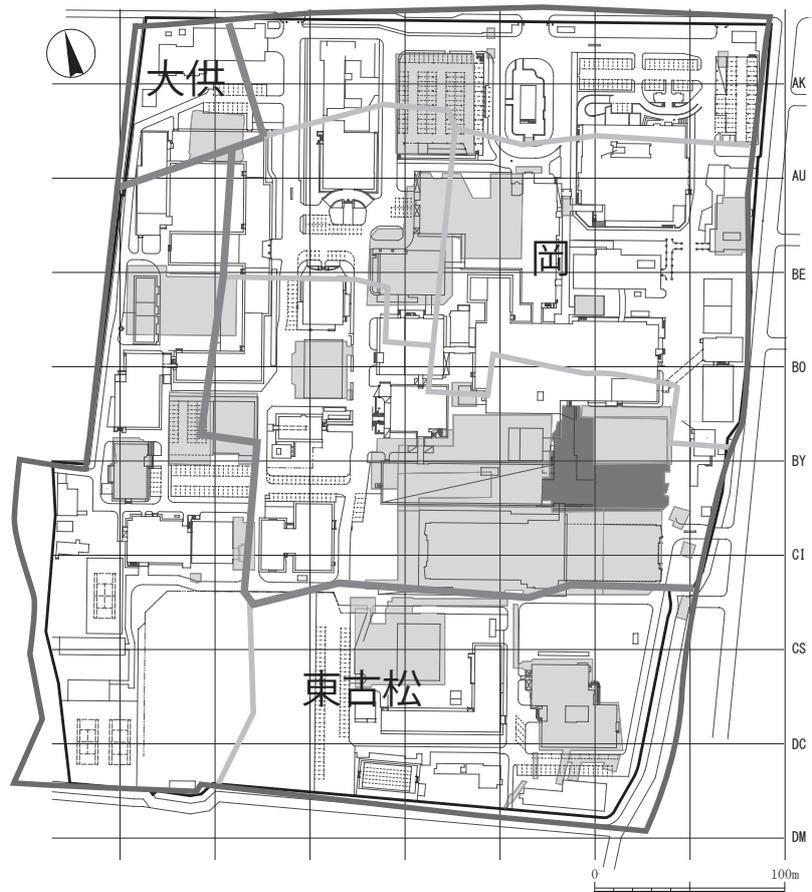


図27 発掘調査地点と切り図の字境 (縮尺1/4,000)

ら境界の意識が踏襲されてきたものであろう。同位置で確認された最も新しい溝はコンクリートの暗渠となっており、大学病院銘のある容器等が出土したものであった。同じく岡西端と東古松東端の字境にあたる位置では、S7-溝26～S17-溝20が確認されている。

番地の境界ラインについては出土遺構と合致するもの、しないものがあり鵜呑みにはできないものの、切り図に水路や畦畔の表現がある箇所も認められる。既調査地点でも近代についてはすべて報告していない場合もあるため今後も分析を進める。

e. 終わりに

中世～近世において、鹿田遺跡では井戸・区画溝を伴う屋敷地を継続的に認めることができる。その詳細を詰めることで、区画の位置や規模の変化が明らかとなる。本稿では特に、これまで遺構・遺物が比較的少なく、論じられることが少なかった中世後半～近世について概観した。第20次調査地点の状況が明らかになり、従来の認識とは異なる評価となったことを機に、まず時期区分の枠組みを整理した。しかし空白時期も多く試行的な段階と言わざるを得ない。今後、第18次調査地点ほか、新資料の増加により充実を図る必要がある。また明治時代以降については切り図と照合する分析の有効性を指摘し、今後の活用を図ることとする。

該期に関連する文献史料には、南北朝時代に備前守護を務めた松田氏が権勢をふるう様子が伝わる⁶⁾。室町幕府が地方支配のために各国に設置した守護には、室町時代初期には地元の武士を登用することが多かったとある。松田氏の所領は備前各地にあったとされ、松田氏の中でも次郎（豊前守）家が本拠としたのが鹿田一帯である。その後松田氏は、赤松氏・浦上氏と対立、1484・1485（文明16・17）年の合戦後、次郎家は衰退し、松田氏自体は1568（永禄11）年には滅亡する。この動乱期は鹿田遺跡ではV・VI期にあたる。鹿田遺跡と武士の関わりについては、時期は異なるが屋敷墓の分析も手掛かりとなろう。今後も遺構・遺物の分析から、鹿田遺跡の屋敷地の様相や住人の具体的な姿を追究したい。

註

- 1) 本表に関係する報告は次のとおりである（「報告書名」（調査地点）刊行年、編集はいずれも岡山大学埋蔵文化財調査研究センター）
「鹿田遺跡1」（第1・2次）1988年、「鹿田遺跡2」（第3・4次）1990年、「鹿田遺跡3」（第5次）1993年、「鹿田遺跡4」（第6次）1997年、「鹿田遺跡5」（第7・8次）2007年、「鹿田遺跡6」（第13・15次）2010年、「鹿田遺跡7」（第10・18次B・C）2013年、「鹿田遺跡8」（第14次）2014年、「鹿田遺跡10」（第9・11次）2017年、「鹿田遺跡11」（第24次）2018年、「鹿田遺跡12」（第20次A・25次）2018年、「鹿田遺跡13」（第26次）2019年、「鹿田遺跡14」（第17次）2020年、「鹿田遺跡15」（第12・27次）2021年、「鹿田遺跡16」（第20次B・D）2022年。
第18次調査：「鹿田遺跡第18次調査」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2007』2008年
- 2) I～IV期については山本（2007）を、またIV～VIII期については備前焼編年（表5）を参照し、時代区分を考慮して設定した。
乗岡実2009「15世紀から17世紀初頭の備前焼を消費した遺跡」『鎌倉・室町 BIZEN』備前市教育委員会
- 3) 山本（2007, 2014）、山本・岩崎（2017）参照
- 4) 池田晋2011「旭川西岸の条里と津島岡大遺跡」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報』第45号
光本順2012「鹿田遺跡第21次調査地点」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2010』
- 5) 岡山地方法務局で入手した。
- 6) 榎原雅治2009「松田氏の活躍した時代」『玉松』玉松会
服部英雄2004『武士と荘園支配』山川出版社

表5 時期区分

時 期	鹿田区分	備前焼編年			時代
		乗岡	間壁	重根	
10世紀代					平安
11世紀前半					
11世紀中～後半	I - 1				
11世紀末～12世紀初	I - 2				
12世紀前～中	I - 3				
12世紀中葉～後葉	II				
12世紀末～13世紀初	III - 1a	中世1期	I 平安末～鎌倉初頭	IB	鎌倉
13世紀前葉～中葉	III - 1b		II 鎌倉中頃	IIA	
13世紀中葉～後半	III - 2	中世2期a	III 鎌倉後半	II B/III A	
13世紀末～14世紀初	III - 3	中世2期b		III B/IV A - 1	
14世紀前半	IV	中世3期a		IV A - 2	
14世紀中葉～後半	(V)	中世3期b	IV 南北朝～室町前半	IV B - 1	室町
15世紀前半		中世4期		IV B - 2、3	
15世紀後半～16世紀前半		中世5期		VA	
16世紀中葉	(VI)	中世6期	V 室町末～江戸	VA	戦国 江戸
16世紀後半		近世1期	16世紀第2四半期～17世紀初	VB	
16世紀末～17世紀前半	(VII)	近世2期	17世紀前葉～第3四半期		
17世紀後半		近世3期	17世紀第4四半期～18世紀初め		
18世紀前半		近世4期	18世紀中葉～1840年頃		
18世紀後半					
19世紀前半	(VIII)	近世5期	1840年頃～明治初め		明治
19世紀後半					
20世紀初め	(IX)	近代			

【主要参考文献】

- 岡山県古代吉備文化財センター2007『鹿田遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告207
 山本悦世2007「中世の集落構造と推移」『鹿田遺跡5』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第23冊
 山本悦世2014「鹿田遺跡の土地区画と岡山平野の条里関連遺構」『条里制・古代都市研究』30
 山本悦世・岩崎志保2017「鹿田遺跡南東部における中世集落の土地区画とその構造」『鹿田遺跡10』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第32冊

2. 樹種同定・花粉分析データの総合化からみた周辺植生と利用樹種の関係 —岡山大学構内遺跡の事例から—

野崎 貴博

a. はじめに

発掘した遺跡を景観や環境のなかで位置づけるために、さまざまな自然科学的分析が実施されている。植物に関する主要な分析だけをとってみても、花粉分析、プラント・オパール分析、珪藻分析、樹種同定、種子同定など、分析の対象とする資料や方法は多岐にわたる。岡山大学構内遺跡（津島岡大遺跡・鹿田遺跡）でも、植物遺存体の分析を積極的に行ってきた。これまでに、樹種同定、花粉分析、プラント・オパール分析、珪藻分析、種実同定、圧痕レプリカ法、漆膜同定など、多種にわたる分析を実施している。これらの分析はいずれも景観や環境、さらには人間の営みを復元するうえで欠かせない。

これらの分析の試料となる植物質資料の性状もまた多様で、土中に埋没している間に作用する諸条件によって腐朽し、消滅してしまうものがあり、単一の分析ではその存否が不明となってしまう。しかし、それぞれの分析で対象となる試料が異なっていることは、こうした試料の遺存状況のばらつきをカバーする観点からすると、利点の一つといえるだろう。その利点を活かし、遺跡やその周辺の景観や植生、人間の植物利用の在り方を明らかにするためには、これらの分析を相互補完的に総合化する必要がある。本論での総合化の試みとは、地点ごとのデータを遺跡単位で、あるいは地域単位で集積する作業、異なる分析データを突き合わせ、相互に矛盾なく補完できるか検証する作業をさす。

しかし、そうした試みは少なく、個別の地点／遺跡での分析・考察がほとんどである。近年になって、花粉分析では地域単位でデータを総合化するという試み（林2018）などがなされている。

b. 樹種同定・花粉分析データの総合化の試み

(1) 総合化のねらい

今回、津島岡大遺跡・鹿田遺跡で実施した自然科学的分析のうち、樹種同定・花粉分析の成果について総合化し、集計表の作成、一覧表示を試みた。異なる分析による成果を突き合わせて検討することにより、新たな理解を導き出せるのではないかと考えたからである。今回、樹種同定・花粉分析を取り上げたのは以下の三つの理由による。

- ①岡山大学構内遺跡では、こうした取り組みが継続して積み重ねられてきたことにより、データの空白が次第に埋められてきた。津島岡大遺跡では樹種同定12件、花粉分析7件、鹿田遺跡では樹種同定15件、花粉分析3件が実施されている¹⁾。岡山県下において、個別の遺跡や遺跡群における分析件数としては群を抜いて多い。
- ②花粉分析および樹種同定は、遺跡をとりまく植生復元に有効な分析である。異なる分析による成果を総合化して比較検討するためには、何かしらの共通項を媒介として対比することが必要となるが、両者は多くが属レベルまで同定可能な分析であること、植生復元を目的の一つとする点が共通している。
- ③樹種同定では、サンプルを採取する材が自然木か、加工木かが分かり、加工木の場合は、杭・建築材・製品のように用途が判明している場合がある。遺構や土層などの情報にくわえ、遺物自体が有する属性から器種や用途が分かるといった情報があれば、目的に応じた樹種の選択や、利用樹種の経時的変化を明らかにすることが可能となる。

なお、両分析の総合化による通時的な植生を復元できることが理想であるが、資料的な制約もあり、自然木の樹種同定は津島岡大遺跡の縄文時代のデータのみとなっている。そのため、今回の総合化の試みでは、花粉分析

と自然木の樹種同定の対照は縄文時代に限ることを断っておく。

(2) 方法

先述のとおり、異なる分析で得られたデータを総合化して比較検討するためには、お互いに共通する基準を軸に再整理する必要がある。花粉分析は、定量サンプル中の花粉の個数が計数され、出現率がデータとして示される。樹種同定は、一分析のサンプル中での個数の計数データが示される。サンプル数は定量ではなく、多寡がある。両分析ではサンプリングの方法・基準が異なっていることを理解したうえで、本論では遺跡単位で集積したデータについて、出現率を基軸とする総合化を試みたい。

基礎データについては以下のように扱う。これまで報告された花粉分析の分類群には、木本類・草本類のほか、シダ植物、木本・草本類が含まれる。今回は、樹種同定のデータと比較検討を目的とするため、花粉分析については木本類の花粉のみを対象とし、報告されている全体の基数から木本類以外の分類群に属する個数を引いたものを木本類の基数として割合を再計算した。試料の帰属する時代については、発掘調査の成果に基づいて各層の時期が与えられている。ただし、その時間幅、精度、表記などについては、細部までのすり合わせは困難であり、ここでは大枠となる時代ごとにまとめた。

樹種同定データについては、津島岡大遺跡・鹿田遺跡それぞれの調査地点で出土・同定を行った資料の総和が基数となる。これも花粉分析と同じく、各時代の枠組みのなかでの出現率を算出し、大枠となる時代ごとにまとめた。

表6 樹種同定結果（鹿田遺跡）

	時代		弥生・古墳		古代		中世		近世		
	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	
針葉樹	モミ属	1	3.2	13	6.4	1	1.4	1	5.0		
	マツ属	4	12.9	21	10.3			1	5.0		
	スギ			26	12.8	56	76.7	4	20.0		
	ヒノキ	1	3.2	20	9.9	13	17.8	5	25.0		
広葉樹	ヤマモモ			1	0.5						
	ノグルミ			10	4.9						
	ヤナギ属			1	0.5						
	イヌシデ節			3	1.5						
	クリ	1	3.2	0	0.0			9	45.0		
	シイ属			10	4.9						
	コナラ節	1	3.2	3	1.5	1	1.4				
	アカガシ亜属	9	29.0	6	3.0						
	クスギ節	7	22.6	50	24.6						
	ケヤキ			5	2.5						
	ニワトコ			2	1.0						
	ヤマグワ	2	6.5								
	シキミ			2	1.0						
	クスノキ	2	6.5								
	クスノキ科			3	1.5						
	クロモジ属			2	1.0						
	カゴノキ			1	0.5						
	ヤブツバキ	1	3.2								
	サカキ			1	0.5						
	ヒサカキ	1	3.2	2	1.0						
	イスノキ			4	2.0						
	ウツギ属			1	0.5						
	カナメモチ			3	1.5	1	1.4				
	ユズリハ属			1	0.5	1	1.4				
	センダン			1	0.5						
	カエデ属	1	3.2	1	0.5						
	アワビキ			1	0.5						
	モチノキ属			1	0.5						
	クマノミズキ類			1	0.5						
	カキノキ属			2	1.0						
	エゴノキ属			2	1.0						
	イボタノキ属			2	1.0						
クサギ			1	0.5							
総計	31		203		73		20				

表7 樹種同定結果（津島岡大遺跡）

	時代		縄文		弥生		古代		近世	
	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率
針葉樹	カヤ	1	0.4	2	2.0					
	イヌガヤ	4	0.2	4	3.9					
	モミ属			5	4.9	12	7.5			
	ツガ属			1	1.0	11	6.8			
	マツ属					13	8.1	26	86.7	
	スギ					16	9.9			
	ヒノキ			2	2.0	15	9.3	1	3.3	
	ヤナギ属			1	1.0	8	5.0			
	クリ	2	0.9	1	1.0	1	0.6	1	3.3	
	シイ属	7	0.4	4	3.9	24	14.9			
広葉樹	コナラ亜属	6	0.2	19	18.6	5	3.1			
	アカガシ亜属	167	73.9	16	15.7	23	14.3	1	3.3	
	クスギ節	1	0.4	32	31.4	14	8.7			
	ケヤキ	6	2.7							
	ムクノキ	7	3.1	6	5.9			1	3.3	
	エノキ属	1	0.4	2	2.0	1	0.6			
	モチノキ属	3	1.3	1	1.0	3	1.9			
	ムクロジ	3	1.3							
	ツバキ属			2	2.0					
	クワ属	1	0.4	1	1.0					
	クスノキ科	3	1.3	1	1.0					
	サカキ	4	1.8	1	1.0	6	3.7			
	リンボク	10	4.4	1	1.0					
	センダン					1	0.6			
	ユズリハ属					3	1.9			
	カキノキ属					3	1.9			
	ヤブニッケイ					1	0.6			
	モモ					1	0.6			
	サイカチ	1	0.4							
	ケンボナシ属	1	0.4							
総計	228		102		161		30			

また、花粉分析と樹種同定を比較・検討するために、植物の配列を揃えた。植物の配列順については、『岡山県の樹木図鑑』（狩山2009）を参照、準拠した。

表6～8は、上記の方法で再整理したものである。また、この表をグラフ化したものが図28である。

c. 結果

(1) 周辺植生と利用樹種

この一覧表とグラフからは、周辺植生と利用樹種について、時代ごとの傾向をうかがうことができる。

周辺植生 遺跡周辺の植生は、自然木の樹種同定および花粉分析のデータを用いて推定する。

縄文時代から中世まではアカガシやコナラなどのブナ類が卓越し、古墳時代以降、スギが一定の比率で出現する。ただし、針葉樹は中世まで優勢とはならない。マツ属は古代以降に比率を高め、近世・近代に大きな割合を占めるようになることがうかがえる。

利用樹種の選択 利用樹種については、製品・加工木の樹種同定データを参照する。木製品を含めた、加工痕をもつ材の樹種選択をみてみると、縄文・弥生・古墳時代ではアカガシ・コナラ・クヌギなどのブナ類が多数を占める。また、弥生～古代までは、割合は小さいものの、多種の広葉樹の利用がみられる。古代以降、マツ・スギ・ヒノキといった針葉樹の選択が優勢となる。中世以降では広葉樹の利用がわずかとなる。

周辺植生と利用樹種の関係 花粉分析と自然木の樹種同定から推定される遺跡周辺の植生と、製品・加工木の樹種同定から得られた利用樹種の選択について、両者を時代ごとに対比しながらその関係をみてみると、縄文時代から古墳時代までは、ブナ類などの周辺植生における優勢種が利用樹種として多く選択される。中世では、岡山

表9 用途と樹種選択（津島岡大遺跡）

	時代		縄文						弥生						古代						近世						
	杭/加工木/製品 数/率		杭		加工木		製品		杭		加工木		製品		杭		加工木		製品		杭		加工木		製品		
針葉樹	カヤ		1	0.4				1	1.0																		
	イヌガヤ	3	1.3	1	0.4			4	3.9																		
	モミ属							1	1.0	3	2.9	1	1.0	10	6.2	1	0.6	1	0.6								
	ツガ属									1	1.0			9	5.6	1	0.6	1	0.6								
	マツ属													12	7.5	1	0.6			25	83.3	1	3.3				
	スギ													8	5.0	5	3.1	3	1.9								
	ヒノキ							2	2.0					8	5.0	5	3.1	2	1.2	1	3.3						
広葉樹	ヤナギ属							1	1.0				8	5.0													
	クリ	2	0.9							1	1.0			1	0.6					1	3.3						
	シイ属	7	3.1							4	3.9			24	14.9												
	コナラ亜属	1	0.4	5	2.2			3	2.9	15	14.7	1	1.0	5	3.1												
	アカガシ亜属	158	69.9	9	4.0			7	6.9	7	6.9	2	2.0	20	12.4	2	1.2	1	0.6	1	3.3						
	クヌギ節			1	0.4			3	2.9	29	28.4			14	8.7												
	ケヤキ	1	0.4	5	2.2																						
	ムクノキ	1	0.4	6	2.7			1	1.0	5	4.9									1	3.3						
	エノキ属	1	0.4							2	2.0			1	0.6												
	モチノキ属	3	1.3					1	1.0					3	1.9												
	ムクロジ	2	0.9	1	0.4																						
	ツバキ属							2	2.0																		
	クワ属	1	0.4							1	1.0																
	クスノキ科	3	1.3							1	1.0																
	サカキ	4	1.8					1	1.0					6	3.7												
	リンボク	10	4.4									1	1.0														
	センダン													1	0.6												
	ユズリハ属													3	1.9												
	カキノキ属													3	1.9												
	ヤブニツケイ													1	0.6												
モモ													1	0.6													
サイカチ			1	0.4																							
ケンボナンシ属			1	0.4																							
小計	197		31		0		27		70		5		138		15		8		29		1		0				
総計			n=228				n=102				n=161				n=30												

平野では優勢種でないスギ・ヒノキが利用樹種として圧倒的に選択される。このことは、縄文時代から古墳時代までは、遺跡の近在でも調達可能な材を選択して利用していること、中世以降は他地域から搬入していることを推測させるものである。

(2) 用途と樹種選択の関係

次に、選択された樹種がどのような用途で用いられているかをさぐる試みとして、一定の点数が分析されている時代ごとに、杭・加工木・製品の用途に分けて、使用されている樹種の点数をカウントした(表9・10)。両遺跡とも時代によって出土点数や分析点数に差があり、単純に比較することはできないが、一覧表からは次の点を読みとることが可能である。

- ①杭は、縄文時代から古代までは多くの樹種を利用する。縄文時代ではアカガシ亜属の割合が非常に高い。分析点数は少ないものの、近世はマツ属の利用が高まる。
 - ②加工木(板材を含む)は、縄文・弥生時代ではコナラ亜属・アカガシ亜属・クスギ節といったブナ科の広葉樹が多く、古代以降、針葉樹が多用される。
- ①・②から、杭は加工が単純で、少ないため、多様な樹種でまかなっていること、建築材や製品に用いる材は、用途に適した材を選択していることが考えられる。②から、古代になると、加工木において広葉樹から針葉

表10 用途と樹種選択(鹿田遺跡)

時代	弥生・古墳						古代						中世						近世					
	杭		加工木		製品		杭		加工木		製品		杭		加工木		製品		杭		加工木		製品	
	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率		
針葉樹	モミ属			1	3.2			10	4.9	2	1.0	1	0.5							1	5.0			
	マツ属	1	3.2			3	9.7	20	9.9			1	0.5							1	5.0			
	スギ							1	0.5	8	3.9	17	8.4			51	69.9	5	6.8	2	10.0	2	10.0	
	ヒノキ					1	3.2	2	1.0	1	0.5	17	8.4	1	1.4	1	1.4	11	15.1	3	15.0		2	10.0
	ヤマモモ							1	0.5															
広葉樹	ノグルミ							10	4.9															
	ヤナギ属											1	0.5											
	イヌシデ節							3	1.5															
	クリ					1	3.2														9	45.0		
	シイ属							10	4.9															
	コナラ節	1	3.2					3	1.5					1	1.4									
	アカガシ亜属			7	22.6	2	6.5	5	2.5			1	0.5											
	クスギ節	2	6.5	1	3.2	4	12.9	47	23.2	2	1.0	1	0.5											
	ケヤキ											5	2.5											
	ニワトコ											2	1.0											
	ヤマグワ					2	6.5																	
	シキミ							1	0.5	1	0.5													
	クスノキ			1	3.2	1	3.2																	
	クスノキ科							3	1.5															
	クロモジ属							2	1.0															
	カゴノキ							1	0.5															
	ヤブツバキ	1	3.2																					
	サカキ							1	0.5															
	ヒサカキ			1	3.2			2	1.0															
	イスノキ											4	2.0											
	ウツギ属							1	0.5															
	カナメモチ									3	1.5						1	1.4						
	エズリハ属							1	0.5					1	1.4									
	センダン							1	0.5															
	カエデ属					1	3.2	1	0.5															
	アワブキ							1	0.5															
	モチノキ属							1	0.5															
	クマノミズキ類							1	0.5															
	カキノキ属											2	1.0											
	エゴノキ属							2	1.0															
イボタノキ属							2	1.0																
クサギ							1	0.5																
小計	5		11		15		134		17		52		3		53		17		16		2	2		
総計			n=31					n=203					n=73					n=20						

樹への転換がなされたことが明らかとなる。これは山陽地方では古代に材の転換がなされるという扇崎由の指摘(扇崎2012)を追認するものである。このことはまた、他地域からの材の搬入という、周辺植生と樹種選択の関係から推測された事象とも関わる。鹿田遺跡では中世のスギ材を用いた井戸枠構成材のなかに焼印を押印するものが認められている。また、数枚の材が接合し、打ち割りによって板材に再加工される前は樽という規格流通材の形であったことも明らかにされてきた(光本2004)。こうした事例は加工材として中世に多用された針葉樹が搬入品であることを示す資料である。岡山大学構内遺跡の事例について、中世段階の周辺植生と遺跡から出土する針葉樹材の量を鑑みれば、その多くが他地域から流通してきたものと考えることができよう。

d. まとめ

植生復元において、津島岡大遺跡の縄文時代のデータでは、自然木の樹種同定、花粉分析の傾向はほぼ一致している。今後、異なる時代の試料も含め、データの数を増やししながら、総合化により相互に補完可能かを検証し続けていくことが必要である。

利用樹種の選択について、古代に大きな転換があることがわかった。周辺植生と利用樹種について、古代以降、周辺植生で優勢とならない針葉樹の利用がほとんどとなる。これは供給体系の整備との関係が想定される。岡山大学構内遺跡の資料に限ってみれば、利用される樹種の変遷は、花粉分析の成果や、中世に流通した遺跡出土の規格材のあり方とも調和的で、遺跡をとりまく植生(自然環境の変化)、資源流通網の整備(社会の変化)を反映していると考えられる。

これまで自然科学的分析データは、当該の報告書において記載された後、別の研究素材として二次的に利用されるのが少なかったと思う。本論は、こうした「埋もれたデータ」を活かすための試みでもあることを最後に記しておきたい。

註

- 1) 本論では、岡山大学構内遺跡における分析は2019年報告分までを対象としている。その後も継続して分析が行われており、今後、逐次更新されることとなるが、分析数の少ない近世以降を除き、大局的な面で大きな変更は生じないと考えている。

【参考文献】

- 扇崎由2012「中国(1)」『木の考古学』、pp.286-290
狩山俊吾2009『岡山県の樹木図鑑』
林竜馬2018「遺跡の花粉分析から地域スケールの植生史をさぐる～滋賀県の遺跡古生態学データベースに基づく植生景観復元への試み～」『季刊考古学』145、pp.24-27
光本順2004「鹿田遺跡第5次調査出土の井戸枠に関する再検討―焼印と木材の規格―」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2004』、pp.25-36

岡山大学構内遺跡分析一覧

【樹種同定】

- 能城修一1992「岡山大学津島地区から出土した木材化石の樹種」『津島岡大遺跡』3
能城修一1993「津島岡大、鹿田遺跡出土の木製品、木材化石の樹種同定(再録)」『岡山大学構内遺跡調査研究年報10』
能城修一1993「岡山大学鹿田地区から出土した木製品の樹種」『鹿田遺跡』3
能城修一1995「岡山大学津島地区から出土した木材化石の樹種」『津島岡大遺跡』6
能城修一1998「津島岡大遺跡第9次、第12次調査出土の木製品の樹種」『津島岡大遺跡』10
能城修一2003「津島岡大遺跡第10次調査および第12次調査より出土した木材の樹種」『津島岡大遺跡』11
能城修一2003「津島岡大遺跡第19次調査より出土した木材の樹種」『津島岡大遺跡』12

- (株)古環境研究所2003「樹種同定」(津島岡大遺跡第27次調査)『津島岡大遺跡』13
 能城修一2004「津島岡大遺跡第15次調査出土木材の樹種」『津島岡大遺跡』14
 能城修一2005「津島岡大遺跡第26次調査出土木材の樹種」『津島岡大遺跡』15
 能城修一2005「津島岡大遺跡第22次調査出土木材の樹種」『津島岡大遺跡』16
 能城修一・佐々木由香2006「津島岡大遺跡第23・24次調査出土木材の樹種」『津島岡大遺跡』17
 能城修一2007「岡山大学構内鹿田遺跡第7次調査出土の樹種」『鹿田遺跡』5
 (株)吉田生物研究所2007「鹿田遺跡第7次調査出土木製品の樹種調査結果」『鹿田遺跡』5
 (株)元興寺文化財研究所2007「猿形木製品の樹種鑑定と赤色顔料分析」『鹿田遺跡』5
 能城修一2010「鹿田遺跡第13・15次調査出土木材の樹種」『鹿田遺跡』6
 (株)吉田生物研究所2010「曲物の樹種同定」『鹿田遺跡』6
 能城修一2011「津島岡大遺跡第32次調査出土自然木の樹種」『津島岡大遺跡』20
 (株)吉田生物研究所2011「津島岡大遺跡第32次調査出土のアンペラの樹種」『津島岡大遺跡』20
 能城修一2013「鹿田遺跡第10・14・18次調査出土木製品の樹種同定」『鹿田遺跡』7
 (株)吉田生物研究所2014「鹿田遺跡第14次調査出土木製品の樹種」『鹿田遺跡』8
 能城修一2016「鹿田遺跡第23次調査出土枕木の樹種」『鹿田遺跡』9
 能城修一2018「鹿田遺跡第24次調査出土木製品類の樹種」『鹿田遺跡』11
 (株)吉田生物研究所2018「岡山大学鹿田遺跡出土木製品の樹種調査結果」『鹿田遺跡』11
 能城修一2018「鹿田遺跡第20次調査A地点・25次調査出土木製品類と自然木の樹種」『鹿田遺跡』12
 能城修一2019「鹿田遺跡第17・26次調査出土木製品類と自然木の樹種」『鹿田遺跡』13
 (株)吉田生物研究所2019「鹿田遺跡第26次調査出土曲物の樹種同定」『鹿田遺跡』13

【花粉分析】

- 三好教夫(要約:栄一郎)1986「BH13区第IX・X層土壌の花粉分析結果について」『岡山大学津島地区遺跡群の調査Ⅱ(農学部構内BH13区他)』
 三好教夫1995「津島岡大遺跡第6次調査地点の花粉分析と土壌分析」『津島岡大遺跡』6
 (株)古環境研究所2003「花粉分析」(津島岡大遺跡第27次調査)『津島岡大遺跡』13
 (株)古環境研究所2006「花粉分析」(津島岡大遺跡第23次調査)『津島岡大遺跡』17
 (株)古環境研究所2008「花粉分析」(津島岡大遺跡第28次調査)『津島岡大遺跡』18
 (株)古環境研究所2010「花粉分析」(鹿田遺跡第13次調査)『鹿田遺跡』6
 (株)古環境研究所2011「花粉分析」(津島岡大遺跡第32次調査)『津島岡大遺跡』20
 (株)古環境研究所2014「鹿田遺跡第14次調査における花粉分析」『鹿田遺跡』8
 (株)古環境研究所2015「花粉分析」(津島岡大遺跡第33次調査)『津島岡大遺跡』21
 (株)古環境研究所2016「花粉分析」(鹿田遺跡第23次調査)『鹿田遺跡』9

第2章 調査資料の整理および公開・活用

第1節 調査資料の整理・保存処理

1. 調査資料の整理

2021年度は、津島岡大遺跡第37次調査、鹿田遺跡第18・20・22・29次調査の整理作業を実施した。具体的には、津島岡大遺跡第37次調査では遺物の洗浄・注記、土壌洗浄、鹿田遺跡第18次調査では遺物復元、土壌洗浄、第20次調査では図面の整理・トレース、遺物の接合・復元・実測・トレース・版組、木製品の整理・実測・トレース・試料採取、第22次調査では図面整理、遺物の整理・実測、第29次調査では図面整理を行った。そして、鹿田遺跡第20次調査成果については『鹿田遺跡16』（岡山大学構内遺跡発掘調査報告38冊）として刊行した。また、『紀要2020』において津島岡大遺跡第35次調査の発掘調査報告書を掲載した。

自然科学的分析は表11の通りである。 (山口)

表11 2021年度分析一覧

調査次	分析資料	分析の種類	分析機関・分析者	主な結果
鹿田第20次	動物遺存体	同定	富岡直人	『鹿田遺跡16』参照
鹿田第20次	種子	同定	沖陽子	『鹿田遺跡16』参照
鹿田第20次	木製品	樹種同定	能城修一	『鹿田遺跡16』参照
鹿田第20次	マツ	年代測定	パレオ・ラボ	『鹿田遺跡16』参照
鹿田第25次	石鍋	成分分析	白石純	紀要2020第1章3節参照

2. 調査資料の保存処理

a. 木製品のPEG処理

2021年度は昨年度から継続して第14期の保存処理を実施した。

第14期：鹿田遺跡第9・11次調査、同第20次調査、同23次調査、同24次調査、同25次調査、同26次調査、津島岡大遺跡第27次調査

b. 出土遺物の委託保存処理

鹿田遺跡第28次調査出土曲物の保存処理を株式会社吉田生物研究所に委託し、2022年3月に納品された。

(山口)

第2節 調査成果の公開・活用

1. 公開・展示

a. 第21回岡山大学キャンパス発掘成果展

2021年度のキャンパス発掘成果展は、「藤原撰関家殿下渡領 鹿田庄」と題し、岡山大学文化科学系総合研究棟一階の考古資料展示室を会場に開催準備を進め、展示自体は完成させていた。しかし、2021年度にはいっても、新型コロナウイルス感染症の流行は拡大と鎮静化を繰り返していた。広報・周知のタイミングをはかってみたものの、感染は収まらず、また、急な感染拡大も予想されたため、2021年度の開催を見送り、次年度に延期す

ることとした。

(野崎)

b. 公開講座

「考古学と関連科学」を全体テーマとした本センターの講座は、2021年度で6年目となった。2019・2020年度は新型コロナウイルスの流行によって2回ずつの開催となったが、2021年度は当初の計画通り第14～16回の3回を開催することができた。2020年度の第13回では対面とオンラインのハイブリッド形式で開催したこともあり、2021年度もハイブリッド形式での開催を模索した。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から対面での開催は難しいと判断し、オンラインのみで行うこととなった。それに伴って、本公開講座の特徴の一つである関連遺物の展示は行うことができなかった。また、参加費も無料とした。

申し込み方法はこれまでと同様にメールと郵送で受け付け、参加者へ講座のZoomアドレスと資料をメールにて送付した。参加者は日本全国からあり、一部海外からの問い合わせもあった。また参加者に実施したアンケート結果から、職業は一般・研究者・学生(中～大学生)、年齢も10～70代以上と非常に幅広い層の参加を得ることができた。これは、これまでの参加者の傾向とは全く異なるものであり、オンラインで行うことのメリットが最大限発揮されたものと考えられる。また参加者の多くは、これからの開催に際して少なくともオンライン形式での開催を望んでいることもわかった。一方で、前述したようにオンラインでの参加者には講座内容に関連する遺物展示の観覧がかなわない。今後の開催方式についてはこの点を念頭に、より広く研究内容の発信と学習効果を高める工夫を行えるように検討をする必要がある。

なお、2021年度の実施内容は以下の通りである。

第14回「シミュレーションからみた人口と文化」

2021年11月20日(土) 14:00～16:00 オンライン 参加者34名

松本直子(岡山大学文明動態学研究所教授)「シミュレーションで考える弥生文化の拡散」

山口雄治(本センター助教)「中国地方における縄文時代集落の人口」

第15回「高級調理具「石鍋」からみた古代・中世」

2022年1月22日(土) 14:00～16:00 オンライン 参加者29名

新里亮人(熊本大学埋蔵文化財調査センター助教)「石鍋からみた九州と琉球列島」

南健太郎(本センター助教)「古代・中世における石鍋生産」

第16回「岩陰遺跡からみた古墳時代」

2022年3月26日(土) 14:00～16:00 オンライン 参加者30名

清家章(岡山大学大学院社会文化科学研究科教授)

「和歌山県磯間岩陰遺跡の被葬者と親族関係」

「古墳時代岩陰遺跡・洞窟遺跡と環境変動」

(山口)

2. 資料・施設等の利活用

a. 調査・研究への支援

(1) 資料調査

- ・津島岡大遺跡突帯文土器：宮里修(高知大) 2021年9月30日
- ・津島岡大遺跡第17・22次調査出土土器・石器：酒井雅代(鳥取県・岡大院) 2021年10月18～21日
- ・津島岡大遺跡出土土器・木製品：藤尾慎一郎(国立歴史民俗博物館) 2021年12月14日

(2) 図書の貸し出し

- ・ 4冊（岡山大学教員・学生）

(3) 資料提供

- ・ 福呂遺跡出土土器：水ノ江和同（同志社大）2021年7月12日

(4) 写真掲載・画像利用等

- ・ 『吉備の弥生時代』掲載画像：山陽新聞社 2021年4月28日
- ・ 『センター報』26掲載画像（毬杖）：晃洋書房 2021年5月21日
- ・ 『吉備の弥生時代』掲載画像：小野田伸（岡山市）2021年11月10日

(5) マスコットキャラクター活用

- ・ しかたん画像 岡山大学工学部創造工学センター 2021年8月3・17日
- ・ しかたん画像 岡山大学医療安全管理部 2021年10月26日・11月15～26日
- ・ しかたん着ぐるみ 岡山大学医療安全管理部 2021年11月19～26日

(6) 機器使用依頼

- ・ 赤外線カメラ：三浦孝章（高梁市）2021年10月19日

b. 教育支援

(1) 博物館実習

2021年度の人文系博物館実習aでは「考古資料の取り扱い」を担当し、8月11・17日に12名の実習生が受講した。本実習では発掘調査で出土した資料の整理作業を通じて基礎的知識を習得することを目的とした。コロナ禍ということもあり、事前に「対面授業等実施のための感染防止対策のチェックリスト」を提出し、感染対策を講じた上で行った。実習は、土器の洗浄・注記・接合作業を中心に行った。そして最後には展示室を見学し、資料の公開・活用へと至る今回の実習内容の意義を考えた。また、実習内容の総括と反省について個別に発表する時間を設けた。それぞれが発表しディスカッションすることで、実習の習熟度とコミュニケーション能力を高めることを図った。さらに、非常勤職員とともに作業にあたるという職場環境を提供し、実践型社会連携教育の効果も図った。

(2) 学内ワークスタディ

2021年度は1名の学生（法学部）を雇用し、構内遺跡出土の遺物整理作業、および発掘調査報告書作成作業を行った。

c. 社会貢献

(1) 中学生職場体験

- ・ 岡山市岡北中学校 2021年11月9～11日 3名

(2) 職員の兼務

山本悦世

- ・ 岡山県文化財保護審議会委員
- ・ 岡山県埋蔵文化財専門委員
- ・ 岡山県埋蔵文化財保護調査指導委員
- ・ 鳥根県古代文化センター企画運営委員
- ・ 松江市文化財保護審議会委員

岩崎志保

- ・岡山県埋蔵文化財保護調査指導委員

野崎貴博

- ・岡山県埋蔵文化財保護調査指導委員

南健太郎

- ・岡山県埋蔵文化財保護調査指導委員

山口雄治

- ・ノートルダム清心女子大学文学部現代社会学科 非常勤講師
- ・国立歴史民俗博物館 共同研究員
- ・金沢大学人間社会研究域附属古代文明・文化資源学研究センター 客員研究員

(3) 展示見学の受け入れ

- ・常設展示室見学：6名（一般1名） (山口)

第3節 調査研究員の個別研究活動

1. 外部資金獲得状況

岩崎志保：2021年度RIDC共同研究「ICT技術による文化資源の社会化と活用に関する実践的研究」研究代表者

野崎貴博：科学研究費基盤研究（S）「王陵級巨大古墳の構造分析に関する文理融合型総合研究」（研究代表者：岡山大学 清家章）研究分担者

南健太郎：科学研究費基盤研究（B）「三角縁神獣鏡の製作地解明に向けたミュオンビームによる非破壊成分分析とその検証」研究代表者

2021年度RIDC共同研究「ミュオン完全非破壊成分分析による日本最古の墨書文字の実態解明」研究代表者

科学研究費基盤研究（S）「王陵級巨大古墳の構造分析に関する文理融合型総合研究」（研究代表者：岡山大学 清家章）研究分担者

科学研究費基盤研究（B）「古代東アジア青銅鑄物の研究：ミュオン非破壊分析と鑄造凝固解析で解明する超絶技巧」（研究代表者：富山大学 長柄毅一）研究分担者

科学研究費国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））「三角縁神獣鏡製作地同定へ向けて－華北東部系鏡群の調査を中心に－」（研究代表者：奈良県立橿原考古学研究所 清水康二）研究分担者

科学研究費挑戦的研究（開発）「宇宙線を用いた完全非破壊オンサイト成分分析法の開拓：古代青銅器文化の解明に向けて」（研究代表者：大阪大学 佐藤朗）研究分担者

山口雄治：科学研究費基盤研究（C）「西日本における縄文時代の人口動態に関する研究」研究代表者

公益財団法人高梨学術奨励基金令和3年度若手研究助成「アナトリアにおける後期銅石器～前期青銅器時代集落の研究」研究代表者

科学研究費基盤研究（S）「王陵級巨大古墳の構造分析に関する文理融合型総合研究」（研究代表者：岡山大学 清家章）研究分担者

科学研究費基盤研究（A）「原シルクロードの形成－中央アジア山岳地帯の初期開発史に関する総合

研究－」（研究代表者：金沢大学 久米正吾）研究分担者

2. 論文・研究報告ほか

岩崎志保

岩崎志保・沖陽子2022「鹿田遺跡第20次調査出土種子同定」『鹿田遺跡16』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター、pp.112-118.

南健太郎

南健太郎2021「銅鏡埋納の背景」『古代吉備』第32集 古代吉備研究会、pp.1-15.

南健太郎2021「鋸歯文配置からみた銅鐸製作工人集団の動態－加茂岩倉35号鐸型の系譜関係を中心に－」『滋賀県立大学考古学研究室論集』I 滋賀県立大学考古学研究室、pp.21-30.

MINAMI, K. 2021「Technological positioning of the triangular-rimmed deity-and-beast mirrors by considering the location of the gate of mold」『アジア鑄造技術史学会研究発表資料集』第14号 アジア鑄造技術史学会、pp.16-18.

長柄毅一・南健太郎・廣川守・三船温尚2021「三角縁神獸鏡の鑄造シミュレーションによる湯流れ、凝固過程の考察」『アジア鑄造技術史学会研究発表資料集』第14号 アジア鑄造技術史学会、pp.19-21.

南健太郎2021「日本列島最古の文字とミュオン分析の展望」『KEK Proceedings』2021-1 KEK、pp.136-153.

南健太郎2021「岡山大学構内遺跡出土古代・中世の墨書土器」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要』2020 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター、pp.24-31.

白石純・南健太郎2021「岡山県岡山市鹿田遺跡第25次調査出土石鍋の分析」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要』2020 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター、pp.32-34.

南健太郎・三船温尚・清山隆2022「三角縁神獸鏡の注湯方法復元に向けた鑄造実験」『FUSUS』Vol.14 アジア鑄造技術史学会、pp.65-74.

南健太郎・反保元伸2021「ミュオン非破壊分析による弥生時代墨書文字の検討」『KEK Proceedings』2021-7 KEK、pp.53-65.

南健太郎2022「重圏文鏡生産開始期の技術様相－湯口・湯道の設置方法の検討から－」『FUSUS』Vol.14 アジア鑄造技術史学会、pp.89-93.

南健太郎2022「「専」に関する墨書土器とその解釈」『文明動態学』Vol.1 岡山大学文明動態学研究所、pp.82-91.

山口雄治

Nakagawa, T., K. Tamura, Y. Yamaguchi, N. Matsumoto, T. Matsugi and H. Nakao 2021 Population pressure and prehistoric violence in the Yayoi period of Japan. *Journal of Archaeological Science*, 132, 105420. DOI: 10.1016/j.jas.2021.105420

山口雄治2021「中央アナトリアにおける都市成立期の地域間交流」『高梨学術奨励基金年報－令和2年度研究成果報告－』公益財団法人高梨学術奨励基金、pp.41-47.

光本順・山口雄治・R. ジョセフ2022「LiDAR測量による岡山県赤磐市鳥取上高塚古墳の墳丘の検討」『文明動態学』Vol.1 岡山大学文明動態学研究所、pp.67-81. DOI:10.18926/63028

山口雄治2022「キュルテペ遺跡の赤黒土器－紀元前4－3千年紀の地域間交流－」『西アジア考古学』23 日本西アジア考古学会、pp.101-110.

紺谷亮一・山口雄治・F. クラックオウル2022「中央アナトリアにおける銅石器時代解明へ向けて—キュルテペ遺跡中央トレンチ発掘調査2021年—」『第29回西アジア発掘調査報告会報告集』西アジア考古学会、pp.97-99.

3. 研究発表・講演ほか

山本悦世

山本悦世「環境変化からみた岡山県南部域における縄文時代後期集落形成の背景—旭川下流域西岸地域を取り上げて—」2021年6月19日 オンライン（中四国縄文研究会）

南健太郎

MINAMI, K. Technological positioning of the triangular-rimmed deity-and-beast mirrors by considering the location of the gate of mold. 2021年8月21-23日 オンライン（アジア鑄造技術史学会第14回高岡大会）

長柄毅一・南健太郎・廣川守・三船温尚「三角縁神獣鏡の鑄造シミュレーションによる湯流れ、凝固過程の考察」2021年8月21-23日 オンライン（アジア鑄造技術史学会第14回高岡大会）

南健太郎「『吉備の弥生時代』から探る弥生社会像」2021年8月25日 オンライン（明治大学博物館友の会・弥生文化研究会寺子屋式研究会オンライン講演会）

南健太郎・反保元伸「ミュオン非破壊分析による弥生時代墨書文字の検討」2021年9月9-10日 オンライン（第5回文理融合シンポジウム 量子ビームで歴史を探る—加速器が紡ぐ文理融合の地平—）

南健太郎「特性X線ミュオンによる考古学研究の新展開」2021年9月28日 オンライン（日本科学者会議岡山支部例会）

南健太郎「壊さずしてモノの内部情報を探る—ミュオン非破壊分析法による考古学研究—」2021年12月15日 オンライン（第7回RIDCマンスリーセミナー）

南健太郎「ミュオン非破壊分析による三角縁神獣鏡鑄造技術の研究」2022年1月7-8日 大阪大学 豊中キャンパス 南部陽一郎ホール・オンライン（第6回文理融合シンポジウム 量子ビームで歴史を探る—加速器が紡ぐ文理融合の地平—）

南健太郎「古代・中世における石鍋生産」2022年1月22日 オンライン（岡山大学埋蔵文化財調査研究センター第15回公開講座）

南健太郎「ミュオン非破壊分析法による考古資料の成分分析」2022年2月12日 オンライン（考古学研究会岡山2月例会）

山口雄治

光本順・R. ジョセフ・山口雄治「岡山市造山古墳群のLidar測量」2021年3月27-28日 オンライン（考古学研究会第67回研究集会ポスターセッション）

Uesugi, A., Y. Yamaguchi, S. Watanabe, M. Abe, T. Miki and J. Gregg. Spatial analysis on Early Dilmun burial mounds in Bahrain using high-resolution terrain models. 2021年7月2-4、9-11日（The 54th Seminar for Arabian Studies）

山口雄治「LiDARデータによるDEM作成とその精度」2021年9月26日 オンライン（出ユーラシアの統合的人類史学A01班研究会発表会）

山口雄治「中国地方における縄文時代集落の人口」2021年11月20日 オンライン（岡山大学埋蔵文化財調査研究センター第14回公開講座）

- 光本順・R. ジョセフ・山口雄治・清家章「岡山県内の古墳のUAV-LiDAR測量に関する成果と展望」2022年1月8・9日 オンライン（出ユーラシアの統合的人類史学 第6回全体会議）
- 山口雄治「津島岡大遺跡・百間川遺跡群の水田等の遺構について」2022年1月22・23日岡山NPD会議室（令和3年度第2回歴博基幹研究「水をめぐる認知と技術と社会の連環からみた日本列島の歴史過程と文化の形成」研究会）
- 紺谷亮一・山口雄治・F. クラックオウル「中央アナトリアにおける銅石器時代解明へ向けて－キュルテベ遺跡中央トレンチ発掘調査2021年－」2022年3月12・13日 広島県民文化センター（第29回西アジア発掘調査報告会）
- 光本順・R. ジョセフ・山口雄治「岡山県津山市佐良山古墳群内におけるUAV-LiDAR測量」2022年3月26・27日 オンライン（日本情報考古学会第46回大会）（山口）

第3章 2021年度における調査・研究のまとめ

調査

2021年度は津島キャンパスにおいて津島岡大遺跡第40次調査、鹿田キャンパスにおいて鹿田遺跡第29次調査を行った。津島岡大遺跡第40次調査では、遺構・遺物の検出がわずかではあったが、隣接する第28・31次調査間の地形および人間活動について面的に明らかにすることができた。縄文時代後期の活動痕跡は希薄であることから本調査地点は集落縁辺部に当たるものと考えられ、また弥生時代前期には低位部に畦畔がつくられていることが判明し、既往の調査成果を補強する成果となった。鹿田遺跡第29次調査では、弥生時代後期の水田と考えられる高まりとその低位部を画する位置に溝群が検出された。周辺調査地点で確認されている水田が本調査地点にも広がっていることが示されたが、今後の自然科学的分析によってより詳細が明らかになるものと考えられる。また中世では、その前半では遺構が井戸1基のみであったが、後半では屋敷地を構成する遺構群が多数確認された。本調査地点では中世後半において屋敷地としての利用が開始されたものと考えられ、周辺調査地点とは異なる動向を示す。中世における屋敷地の変遷を考える新たなデータを得ることができた。

津島地区のライフライン再生に伴う立会調査では、津島地区北～中央にかけての地形と環境に関するデータを得ることができた。これにより、山陽道の一部をなすと考えられる福輪寺縄手の範囲を考察することが可能となった点は注目されるものである。

研究

発掘調査の資料整理では、鹿田遺跡第20次調査B・D地点の成果をまとめ、『鹿田遺跡16』として報告書を刊行した。本調査地点は鹿田遺跡中央部に位置し、隣接する第9・11次、第14次、第20次A・25次調査地点を含めると調査面積がおよそ10,000㎡となり、広く面的に考古学的状況を明らかにできるようになった。特筆される成果としては、弥生～古墳時代初頭の微地形に関する情報を得られたこと、中世から近世にかけての屋敷地の区画溝を確認できたことで集落構造を検討できる知見を得たことが挙げられる。後者については、本紀要第1章第3節1において考察されている。また、津島岡大遺跡第35次調査についても報告できた。

研究費は、科学研究費補助金研究代表者が2件、分担研究者7件であった。また、岡山大学文明動態学研究所の共同研究助成が2件、民間の研究助成が1件であった。

情報発信

本年度においても新型コロナウイルス感染症は情報発信活動に影響を与え、キャンパス発掘成果展は中止とせざるを得なかった。一方で、公開講座はオンラインのみに方法を変更し、開催することができた。また、津島岡大遺跡第40次調査の発掘調査現地公開も、規模を縮小せざるを得なかったものの、行うことができた。このように本年度は、コロナ禍における情報発信活動のノウハウが一定程度蓄積され、新しい方法による活動の模索と実践が行われた年度であったといえる。これをさらに発展させることで、様々な方々へ成果を届けられるよう、積極的な情報発信に努めたい。

まとめ

以上、2021年度も発掘調査や報告書作成によって成果が得られ、情報発信活動も、制限はあったものの、行うことができた。本年度は発掘調査や立会調査が多く、津島岡大遺跡、鹿田遺跡双方に新たなデータが追加された点の特徴として挙げられよう。今後、報告書刊行に向けて更なる分析を行っていききたい。

本センターは2021年度をもって廃止となり、2022年度からは文明動態学研究所へと統合された。これまでの事業は、同研究所文化遺産マネジメント部門として継続することとなる。今後もこれまで培ってきた事業・活動を継承し、構内遺跡の調査研究、情報発信を推進していきたい。

(山口)

(3) 埋蔵文化財調査研究センター・文明動態学研究所体制検討WG

【委員】

松本直子 文明動態学研究所所長

清家 章 埋蔵文化財調査研究センター副センター長

山本悦世 埋蔵文化財調査研究センター特任教授

岩崎志保 埋蔵文化財調査研究センター調査研究室長

【2021年度協議事項】

2021年5月20日

・研究所組織のあり方について

2021年7月8日

・研究所組織図案

2021年7月15日

・研究所組織・体制について

・埋蔵文化財調査委員会の設置について

2021年9月3日

・来年度以降の事務体制について

・委員会の設置について その他

2021年9月30日

・来年度以降の組織・体制・事務について

（*社文事務含めて協議）

2021年10月6日

・埋蔵文化財調査研究センター廃止と文明動態学研究所
改編について

2021年10月21日

・同上（*施設部・総務部・社文研事務とともに協議）

2021年12月8日

・研究所規程改定と部門内規について

2022年1月24日

・埋蔵文化財調査委員会内規について

・教員選考方法に関する規定について

2022年2月24日

・テニユアトラック審査基準について

b. 岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの規程

(1) 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程

〔平成16年4月1日〕
〔岡大規程第93号〕

改正 平成20年3月31日規程第28号
平成23年3月31日規程第26号
平成23年9月27日規程第84号
平成26年1月28日規程第1号
平成31年3月29日規程第63号
令和3年2月4日規程第8号

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人岡山大学管理学則（平成16年岡大規則第1号）第26条の規定に基づき、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、岡山大学（以下「本学」という。）の敷地内の埋蔵文化財について、次の各号に掲げる業務を行い、もって埋蔵文化財の保護を図ることを目的とする。

- 一 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
- 二 発掘された埋蔵文化財の整理及び保存に関すること。
- 三 埋蔵文化財の発掘調査報告書の作成等に関すること。
- 四 その他埋蔵文化財の保護に関する重要な事項

(自己評価等)

第3条 センターは、センターに係る自己点検及び評価（以下「自己評価」という。）を行い、その結果を公表する。
2 前項の自己評価については、本学の職員以外の者による検証を受けることを原則とする。

(教育研究等の状況の公表)

第4条 センターは、教育研究及び組織運営の状況等について、定期的に公表する。

(センター長)

第5条 センターにセンター長を置く。
2 センター長は、財務・施設担当理事をもって充てる。
3 センター長は、センターを代表し、その業務を総括する。

(副センター長)

第6条 センターに副センター長を置く。
2 副センター長は専門的知識を有する本学の教授のうちから学長が任命する。
3 副センター長は、センター長の職務を助ける。
4 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(調査研究室)

第7条 センターにセンターの業務を処理するため調査研究

室を置く。

- 2 調査研究室は、室長、センター専任の教員及びその他必要な職員で構成する。
- 3 室長は、専門的知識を有する本学の教員のうちからセンター長の推薦に基づき、学長が任命する。
- 4 室長の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 5 調査研究室の構成員は、センター長の命を受け、センターの業務に従事する。

(調査研究専門委員)

第8条 センターに、センターの業務のうち特に専門的な事項についての調査研究の推進を図るため、調査研究専門委員（以下「専門委員」という。）を置く。

- 2 専門委員は、本学の教員のうちからセンター長が委嘱する。
- 3 専門委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(運営委員会)

第9条 センターに、センターの運営に関する重要な事項を審議するため、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会に関し、必要な事項は、別に定める。

(事務)

第10条 センターの事務は、施設企画部施設企画課において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、センターに関し、必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年11月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年1月28日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

(2) 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会規程

(平成26年1月28日)
(岡大規程第2号)

改正 平成27年3月31日規程第65号

(趣旨)

第1条 この規程は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程（平成16年岡大規程第93号）第9条第2項の規定に基づき、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）の運営に関する次の事項を審議する。

- 一 センターの業務に関する重要事項
- 二 教員の教育研究業績の審査に関する事項
- 三 その他センターの運営に関する重要事項

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 センター長
 - 二 副センター長
 - 三 本学の教授のうちからセンター長が必要と認めたる若干人
 - 四 センターの調査研究室長
 - 五 センターの調査研究専門委員のうちからセンター長が必要と認めたる 1人
 - 六 施設企画部長
- 2 前項第3号及び第5号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の在任期間とする。
- 3 教員の選考に関する事項を審議する場合には、第1項第

4号及び第5号のうち教授でない者並びに第6号の委員は、審議に加わらないものとする。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときには、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(委員会の成立等)

第5条 運営委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

- 2 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(事務)

第7条 運営委員会の事務は、施設企画部施設企画課において処理する。

附 則

- 1 この規程は、平成26年1月28日から施行する。
- 2 この規程の施行後に最初に任命される第3条第1項第3号及び第5号の委員は、この規程の施行に伴い廃止される岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会内規（平成16年4月1日学長裁定）第3条第1項第3号及び第4号の委員をそれぞれ充てることとし、その任期は、第3条第2項の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

c. 岡山大学構内遺跡の発掘調査にかかわる安全管理事項

岡山大学構内遺跡の発掘調査にかかわる安全管理事項

平成12年5月15日

埋蔵文化財調査研究センター長
施設部長

I. 請負業者が留意すべき事項

1. 請負業者は現場代理人を発掘作業の現場に常駐させ、作業員の安全と健康の管理につとめること。
2. 発掘作業の現場に「地山掘削」と「土止め支保工」の技能講習修了者をおき、作業員の安全や健康にも注

意すること。

3. 工事用電力の保安責任者をおくこと。
4. 非常停止装置を備えたベルトコンベアーを用いること。
5. 重機の運転は、免許所有者がおこなうよう厳守させること。

II. 発掘現場で注意すべき事項

1. 服装・装備・用具等

- 1) 安全で機能的な服装にする。
- 2) 平坦面から2m以上の穴等を掘削する場合は、ヘルメットを着用する。
- 3) ベルトコンベアーの移動時および周辺での作業の際には、ヘルメットを着用する。
- 4) グラインダーを使用する際は、手袋・防護眼鏡を着用する。
- 5) スコップ・草削りなどの用具は、危険がないよう使用方法や置き方や保管方法に十分注意する。

2. 掘削

1) のり面の角度

造成土：通常の土壌の場合は50～60度とし、これを確保できない場合は土止め等の手当をおこなう。砂地の造成土の場合は35度とし、これを確保できない場合は土止め等の手当をおこなう。

堆積土：基本75度とし、状況や土質に応じて安全な角度をとる。

発掘区の壁際を深さ1.5m以上掘削する場合は、原則として途中で段を設ける。その場合の段の巾は、60cm以上とする。

2) のり面の保護

のり面はシート等で覆うなどし、崩落防止のために必要な保護措置をとる。

3) 深い遺構（深さ1.5m以上の遺構）

遺構掘削者以外の者が上面で安全確認を行い、十分な注意を払う。場合によっては周囲を広くカットして対応する。なお、作業現場内への昇降のために、階段を設置する。

3. 高所（高さ2m以上の場所）での作業

- 1) 作業中には安全帯を使用する。

- 2) 架台を組んだ場合は最上段に手すりを設け、安全を確保する。

- 3) 2段以上の架台は、分解して移動させる。

4. 発掘用機械類の操作

（ベルトコンベアー・ポンプ等）

- 1) 調査用電源の設置と取扱いについては、工事事業電力の保安責任者が安全確認を行う。

- 2) ベルトコンベアー・水中ポンプ等の知識を持つ者が整備・稼働させる。

- 3) ベルトコンベアーを重ねたつなぎ目の部分には、なるべく土が落ちないように措置をする。

- 4) 原則としてベルトコンベアーの直下での作業・通行を避ける。

- 5) ベルトコンベアーの移動時は作業員の中で指揮者を決め、周辺の安全性を確保したうえで移動させる。

（重機関係）

- 1) 重機の免許所有者以外は運転しない。

- 2) 運転者は、周囲の安全に注意する。

- 3) 稼働中は、重機の旋回半径内に立ち入らない。

5. 健康管理

- 1) 作業中に体調が悪くなった場合は直ちに申し出る。

III. その他

- 1) 作業現場内の状況の変化に絶えず注意し、異常を発見したら、直ちに作業を中止して現場代理人に報告し、施設部の監督職員の指示を受ける。

- 2) 調査区の状況や遺構などの特殊性・重要性等により、上記の2の1)～3)どおりに発掘作業を実施することが困難な場合は、現場代理人が監督職員と協議のうえ、安全に留意し作業を行う。

2. 2020年度以前の調査・研究一覧

付表1 1982年度以前の構内主要調査(1980～1982年度)

年度	地区名	種類	工事名称：調査名称	調査組織	調査面積 (㎡)	文献	備考
1980	鹿田	立会	歯学部附属病院棟新営	岡山市教育委員会	8		
1981	津島	BD26	農学部寄宿舎新営	〃			
	〃	〃	文法経 合併処理槽施設	〃			
	〃	〃	文法経 合併処理槽施設	〃			
	〃	BD09、 BC09～11	基幹整備(共同溝取付)	〃			
	〃	BD～BE04～07	陸上競技場改修(配水管施設)	〃			
	鹿田	〃	(医病)高気圧治療室新営	〃			
	〃	〃	(医病)動物実験棟新営	〃 岡山県教育委員会			大学が市教委への確認調査依頼をせずに掘削。その後、岡山市・岡山県教委が残存壁面の調査を実施
	〃	〃	(医病)理解剖体臓器処理保管庫新営	岡山市教育委員会			
1982	〃	〃	医学部運動場改修	〃			
	津島	AV06・10、 AW05・14、 AX08、BD07、 BE10	試掘 排水基幹整備	〃			津島AW14区で弥生時代包含層確認、協議→津島岡大遺跡第1次調査へ
	〃	AW14	発掘 文法経 排水集中槽(NP-1)埋設 ：津島岡大第1次調査	岡山大学	24.0	3	[小橋法目黒遺跡]と報告
	〃	〃	試掘 武道館新営	岡山市教育委員会	2.3		
	〃	AY15・16	〃 法経 校舎新営	〃	7.0		
	鹿田	〃	〃 医学部標本保存庫新営	岡山県教育委員会	8.0		
	〃	〃	〃 (医病)外来診療棟新営	〃 岡山市教育委員会	4.0	2	
〃	〃	立会 医学部動物実験施設関連排水管・ガス管理設	岡山県教育委員会		1		
〃	AE～AN22、 AE22～26	〃 歯学部電話ケーブル埋設	〃 岡山市教育委員会 岡山大学埋蔵文化財調査室				

文献

1. 光永真一 1983「岡山大学医学部附属病院動物実験施設新営工事に伴う排水管付設工事に伴う立会調査」『岡山県埋蔵文化財報告』13 岡山県教育委員会
2. 河本 清 1983「岡山大学医学部附属病院外来診療棟改築に伴う確認調査」『岡山県埋蔵文化財報告』13 岡山県教育委員会
3. 吉留秀敏 1985「岡山大学津島地区小橋法目黒遺跡(AW14区)の発掘調査」岡山大学構内遺跡発掘調査報告第1集 岡山大学埋蔵文化財調査室

付表2 2020年度以前の構内主要調査(1983～2020年度)

* 凡例	内容
・総合番号：調査地区別通し番号(立会調査は選択的に保存)	
・津島岡大遺跡第1次調査は、本機関設置以前の調査であるため、総合番号を「※1」として区別する。	
・試掘確認調査のうち、事後に実施の発掘調査範囲内に入った場合、本表に対応する調査地点図(後出)から番号表記を省く。全てが発掘調査範囲内に含まれるものについて、本表-(2)では、総合番号に()を付して表記する。	
・立会調査で、本表-(3)に保存する基準：①中世土層以下を確認した調査 ②明確な遺構・遺物を確認した調査	
・番号：年度別報告番号	
・文献：後出の刊行物一覧表の番号に対応する。正式報告が刊行された場合は、年報・紀要掲載の概報文献は削除する。	

付表2-(1) 発掘調査

<津島地区：津島岡大遺跡>

総合 番号	年度	番号	調査名称：工事名称	構内座標	調査期間	面積(㎡)	概要(主要遺構ほか)	文献
※1	1982	-	津島岡大遺跡第1次調査 ：排水集中槽(NP-1)埋設	AW14	10.28～11.24	24	弥生中期・古代：溝、「小橋法目黒遺跡」と報告	3
1	1983	-	津島岡大遺跡第2次調査 ：排水管理設	BE14・18、BF17・18 BG14 BH14・15	84.1.9～3.5	265	弥生早・前期：遺物	4
2	1983	-	津島岡大遺跡第2次調査 ：合併処理槽埋設	BH13	11.14～22 84.1.9～3.5	276	弥生前期水田関連遺構(溝他)	4
15	1986 1987	2 1	津島岡大遺跡第3次調査 ：男子学生寮新営	AV00、AW00-01	12.1～87.6.18 8.24～9.5	1550	縄文後期河道、弥生早期：貯蔵穴群・河道、弥生前期～近代：水田・溝、古代糸里関連溝	19
16	1986	3	津島岡大遺跡第4次調査 ：屋内運動場新営	BF・BG09	87.1.19～22	70	弥生前期溝、中世河道	6
26	1988	1	津島岡大遺跡第5次調査 ：大学院自然科学研究科棟新営	AY06～08 AZ06-07	6.27～89.3.19	1537	縄文後期・弥生早期：貯蔵穴群・河道、弥生時代末～近世：水田関連遺構	27
27	1988 1989	2 1	津島岡大遺跡第6次調査 ：生物応用工学科棟新営	AV・AW04・05	9.20～89.5.31	600	縄文後期：貯蔵穴群・河道、古代糸里関連溝、弥生前期～近世：水田・溝	35
28	1988	3	津島岡大遺跡第7次調査 ：情報工学科棟新営	AV・AW05・06	10.12～89.3.31	800	縄文後期：炉・ピット、弥生前期～近世：水田・溝	35

総合 番号	年度	番 号	調査名称：工事名称	構内座標	調査期間	面積 (㎡)	概要 (主要遺構ほか)	文献
39	1990	1	津島岡大遺跡第5次調査 ：自然科学研究科棟共同溝・検水機設置	AY・AZ08	4.3～21	90	古墳後期溝	27
44	1991	2	津島岡大遺跡第8次調査 (A地点) ：遺伝子実験施設新営	BD18・19	7.23～12.25	650	縄文時代土坑、弥生時代～近世：溝群	32
45	1991	3	津島岡大遺跡第8次調査 (B地点) ：合併処理槽新営	BH13	7.23～12.2	140	弥生時代溝、古代～近世：水田	32
50	1992	1	津島岡大遺跡第9次調査 ：生体機能応用工学科棟新営	AU～AW04	7.1～93.1.29	650	縄文後期：貯蔵穴群・土坑・溝・火処、弥生時代～近世：水田関連遺構	47
51	1992	2	津島岡大遺跡第10次調査	BB～BC10～11	93.2.1～3.31	400	弥生後期土坑群、古墳時代：井戸・住居・炉、古代柱穴群、中世溝、近世耕作関連遺構	64
	1993	1	：保健管理センター新営		4.17～7.31			
54	1993	2	津島岡大遺跡第11次調査 ：総合情報処理センター新営	AV～AW11～12	9.14～94.1.11	640	縄文後期：ピット・炉、弥生前期水田畦畔	36
55	1993	3	津島岡大遺跡第12次調査	AV～AW13～14	94.2.9～3.31	1472	弥生前期水田、弥生中期～古墳時代：溝群、古代～近世：条里関連溝	64
	1994	1	：図書館新営		4.1～11.30			
64	1994	2	津島岡大遺跡第13次調査	AW～AX11～12	10.6～11.30	816	縄文後期ピット、弥生水田、弥生～古墳時代：溝群	41
	1995	1	：福利厚生施設 (北棟) 新営		95.7.10～10.4			
69	1995	2	津島岡大遺跡第14次調査 ：福利厚生施設 (南棟) 新営	BB～BC12・13	10.25～96.2.14	856	弥生前期水田、弥生～古墳時代：溝群	46
70	1995	3	津島岡大遺跡第15次調査	AW00-01	96.1.16～4.25	1600	縄文後期・弥生早期：貯蔵穴群・河道、縄文後期：ピット群・石材アボ・火処、弥生前期水田、古墳～中世：水田・溝	72
	1996	1	：サテライトベンチャービジネスラボ ラトリー新営					
74	1996	2	津島岡大遺跡第16次調査 ：動物実験棟新営	BD19～20	5.7～15	30.3	A地点：縄文時代・古墳時代：土坑 B地点：中世溝、古代柱穴列、弥生時代水田	44
75	1996	3	津島岡大遺跡第17次調査 ：環境理工学部校舎 (I期) 新営	AW02～04	5.21～97.1.9	1451	縄文後期：住居・土坑・溝、弥生前期：水田、弥生時代溝群、古墳後期柱穴列、古代水田、中近世耕作痕	77
85	1998	2	津島岡大遺跡第18次調査 ：福利施設 (南) ポンプ槽取設	BB11	4.7～10	16	古代溝状遺構	53
86	1998	3	津島岡大遺跡第19次調査 ：コラボレーション・センター新営	AZ09-10	7.27～99.2.18	1019	縄文後期：ピット・炉、弥生前期：水田・土坑・河道、古墳時代・中世：溝、近世：道路状遺構・溝	65
87	1998	5	津島岡大遺跡第20次調査 ：環境理工学部校舎ポンプ槽取設	AY07	10.19～28	16	黒色土上面に溝、中世溝	53
88	1998	6	津島岡大遺跡第21次調査 ：工学部エレベーター設置	AX09	11.6～24	30.2	縄文中期土坑、弥生早期～前期：溝、古代：土坑・溝	65
89	1998	8	津島岡大遺跡第22次調査	AW02-03	99.3.1～7.12	773.5	縄文後期～弥生前期：河道、弥生早期土坑、弥生前期水田、弥生中期溝、古墳～近世：条里関連溝・水田	77
	1999	2	：環境理工学部校舎 (II期) 新営					
104	1999	5	津島岡大遺跡第23次調査	AZ15-BA14	00.2.3～7.28	1339	縄文後期～弥生前期河道、縄文後期杭列、弥生早期：貯蔵穴・溝、弥生前期：堰・溝、弥生中期～近世：溝	80
	2000	1	：総合研究棟新営					
111	2000	3	津島岡大遺跡第24次調査 ：総合研究棟渡り廊下建設	AZ14	12.5～14	34.2	縄文後期：河道・杭列	80
112	2000	4	津島岡大遺跡第25次調査 ：散水施設設置	BA15	01.1.29～31	20	中世～近世：溝	61
113	2000	5	津島岡大遺跡第26次調査 ：事務局棟新営	BC～BD14～15	01.3.26～9.30	1550	縄文中・後期：土坑・炉、弥生早期貯蔵穴、弥生前期土坑、弥生後期溝、古墳後期～中世：柵列・道路状遺構、近世：溝・堰	76
121	2001	2	津島岡大遺跡第27次調査	BB～BC14～15	02.2.1～6.24	1648	縄文後期炉、弥生・古墳時代：溝群、中世畦畔 (条里関連)	68
	2002	1	：創立五十周年記念会館新営					
127	2002	2	津島岡大遺跡第28次調査 ：自然科学系総合研究棟新営	AW～AY06～08	4.30～9.20、 11.28～03.1.15	1798	弥生前期水田、弥生前期～中期：溝、古代：溝 (内に柱穴列)、中世島関連遺構	87
128	2002	4	津島岡大遺跡第29次調査 ：共同溝設置	BF16	9.18～10.3	62.6	弥生～古墳時代：溝・ピット	71
163	2007	1	津島岡大遺跡第30次調査 ：岡山大インキュベータ新営	BC19・20	8.1～12.17	1035.4	縄文後期～弥生早期：土坑群、弥生～古墳時代：溝群、古代道路状遺構、中・近世：土坑群・畦畔・溝群	93
168	2008	1	津島岡大遺跡第31次調査 ：大学生協東福利施設新営	AX04	6.17～8.22	212	弥生前期畦畔、古代道路状遺構	95
184	2009	1	津島岡大遺跡第32次調査 ：教育学部武道場新営	AX02	7.16～10.13	383	縄文後期貯蔵穴群、弥生前期畦畔、弥生前・中期・中近世：溝	100
196	2010	1	津島岡大遺跡第33次発掘調査 ：薬学部講義棟新営	BB17・18、BC17・18	7.16～11.11	972.2	縄文中・後期：ピット、弥生時代：土坑・溝、古墳時代後期～古代：総柱建物、古代・中世：道路状遺構	117
197	2010	2	津島岡大遺跡第34次発掘調査 ：国際交流会館新営	AU・AV13・14	7.30～9.28	1590	弥生前期：畦畔・溝、近世土坑群、平面調査は中世上面まで実施し下層部は保存	105
216	2013	1	津島岡大遺跡第35次発掘調査 ：附属図書館増築	AW13	7.8～8.29	80	縄文時代：ピット、古墳時代後期：溝・ピット、古代：ピット列、近世：畦畔、土坑・溝	145
246	2015	1	津島岡大遺跡第36次発掘調査 ：職員宿舎新営	BH・BI16	5.26～6.17	43.5	縄文後期：土坑、弥生早期～前期：水田畦畔、弥生後期～古墳時代：溝、古代～中世：ピット、旧陸軍：水路・建物	124
263	2019	1	津島岡大遺跡第37次調査 ：異分野基礎科学研究所新営	AZ～BA08～09	8.28～3.19	1410.9	弥生時代早期～前期：土坑・溝・河道、弥生時代後期～古墳時代後期：土坑・溝、古代：溝、中世：土坑・溝、近世：土坑・溝	141
266	2020	1	津島岡大遺跡第38次調査 ：共同溝取設	BB13・AZ・BA13	5.11～27	17.4	近代畝	141
267	2020	2	津島岡大遺跡第39次調査 (A地点) ：ライフライン再生	BD18	12.21～23	16	弥生：溝・ピット、中世：ピット	145

総合番号	年度	番号	調査名称：工事名称	構内座標	調査期間	面積 (㎡)	概要 (主要遺構ほか)	文献
267	2020	3	津島岡大遺跡第39次調査 (B地点) ：ライフライン再生	AX07	21.24～3.10	20.64	縄文：土坑・ピット、弥生：畦畔、古墳：溝・ピット、中世溝、耕作痕、近世：畦畔	145
		4	津島岡大遺跡第39次調査 (C地点) ：ライフライン再生	AX06	21.2.12～3.4	9.61	縄文：土坑、弥生：畦畔、近世：畦畔	145
		5	津島岡大遺跡第39次調査 (D地点) ：ライフライン再生	AX03～04、 AY03～04	21.3.8～29	9.61	縄文：土坑、弥生～古墳：溝	145

＜鹿田地区：鹿田遺跡＞

総合番号	年度	番号	調査名称：工事名称	構内座標	調査期間	面積 (㎡)	概要 (主要遺構ほか)	文献
1	1983 1984	—	鹿田遺跡第1次調査 ：外来診療棟新営	AU～BD28～40	7.27～11.22 84.1.9～8.31	2188	弥生時代中期後半～中世の集落遺構群	7
2	1983	—	鹿田遺跡第2次調査 ：NMR-CT室新営	BG～BI18～21	8.1～12.30	176	弥生時代後期～中世の集落遺構群	7
10	1986	1	鹿田遺跡第3次調査 ：医療技術短期大学校舎	CN～CU27・28、 CT～CY19～27、 CX～DD16～25、 DD～DG22・23	6.2～11.29	2390	中世の集落遺構群、古代の橋脚・河道	10
12	1987	3	鹿田遺跡第4次調査 ：医短校舎周辺の配管敷設	DD～DF25 DG～DI27・28	11.2～21	30	古代の河道	10
13	1987	2	鹿田遺跡第5次調査 ：管理棟新営	BB～BH35～42	10.6～88.3.2 88.3.23～31	1192	弥生時代中期後半～中世の集落遺構群	24
16	1990 1991	2 1	鹿田遺跡第6次調査 ：アイソトープ総合センター新営	BW～CC67～71	11.20～91.6.30	690	古墳時代初頭土坑、中世集落遺構群	40
25	1997 1998	4 1	鹿田遺跡第7次調査 ：基礎医学棟新営	BR55～BX61 BY56～57	98.2.27～8.6	829	古墳時代初頭・中世の集落遺構群、近世の水田・溝	85
27	1998	4	鹿田遺跡第8次調査 ：RI治療室新営	BP～BS30～32	7.28～9.1	165	古墳時代と中世の溝群	85
28	1998 1999	7 1	鹿田遺跡第9次調査 ：病棟新営	CD33～37、 CE・CF28～37、 CG～CJ20～37、 CK・CL25～37	11.27～99.5.11	2088	弥生時代水田・溝、中・近世集落遺構群	126
31	1999	3	鹿田遺跡第10次調査 ：共同溝設置関連	CD・CE10～12 DD～DF16～22	5.7～10.14	244.1	古代の杭列、弥生時代ピット、近世溝	108
32	1999	4	鹿田遺跡第11次調査 ：病棟新営	CD～CM19～42	8.19～12.22	2020	弥生時代水田畦畔、古代の池状遺構、中・近世集落遺構群	126
40	2000 2001	2 —	鹿田遺跡第12次調査 ：エネルギーセンター新営	CO～CV35～44 CN・CM38～41 CN28～38	10.2～01.5.10	1897	弥生時代溝・河道、古墳時代溝・土器溜まり、中世集落遺構群、近世土坑・溝	143
46	2002	3	鹿田遺跡第13次調査 ：総合教育研究棟新営	BL～BR46～51	4.30～10.25	934	弥生時代の溝、古墳時代の土器溜まり・溝、中世集落遺構群、近世土坑群	98
55	2003	1	鹿田遺跡第14次調査 ：病棟 (Ⅱ期) 新営	CD～CM12～20	7.31～12.17	1331	弥生～古墳時代の畦畔・溝、中世の集落遺構群、近世のため池・土坑	113
56	2003	2	鹿田遺跡第15次調査 ：総合教育研究棟外構	BQ～BS45・46	10.16～29	30.4	古墳時代初頭の井戸・溝	98
59	2004	1	鹿田遺跡第16次調査 ：立体駐車場新営	AH～AI6・7 AF12・13、 AN～AO4	10.21～11.8	49.15	近世～近代の畦畔・溝・畝・土坑、中世の土坑、弥生～古墳時代の河道	81
60	2006	1	鹿田遺跡第17次調査 ：総合研究棟 (医学系) 新営	BR～BY60～64	7.10～11.14	642	古墳時代～中世の集落遺構群、近世土坑・溝	137
64	2007	1a	鹿田遺跡第18次調査 (A地点) ：中央診療棟新営	BT13～BY20	10.10～08.3.14	872.2	弥生時代後期～近世の集落遺構群	92
65	2007	1b	鹿田遺跡第18次調査 (B地点) ：防火水槽設置	CG～CI9・10	10.16～11.1	43.2	古代後半の井戸、近世入江状遺構・護岸施設	108
66	2007	1c	鹿田遺跡第18次調査 (C地点) ：用水路改修	CM～CN9・10 CO10・11	12.27～08.1.16	56	弥生時代土坑・溝	108
76	2008	1	鹿田遺跡第19次調査 ：歯学部渡り廊下設置	AW～AY22～23	6.26～9.12	80	弥生時代後期の「方形高まり」・貝塚・壺棺・土坑・溝、古墳時代土坑・溝、古代ピット、近世土坑	95
80	2009	1a	鹿田遺跡第20次調査 (A地点) ：中央診療棟共同溝設置	BZ～CC31～40	6.18～7.31 8.5～24	632	弥生時代～近世の遺構・遺物	131
81	2009	1b	鹿田遺跡第20次調査 (B地点) ：中央診療棟新営 (本体工事)	BS20～23 BT～BW20～24 BX～CD13～25	10.15～11.2.22 3.1～8	2482	弥生時代～近世の遺構・遺物	147
84	2010	1	鹿田遺跡第20次調査 (C地点) ：中央診療棟新営	BR・BS12～21 BT～BX12～13	7.20～10.8	276	弥生時代～近世の遺構・遺物	105
85	2010	2	鹿田遺跡第20次調査 (D地点) ：中央診療棟新営	BT・BU24	11.2.18～3.2	15	中世～近世の遺構・遺物	147
86	2010	3-1	鹿田遺跡第21次調査 (A地点) ：外来棟周辺他環境整備	AD～AF30・31	11.18～12.9	21.2	平安時代河道、鎌倉時代溝状遺構	105
87	2010	3-2	鹿田遺跡第21次調査 (B地点) ：外来棟周辺他環境整備	AG・AH30・31		22	平安時代河道、鎌倉時代溝状遺構	105

総合番号	年度	番号	調査名称：工事名称	構内座標	調査期間	面積(m ²)	概要 (主要遺構ほか)	文献
88	2010	3-4	鹿田遺跡第21次調査 (D地点) ：外来棟周辺他環境整備	AS・AT25～28	11.18～12.9	59.4	弥生時代包含層	105
94	2011	1	鹿田遺跡第22次調査 ：地域医療人育成センター新営	AV～BB 04～07	7.14～9.22 10.14～11.18	533	弥生時代井戸・溝、中世井戸・溝、近世井戸・溝、近代溝・池	107
96	2012	1	鹿田遺跡第23次調査 ：Jホール新営	AN～AR 57～62	6.25～8.30	612	弥生時代～古墳時代初頭畦畔、古代溝、中世溝・炉、近世溝・土坑・畠、近代溝・トロコ軌道	120
97	2012	2	鹿田遺跡第24次調査 ：医歯薬融合棟新営	BD～BL 57～69	11.27～ 13.4.25	1867	弥生時代溝、古墳時代土器棺、古代井戸・土坑、中世溝・畦・井戸・土坑、近世溝・土坑、近代畝状遺構	130
101	2013	2	鹿田遺跡第25次調査 I工区 ：中央診療棟Ⅱ期	BY～CD24～38	14.1.6～4.17	650	弥生時代畦畔、中世井戸・土坑・溝・柱穴、近世土坑・溝	131
124	2014	1	鹿田遺跡第25次調査 II工区 ：中央診療棟Ⅱ期	BS～BY24～41	14.3.15～8.25	1895	弥生時代井戸、中世井戸・土坑・墓・溝・柱穴、近世土坑・溝	131
125	2014	2	鹿田遺跡第26次調査 ：動物実験施設改修	CD～CJ46～48、 CJ・CK61・62	14.8.18～11.17	295.5	弥生時代溝・畦畔、古墳時代井戸・土坑・溝・畠状遺構、古代土坑・ピット、近世土坑	135
142	2017	1	鹿田遺跡第27次調査 ：自家発電設備	CN・CO43・44	17.10.10～ 11.10	34.5	弥生時代～古墳時代溝、古墳時代後期～飛鳥時代溝、中世ピット	143
144	2018 2019	1	鹿田遺跡第28次調査 ：アメニティモール新営	AG～AS31～41	18.11.19～ 19.9.18	2940	弥生時代～古墳時代：土坑・溝・河道、古代：土坑・河道、中世：井戸・土坑・溝・河道・ピット、近世：土坑・溝、近代：畝状遺構・畦畔	138 141

<三朝地区：福呂遺跡>

総合番号	年度	番号	調査名称：工事名称	構内座標	調査期間	面積(m ²)	概要 (主要遺構ほか)	文献
1	1997	1-2	福呂遺跡第1次調査 ：実験研究棟新営	-	5.10～20 7.28～31	269	縄文時代早期・弥生時代中期・中世・近世の集落	55
2	1997	3	福呂遺跡第2次調査 ：実験研究棟新営に伴うスロープ設置	-	11.25～12.5	120	古代・中世・近世の集落	55

付表2-(2) 試掘・確認調査

<津島地区：津島岡大遺跡>

総合番号	年度	番号	調査対象地名 他	構内座標	掘削深度(m)	造成土厚(m)	概要		文献	
							TP数	内容・その後の対応		
(3)	1983	-	農学部合併処理槽予定地	BH13	2.5	-	1	→津島岡大第2次調査：1983年度	1	
4	1983	-	農学部排水管中間ポンプ槽予定地	BF17	3.5	-	1	→工事立会		
5	1983	-	農学部排水管理設予定地	BE～BG14、 BE・BH15、BE18、 BF16～18、BC18	2.0	-	29	→津島岡大第2次調査：1983年度		
6	1983	-	農学部農場畜舎棟予定地	BF22・23	2.0～3.0	0.6	2	土器片→1987年度工事立会		
(7)	1983	-	大学事務局棟予定地	BC・BD15	2.0～3.0	0.9	3	→津島岡大第26次調査：2000年度		
(8)	1983	-	健康管理センター予定地	BB10	2.0～3.0	0.8	1	→津島岡大第10次調査：1999年度		
9	1983	-	津島宿舎予定地	BI16	0.9	0.9	2	土器片→1987年度工事立会		
10	1983	-	工学部校舎新営予定地	AW05	3.0	1	1	土器片		
12	1985	1	教養講義棟予定地	BE08	3.5	1.2	2	遺構など未確認→1986年度工事立会		
13	1985	2	教育研究棟予定地	AX02	2.6～3.4	1.2	3	縄文～弥生・中世土器出土		5
14	1985	3	男子学生寮予定地	AV・AW99～01	2.0～3.0	1	12	→津島岡大第3次調査：1986年度		
(17)	1986	3	屋内運動場予定地	BF・BG09	2.4、1.2～1.7	1.1	3	→津島岡大第4次調査：1986年度		6
(18)	1986	4	大学院自然科学研究科棟予定地	AY・AZ07	1.6～3.2	0.6～0.8	3	→津島岡大第5次調査：1988年度		
22	1987	4	外国人宿舎予定地	AP02	2.2～2.8	-	2	縄文時代・弥生時代・近世の遺構面		8
(23)	1987	5	総合情報処理センター予定地	AV11	2.0～3.0	2	2	→津島岡大第11次調査：1993年度		
24	1987	6	理学部身体障害者用エレベーター予定地	AY09	3.0～3.5	約1.0	1	中世・近世の遺物、古代・中世の水田 <継続して調査>		
25	1987	7	教養部身体障害者用エレベーター予定地	BD09	2.5	0.7	1	縄文時代遺構、縄文・中世・近世土器 <継続して調査>		
29	1988	17	工学部校舎予定地	AX04・06、AW04	2.0～3.5	1～1.5	6	→津島岡大第6・7次調査：1988年度	11	
30	1988	19	動物実験飼育棟・遺伝子実験棟予定地	BD18・19	2.3	1.1～1.2	3	→津島岡大第8次調査：1991年度		
31	1988	20	国際交流会館予定地	BC26	2.5	1.2	3	中・近世土器→1988年度工事立会		
33	1989	2	教育学部身体障害者用エレベーター予定地	AZ・BA05	2.5	0.8	1	縄文後期・弥生早期の落込み、縄文後期～中世土器<継続して調査、面積38.5m ² >	14	
34	1989	3	大学院自然科学研究科合併処理槽予定地	AZ17	4.0	1.6～2.0	1	中世～明治の水田畦畔・溝→1989年度工事立会		
35	1989	4	学生合宿所予定地	BD02	2.0～3.2	1	1	弥生早・前期の畦畔→1989年度工事立会		
(36)	1989	5	図書館予定地	AV・AW13	3.0	1.4～1.6	2	→津島岡大第12次調査：1993年度		
40	1990	3	学生合宿所ポンプ槽予定地	BC02	2.5	1.1	1	弥生前期畦畔、中世土器	18	
41	1990	6	福利厚生施設予定地	AW・AX11	3.9	1.4～1.6	2	→津島岡大第13次調査：1994年度		
56	1993	3	農学部汎用耕地実験実習施設予定地	BE～BF22～23	1.5	-	2	中～近世の耕作土	30	
65	1994	3	農・薬学部動物実験施設予定地	BD20	2.0	0.9	1	GL-1.4mで黒色土、縄文土器1点→盛り土保存	33	
71	1995	4	国際交流会館予定地	BE26	4.1・2.4	1.6	2	中世～明治層確認、以下は湿地、遺構・遺物無し(明治畝のみ)→工事立会	38	
72	1995	5	環境理工学部校舎予定地	AW02・03	2.4	1.2	2	→津島岡大第17次調査：1996年度		
73	1995	6	ボクシング部ボックス移設予定地	BF07	3.0	1.2	1	標高2.5mで黒色土、弥生～古墳時代の溝2条、古代溝1条		

総合 番号	年度	番号	調査対象地名 他	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概 要		文献
							TP数	内容・その後の対応	
(90)	1998	9	コラボレーション・センター予定地	AZ09	2.7~3.4	1.3	2	→津島岡大第19次調査：1998年度	53
(91)	1998	10	環境理工学部校舎予定地	AW02-03	4.5	1.2	2	→津島岡大第22次調査：1998年度	
92	1998	13	工学部システム工学科棟予定地	AW04	2.8	1	1	GL-1.8m黒色土、縄文後期の遺構	
93	1998	14	遺跡保護区整備関連範囲	AU02-03-06、 AV03	2.4~3.8	0.8~1.6	5	TP1・3・5：微高地、TP2・4：低湿地、TP1： 弥生溝、TP3：弥生溝・ピット、TP4：中世溝	56
(105)	1999	6	文法経 総合研究棟予定地	AZ15、BA14	2.7、3.5	0.8 1.1	2	→津島岡大第23次調査：1999年度	
106	1999	7	電波暗室設置予定地	AV08	1.2	0.2	1	現表土以下に基盤となる岩盤層	61
114	2000	6	縄文～弥生時代における環境復元に伴う調査	AV00、 AX00-02-03、 AZ06、AW08	2.6~3.2	1.7~0.9	6	縄文・弥生時代の微高地、古代溝	
115	2000	7	創立五十周年記念館予定地	BB14	2	0.8	1	→津島岡大第27次調査：2001年度	61
129	2002	5	事務局旧日本部棟移転予定地	BD15	2.1	1	1	黒色土の落ち	71
185	2009	2	学童保育室予定地	AV14	3.24	1.95	1	黒色土確認	102
186	2009	3	農学部構内植物工場予定地	BF20	3.4 2.3	2.3 1.1	2	近代溝・畦畔 弥生中期～古代におさまる溝	
198	2010	3	国際交流会館予定地	AU13・14	3.4	1.6~1.9	3	→津島岡大第34次調査：2010年度	105
199	2010	4	生協プレハブ予定地	BC12	2.2	0.9	1	黒色土は未堆積を確認	
208	2011	1	文法経フェンス工事	AW17、AX17、 AY17、AZ16	1.1~2.0	1.0~1.6	6	近代の土塁、水路	107
				AZ17	0.8	-	5	門跡・陸軍建物基礎	
213	2012	1	正課外活動施設予定地	BD02	2.9	1.1	1	縄文時代～近代層確認	111
217	2013	2	Jテラス新営	BG13	1.8・2.3	1	2	縄文時代ピット、弥生時代前期土坑・遺構	116
247	2015	2	職員宿舎新営	BH16~BI17	2.35	1.0	2	弥生早期～前期水田	124
251	2016	1	津島岡大遺跡南東部における確認調査	BD07	3.0	1.23	1	弥生時代土坑、近代水路	129
259	2018	1	グッドジョブセンター増築	BD15	2.4	1.46	1	黒色土確認	138

＜鹿田地区：鹿田遺跡＞

総合 番号	年度	番号	調査対象地名 他	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概 要		文献
							TP数	内容・その後の対応	
(4)	1984	-	西病棟北側受水槽予定地	BU30-31	1.4	0.5~0.7	2	中世土器・包含層確認→盛り土保存	2
(5)	1984	-	医療短期大学部校舎予定地	CT・CU25、 CZ19-20-23・24	2.7	0.8~1.0	3	→鹿田第3次調査：1986年度	
6	1985	4	外来診療棟環境整備工事範囲	AJ33、AI40 AJ・AK26	2.2~3.0	0.9~1.4	3	弥生時代～中世の遺物	5
(17)	1990	5	アイソトープ総合センター予定地	BY・BZ68	2.3	1.2~1.3	1	→鹿田第6次調査：1990年度	18
(26)	1997	8	基礎医学棟予定地	BT57	2.2	0.9	1	→鹿田第7次調査：1997年度	50
29	1998	11	病棟予定地	CF・CG43・44、 CH25・26、 CK35・36、CK15	2.0~2.4	1	4	→鹿田第9次調査：1998年度	53
82	2009	2	学生サークル棟予定地	CR70-71、CW75	2.1~2.3	0.9~0.7	2	弥生時代低湿地、中世以降耕作地、集落外縁	102
89	2010	4	岡山県地域医療総合支援センター予定地	AZ04-BA08	2.3~2.4	1.2~0.6	2	近世溝・弥生包含層確認→鹿田第22次調査： 2011年度	105

＜倉敷地区＞

総合 番号	年度	番号	調査対象地名 他	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概 要		文献
							TP数	内容・その後の対応	
1	1990	4	資源生物科学研究所遺跡確認	-	2.5	0.7	1	中世後半以降の土器	18
2	1998	12	バイオ実験棟予定地	-	1.5	0.2	1	近世干拓地内、遺構未確認	53
3	2013	1	植物ストレス科学研究等拠点施設建設工事	-	2.0	0.7	1	近世耕作土層確認	116

＜東山地区＞

総合 番号	年度	番号	調査対象地名 他	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概 要		文献
							TP数	内容・その後の対応	
3	2006	1	附属小学校校舎予定地	-	3.0	0.3~0.5	4	近世・近代：溝3条、中世？畦畔	88
4	2008	1	附属中学校校舎予定地	-	2.3~2.4	1	2	近代畦畔	95
5	2013	1	附属小学校屋内運動場建て替え工事	-	2.1	0.9	1	中世～近世耕作土層確認	116

＜三朝地区：福呂遺跡＞

総合 番号	年度	番号	調査対象地名 他	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概 要		文献
							TP数	内容・その後の対応	
3	1997	5-6	実験研究棟予定地	-	1.66~2.1	0.8	2	→福呂第2次調査：1997年度	50
5	2004	1	三朝宿泊所増築予定地	-	1.3	0.5~0.9	2	遺構・遺物・包含層未確認	81
6	2004	2	高圧線・電話線設置予定地	-	1	0.85	1	河床礫、段丘礫層確認	

付表2-(3) 立会調査

＜津島地区：津島岡大遺跡＞

総合 番号	年度	番号	工事名称／細目	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概要	文献	
11	1984	—	南宿舎合併処理槽関係配水管埋設	BI15~17	1~2.2	1	溝・土坑、弥生土器・須恵器	2	
19		12	教養部校舎新営	BE08・09	2.3	1.3	中・近世：溝・土器		
20	1986	21	ハンドボールコート新設	BG08	0.2~2.0	0.8	黒色土	6	
21		26	教養部校舎新営に伴う電気配管	BF07・08	1.8	0.9	中世包含層		
32	1988	17	テニスコート夜間照明施設	BG10・11	2.2	1.5	GL-約2mで黒色土、西に向かう落ち推定	11	
37		8	自然科学研究科棟新営：工事用道路	AZ08	1.4	—	弥生後期水田、近世溝、75㎡	14	
38	1989	10	生物応用工学科棟新営に伴う電柱架設	AV04・05	1.5~1.9	0.7~1.2	黒色土		
42		16・19	岡山市道本町津島東線拡幅に伴う電柱移設	AV04~10	0.4~3.0	0.6~1.4	5ヶ所、黒色土、条里南北溝		
43	1990	20	学生宿舎給排水管設置	BC02~04 BD03・04	2.3	1.2	GL-2.3mで黒色土	18	
46		9	防火用水撤去	BC18	2	0.8	基盤層まで掘削、石鏝		
47	1991	17	津島地区基幹整備（電気）	BB16	1.7~1.8	0.5	2ヶ所、明治層~淡灰色粘土層	21	
48		19	アース板	BD15	1.7	1	GL-1.5mで黒色土		
49		40	南北道路外灯設置	BC・BE・BF12	1.5	—	3ヶ所、GL-1.4mで古代層		
52	1992	15	遺伝子実験施設ハンドホール設置	BD18	1.5	0.75~1.1	縄文後期層まで、溝2本	25	
53		34	附属図書館北側駐車場整備	AV12	3	1.7	造成土以下は粘土層		
57		17	保健管理センター新営	BB~BC10~12	1.8	0.6~0.7	黒褐色土はGL-1.15~1.7m		
58		19	旧棟改修電気配線	BB11	1.1	0.8	弥生土器、工法変更		
59		23	津島地区基幹整備RI共同利用施設排水処理施設	BA07	3.2	—	明治~中世層・暗褐色土層、古代溝？ 縄文晩期土器		
60	1993	28	ボックスカルバート	BD~BE13	1.5	1	近世~中世層	30	
61		33	津島地区環境整備	BB~BG12~13	1.8	0.5~1.2	10ヶ所、中世層まで、一部で暗褐色土層		
62		34	信号機設置	BD~BE12・13	1.6	1	中世層まで、一部で暗褐色土層		
63		39~41	野球場バックネット・防球ネット改修	BB05~07 BC05・41	2.0~3.2	1	GL-1.2~2.0m付近で黒色土、以下黄色砂~青灰色粘土		
66		9	陸上競技場照明灯設置	BD・BE・BF04~07	2	0.96	GL-1.92~2.0mで黒色土		
67	1994	13	総合情報処理センター新営電気工事	AV10、AW10、 AU11	2.2	1.5	GL-1.7mで黒色土、近世溝	33	
68		20	焼却場設置	BD20	2.2	1.5	GL-1.9mで黒色土		
76		4	農・薬学部動物実験棟新営	造成土取り	BC18	2.2	1.9	黒色土層付近まで	
77		5	ハンドホール設置	BD16~19	1.3	—	4ヶ所、造成土以下に5層		
78	1996	12	サテライトベンチャービジネスラボラトリー新営	AV02、AV03、 AV04、AV99、 AW02、AW04	1.0~1.5	0.76~1.1	6ヶ所、明治層~弥生層？	44	
79		13	配管設置	AV03~AW03	2	0.95	弥生時代層まで、古墳前期：遺構・遺物		
80		18	環境理工学部校舎新営予定地電柱移設	AW03	2	—	黒色土まで		
81		25	附属図書館新営雨水溝・外構工事	AV13	1.3	1	造成土以下に青灰色・黄褐色・灰褐色粘質土		
82		16	南北道路ガス管理設	BB13~BH13	1.5	—	中世層まで		
83	1997	19	福利厚生施設新営に伴う共同溝新設	AW11~BA13	2	0.8	GL-1.65mで黒色土、古代~近世の溝	50	
84		24	福利厚生施設新営に伴う共同溝新設	BC12	2	0.8	GL-1.65mで黒色土、古代~近世の溝		
94		15	外灯設置	BA09	1.47	1	GL-1.42mで黒色土		
95		22	コラボレーション・センター支障配管布設替	AZ09、BA09	1.4	1	GL-1.4mで黒色土		
96		24	南福利外灯設置	BB12、BC12	1.4	0.95	中世層まで		
97		31	環境理工学部校舎新営に伴うガス管理設	AW03・AX~AY03 ~06	1.2~1.4	0.65~0.95	中世層まで（12ヶ所）		
98	1998	34	学生会館改修に伴うトラップ撤去	BC10	2.2	1.45	GL-1.7mまで灰褐色粘土、GL-2.2mまで灰色粘土	53	
99		35	NTT電柱移設	BA00	1.5	0.9	造成土以下に褐色系粘質土		
100		41	環境理工学部実験排水管理設	AX03~AY07	1~2.4	0.6~1.4	10ヶ所、5地点で中世層、2地点で古代層、1地点で古墳時代層まで		
101		42	馬場移設に伴う樹木移植	AU02	2.2	1.1~1.3	GL-2mで弥生後期層、GL-2.2mで縄文基盤層		
102		44	環境理工学部校舎新営	生活排水溝設置	AV03、AW03	1.97	1.4	古墳時代層まで、須恵器・土師器	
103		48	ガス管理設	AW03	1.45	1	中世層まで		
107		8	外灯設置	AY00、AZ01・03	1.15~1.35	0.5~1.2	3ヶ所で黒色土（GL-0.85~1m）		
108	1999	12	コラボレーション・センター新営：ハンドホール設置	AZ08・09	1.48~2.1	1.03~1.16	2ヶ所、そのうち1ヶ所は古墳時代層まで	56	
109		13	環境理工学部校舎新営に伴うスロープ設置	AW02	3.5	1.2	調査面積25㎡、黒色土下面まで、近代土坑、古代溝、縄文後期ピット		
110		42	コラボレーション・センター新営に伴う排水溝設置	AZ09	1~1.2	0.8~1	6ヶ所、1ヶ所で黒色土対応層まで		
116		17	津島地区電柱設置	BA12	1.6	1	造成土下に灰色粘質土・暗茶褐色粘質土層		
117		23	本館基礎補強	AY09	1.3	0.9	造成土下に暗青灰色粘質土・褐色粘質土・灰色粘質土		
118	2000	28	理学部校舎改修	機械設備電気	AX10、AY10	0.85~1.60	0.8~1.6	南側ハンドホール：GL-1.6mまで、GL-1.52mで中世溝（方向は南東-北西）	61
119		42	精密応用化学科棟都市ガス改修	AW08、AX08	1.6~2.05	1.45	GL-1.82mで明灰褐色粘土（中世?）		
120		44	文法経 総合研究棟仮設電柱設置	BA16	1.5~1.7	1	GL-1.4mで中世層？軍庭園の築山・土塁一部掘削		
122		4	理学部校舎改修：電気設備	ハンドホール	AZ10	1.6	1~1.2	中世溝	
123	2001	11	本部棟新営	電柱	BB~BC16	1.5~2.1	1.2~1.4	2ヶ所、GL-1.4mで灰色粘土、GL-2.1mまで谷か？	66
124		27	車庫移設	BB・BC13	0.5~1.6	1	2ヶ所、中世層まで		

総合 番号	年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概要	文献	
125	2001	30	本部棟新営	樹木移植	BB14	1.6	0.65~0.8	GL-1.4mに灰色粘質土層(古代)	66
126		31	旧変電室基礎解体		BB14	1.05	0.45~0.75	12ヶ所掘削、中世層まで	
130	2002	29	農学部校舎改修:電気設備		BE15	1.8	1.5	3ヶ所、古代・古墳層まで	71
131		34	本部棟新設	排水樹・管路	BC13~15	1.2~2.5	0.7~1.2	突帯土器・石器多数、近世溝、弥生溝	
132		51		雨水排水樹・管路	BB13	1.57	0.8	中世・古代・古墳層	
133		54	外灯	BB13・BD14	0.95~1.9	0.8	2ヶ所で中世層と古代層まで、GL-1.3mで黒色土		
134		55	一般教育棟B棟外灯設置工事		BC07・09	1.0~1.26	0.95	4ヶ所、中世層まで	
135		57	創立五十周年記念館新営	汚水排水	BB~BC14~15	1.0~2.3	0.85~1.0	一部黒色土上面まで	
136	1	創立五十周年記念館新営	雨水排水樹・管理設	BB13~15	1.3	0.7~0.8	中世層まで	74	
137	4	総合研究棟新営機械設備ガス配管埋設		AX06	1.4	0.9	古代層?まで		
138	6	旧事務局庁舎改修電気設備工事		BC15	2.43	0.85	GL-1.9mで黒色土、GL-2.1mで縄文基盤層		
139	7	農学部総合研究棟改修電気設備工事		BB、BC18	1.7	0.7	GL-1.2m前後で黒色土層、GL-1.5~1.6m前後で縄文後期基盤層		
140	2003	8	総合研究棟新営その他工事	雨水排水	AX06~BA06	1.7	0.7~0.8	標高3.3~3.4mで黒色土、弥生~古代:東西溝多数、近世・近代:東西溝・畦畔	74
141		14		電気設備工事(外灯)	AW、AX06、07	1.4	-	中世層まで	
142		15	総合研究棟新営その他工事:排水		AW~AX06~07	0.5~2.5	1.6	樹で一部縄文基盤層まで掘削、弥生溝	
143		17	旧事務局庁舎改修:外部給水・消火配管		BC~BD15	2.75	1.1	樹で縄文基盤層	
144		21-1	公共下水道接続工事	No.1区間 農学部合併処理槽	BG~BH13	1.8	0.9	縄文基盤層まで	
145		21-2		No.2区間 体育館東~武道場西	BE~BG10	1.95~2.25	0.8~0.9	樹で縄文基盤層、管路で弥生早・前期まで、弥生溝、縄文土坑	
146		21-4		No.4区間 文・法・経2号館西	AZ16	2.45	1.5	縄文基盤層まで、弥生溝	
147		21-5		No.5区間 理学部	BA10	1.9	0.7	中世頃の屋主川を確認	
148	21-6	No.6区間 農学部4号館東		BG22	1.5~1.9	0.9~1.4	縄文基盤層まで、弥生~古墳初頭:ビット、近代畦畔状遺構		
149	21-7	No.7区間 津島宿泊所		BI16	1.15~1.3	0.8	中世層まで		
150	21-8	No.8区間 南宿舍		BI15	2.0~2.45	1.1	縄文基盤層まで		
151	1	公共下水道接続工事		留学生等宿泊施設	BB~BD26	1.22~1.68	1	中世層まで	81
152	6	津島キャンパス環境整備:留学生センター西		BB9・10	0.5~1.15	0.4~0.6	弥生後期:包含層・遺構、礫層		
153	2004	3	総合研究棟改修	仮設電柱	AV08	1.5	0.9	青灰~白灰色の粘質土、黒色土は確認されず	83
154		5		アース板	AW09	1.8	-	縄文基盤層まで、黒色土	
155	2005	9	キャンパス環境整備(門扉改修等)		BE02、BG07	1.0~1.3	0.7	-1mで中世層、近世畦畔	88
156		13	プール改修(排水管改修)工事		BC~BE03、 BB~BC02	0.75~2.4	0.8~1.3	縄文基盤層まで、黒色土、弥生~古墳:溝多数、近世土坑、近代:大畦畔・溝	
157		14	サッカー場防球ネット設置工事		BB・BC04	2.0~2.2	-	オーガによる掘削、一部で黒色土	
158	2006	2	総合研究棟改修工事:耐震工事に伴う支障物撤去・PC耐震柱基礎掘削		AX10	1.4~1.6	1	中世層まで、近世:南北方向の溝	88
159		3	教育学部公共下水道接続工事		AZ~BA02~04	1.3~2.3	0.7~1.0	樹:深さ2.3m、配管:深さ1.05~1.92m、黒色土or基盤層まで、東西方向の溝	
160		5	プール改修配管接続工事		BA・BB02、BC02	1.7	0.7~0.8	黒色土層or基盤層まで、古墳時代頃の溝状遺構	
161		11	総合研究棟:耐震工事に伴うPC耐震柱基礎掘削		AX08~09	1.8	-	古墳~弥生時代層	
162		13	農学部2号館南電柱移設		BF16	2	-	中世層まで	
164	2007	4	公共下水道接続工事(理学部他)		BA12	2	0.8~0.9	GL-1.6mで黒色土、弥生時代溝	92
165		8	総合研究棟改修	外灯基礎及び管路	AV・AX07・08	1.4~1.7	1.2	近世~中世層	
166		10		外構樹・配管(東半部)	AW07・08	1.1~1.4	0.9	近世層、土坑1基	
167		13	インキュベーション施設外構配管		BA~BC20	1.2~1.4	0.6~0.8	縄文時代~近代層、中世・近代の溝	
169		7	理学部ヘリウム液化装置基礎工事:基礎杭設置		AZ09	4	-	黒色土なし、GL-4m以下で礫層	
170		21		電気工事:建柱	AY03・AZ03・BA03	2	-	3地点掘削、北地点で黒色土無し	
171	22	総合研究棟(教育系)改修	電気工事:接地極埋設	AY04	1.7~1.78	-	古代層下に溝or河道の砂層		
172	26		機械工事:都市ガス	AZ03	1.2	-	GL-0.95mで黒色土		
173	28		KDDI無線基地局新設工事:建柱		BB12	1.8	0.8~1.05	灰褐色砂質土層まで、黒色土未確認	
174	32	プール系統水道メーターボックス取設工事		BB04	0.9~1.5	-	中世層(?)まで	95	
175	33	南宿舍電柱設置工事		BJ17	2	-	GL-1.2~1.5mで黒色土		
176	39	大学生協東福利施設新築	ガス管	AX04	0.85~1.21	1	中世層まで		
177	40		外灯移設	AX05	1.1~1.2	0.68~0.95	2地点掘削、古代層まで		
178	42	新技術センター公共下水道接続工事		AW00~01	0.85~1.75	0.7	中世~近代溝4条(南北里境か)、黒色土上面まで		
179	43	教育学部体育館他改修	動物室	AY01	0.85	0.85	黒色土上面で弥生~古墳時代の水田畦畔		
180	44		仮電柱設置	AY03、BA03	1.2~1.7	-	2地点掘削、北:中世層まで、南:東西溝		
181	49		接地極埋設	AY02	0.3~1.7	-	古代層まで		
182	52	大会館他改修工事:一般教育講義棟ガス設備		BB10~11	0.7~1.2	0.55	GL-1.0m以下で礫層、土坑1基、溝?1条	102	
183	53	工学部屋外ガス配管改修工事		AV04~06、AW04	0.8~1.48	0.8~1.1	一部で中世層まで		
187	6	総合教育棟(共通教育)改修工事:高圧ケーブル		BE~BF04~08	1.3	-	2ヶ所、中世層・近世層まで		
188	2009	14	環境整備(施設誘導案内板)新設工事		BB10	0.8~0.95	0.6	保健管理センター北東で弥生?遺構埋土	102
189		16	工学部21号館(動物飼育室)改修	ガス管	AU06	0.8~0.9	-	一部弥生?包含層	
189		17		排水管	AU06・07	0.65~0.9 2.2	1.25	北東部で河道	
190	21① 22	南北道路信号機付け替え	西門南東 西門北東	BB12 BA12	1.8 2	0.58~1.25	中世~弥生層まで、底面で黒色土 縄文層まで、黒色土確認		

総合 番号	年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概要	文献	
190		23	南北道路信号機付け替え	西門北西	BA13	2.05	縄文層まで、黒色土確認		
		24		事務局前北東	BD12	1.95			縄文層まで
191	2009	25	総合研究棟Ⅱ期(教育学系)改修	ガス管	AY-AZ02-03	0.8	弥生層確認	102	
		27		電気設備:アース埋設	AY01・AZ03	1.65	縄文層まで、黒色土・中世以前の遺構		
				電気設備:配管		0.8			弥生包含層・遺構
				電気設備:外灯		0.8~1.3	黒色土まで		
		29		屋外排水	AY02-03	1.15	1		黒色土・弥生遺構
		30		屋外排水:管路	AZ00-02	0.8~0.9	0.7		包含層・畦畔・小溝
				屋外排水:樹		樹1.2・1.7			
32	電気設備:アース埋設	AZ00・AY-AZ01	1.7	0.6	縄文層まで、黒色土				
	電気設備:配管		0.8~0.9			包含層・土師器小片			
	電気設備:外灯		1.3		既設土内				
192		42	文法経ボイラー用煙突撤去工事	AX16	2.5	1.5	縄文層まで、弥生中・後期溝1条		
193		48	総合研究棟(薬学系)改修	電気設備:配管	BB16・BC17	1.45	1.05	近世層、近代溝	
				電気設備:アース板		1.50~1.54			
194		54	環境理工学部公共下水道接続工事	AU03	2.3	0.9	弥生~古墳層まで、近代東西畦畔1条		
					2.4				黒色土上面まで
195		55	薬学部西水道管位置確認工事	BC18	2.7	0.55	<岡山市教育委員会対応> 縄文層まで、黒色土		
200	2010	8	外灯整備工事	教育学部	AZ06	1.1	0.7	黒色土	105
201		17		創立五十周年記念館	BB14・15	1.1~1.6	1.15	近世層、近代石組用水路	
202		23	総合研究棟(薬学系)に伴う支障管移設	生活排水・実験排水	BB・BC17	0.87~1.4	0.8	古代層	
203		26	テニスコート陥没復旧工事		BG11	1.9	-	既設内、砲弾他<岡山西署回収>	
204		34	薬学部本館改修工事	電気設備:管路	BC・BD18	0.7~1.28	1.1	中世層	
				電気設備:ハンドホール		2			
205		35		外灯設置:管路	BB17	0.63~0.74	0.85	近世・近代層	
	外灯設置:基礎			1.08~1.34		中世層			
206	36	農学部水道管復旧工事(緊急対応)		BF15	1.1	-	既設内		
207	37	国際交流会館	排水樹掘削工事	AU・AV13・14	2.2~2.5	-	4ヶ所、中世上面から0.55m掘削、弥生後期層		
209	2011	1	文法経フェンス工事	AW17、AX17、AY17、AZ16	1.1~2	1~1.6	近代の土塁、水路	107	
8		津島線配水管布設工事	BA10	1.3	0.6	中世層まで、近世・近代溝確認			
9			BA08	1.5	0.6	中世層まで、近代畦畔・溝			
12			AZ04	0.9~1.5	0.55	古代・近世・近代遺構			
214	2012	9	美しい学都整備	防球ネットボール	BB06~07	3	1	基盤層まで	111
215		11	農学部周辺排水管整備	樹・管路	BE~BF13	1.6	1~1.3	基盤層まで	
218	2013	5c	総合研究棟改修(工学系)	設置路線③	AV05	0.9	-	近代の雨落ち溝	116
219		5d		設置路線④		0.75	-	近代の東西方向石組溝	
220		6a		接地銅板①		1.65	0.85	縄文層確認	
221		6b		接地銅板②					
222		8	電気設備:管路	AW05	0.8	-	近代の東西方向石組溝		
223		16	NTT電柱引き込み	電柱	BB15	1.6	-	旧陸軍東西方放水路	
224		19b	大学院館周辺他環境整備	暖房ピット②	BC10	1.05~1.1	0.5	中世層、近世南北方向溝	
225		21a		東西道路南側外灯①	BB08	1	0.55	弥生層確認	
226		21b		東西道路南側外灯②	BB09	1.1	-	旧陸軍東西放水路	
227		21c		東西道路南側外灯③		1.3	-		
228		21d		東西道路南側外灯④	BB11	1.4	0.3	礫層確認	
229		21e		東西道路南側外灯⑤		1.5	0.95		
230		21f		東西道路南側外灯⑥	BB12	1.4	0.85	中世層、近世東西方向水路	
231		21g		東西道路南側外灯⑦		1.1	0.7		
232		22a		集水樹①	BB10	1.4	0.6	礫層確認	
233		22b		集水樹②	BB11	1.4	0.9	中世層、近世東西方向溝	
234	23b	東西道路南側樹木植穴②~④		BB10-11	0.6~0.7	-	旧陸軍東西方放水路		
235	24	自由勾配側溝①		BB09~12	0.8	0.6	近世層、近世南北方向の段・溝、近代南北方向溝		
236	25	重圧管管路		BB10-11	1~1.1	-	旧陸軍東西方放水路		
237	26a	ガス管管路1-①		BB10	1	-	旧陸軍東西方放水路2条		
238	26b	ガス管管路1-②		BB10	1.2	0.55	礫層、近世土壌、近代南北方向溝		
239	28a	さくら広場外灯①		BB10	1.4	0.5	弥生前期層確認		
240	28b	さくら広場外灯②	BC10	1.1	0.45~0.55	古墳時代前期層、古墳時代後期土坑(焼土◎)、近世土坑			
241	30	ガス管②	BB10-BC10	0.75~1.4	0.85	近世層、近世土坑、近世~近代東西方向溝			
242	31	パーゴラ電気設備	BC11	1.5	0.75	礫層、弥生時代ピット、戦国時代南北方向溝			
243	35a	ガス漏れ修理	AZ03	1.1	0.5	弥生時代前期黒色土確認			
244	2014	8	Jテラス新営	排水管	BG・BH13	0.7	-	旧陸軍南北方向水路	121
245		12	津島宿泊所	電柱新設工事	BJ16	2.7	-	オーガ掘削、GL-1.6~1.8mで黒色土	

総合番号	年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度(m)	造成土厚(m)	概要	文献
248	2015	9	職員宿舎新営	BI16	0.8~1.9	1	陸軍水路確認GL-0.4m	124
249		13		BI16	0.9~1.45	0.65~0.85	南端GL-1.3mで弥生後期層確認	
250		16		BI16・17	2.5	0.9~1.2	オーガ掘削。GL-1.6mで黒色土、-1.8mで基盤層確認	
252	2016	7	職員宿舎電柱立替	BI14	2.5	0.8	オーガ掘削、GL-1.6~1.8mで黒色土	128
253		13	講義棟改修(教育系)	AZ-BA04-06	1.1	0.6	黒色土まで確認	
254		14			1.5	1	黒色土まで確認	
255		15			1.4	0.65~0.9	黒色土まで確認	
256		16			1.4	0.78	黒色土、中世溝確認	
257		17			1.4	0.7	黒色土、中世溝確認	
258	18	1.4			0.8	黒色土まで確認		
260	2018	6	理学部2号館電気室設置極埋設工事	AY09	0.75~1.7	1.2	中世層	138
261		21	野球部バックネット改修ほか	BB05-06	3.0	0.9~1	東側2か所は青灰色粘土、西側2か所は-2.4m付近に黒色土、以下灰黄褐色砂質土~青灰色粘土	
262		22	基幹・環境整備(ブロック塀対策)他	BJ16・17	0.7	0.7	土塁測量実施	
264	2019	6	野球場バックネット	BB06	2.05	0.92	GL-2mで黒色土確認	141
265		10	中電ケーブル埋設工事	AU04	1.45	0.9	中世~近代層確認【岡山市立会】	
268	2020	8	異分野研究所新営	AZ~BA8~9	0.9~1.3	0.6~1	黒色土~近世層まで確認	145
269		9	基幹・環境整備	BB13	1.8~2.2	1	基盤層まで掘削。T38Sと同様	145
270		10		AZ・BA13	1.8	1~1.3	一部で古代層まで掘削。T38Nと同様	145
271		17	ライフライン再生(津島南)	BC~BD 16~19	1~2	1.5	基盤層まで掘削。黒色土1.84~2.37m	145
272		21	ライフライン再生(津島北)	AZ00~01	1.3~1.4	0.5	黒色土3.7~3.8m	145
273	22	排水管	AY~BA06	0.9~2	0.7~1	黒色土3.25~3.54m	145	

＜鹿田地区：鹿田遺跡＞

総合番号	年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度(m)	造成土厚(m)	概要	文献	
3	1983	-	外来診療棟蒸気配管埋設	AO~AW22	1.3	-	弥生後期：土器・分銅形土製品、貝集積	1	
7	1985	6	外来診療棟関係屋外排水管理設	AW~BH23、 BH-BI24	1.3~1.7	0.7~1.3	弥生・中世：遺構・遺物	5	
8		12	基幹環境整備緑化工事：電気配線ハンドホール掘削	AG31、AG24、 AF23	1.2~1.7	0.9~1.3	3ヶ所、中世包含層・ピット		
9	1986	9	記念館東側污水管改修工事	BI~BN4	0.8~1.3	0.8	中世包含層、土器	6	
11		24	護岸及び囲障工事	CL~CR12、 CR~CX13、 CX~DA14	2	0.8~1	中世包含層		
14	1987	8	管理棟新営に伴う基礎杭確認	BC37	2.5	-	弥生時代：包含層・遺構	8	
15	1989	46	旧管理棟跡地環境整備：外灯基礎	CE30・37・44、 CJ・CK45、CL28・29	1.2~1.5	0.7~1	2ヶ所、中世層	14	
18	1992	29	アイソトープセンターL形側溝・集水柵	BW71	1.4~1.5	0.9	中世溝1条	25	
19		41	テニスコート脇電柱埋設	CI73	1.2	1	古代土器1点		
20	1994	5	護岸改修工事	DH60~62	1.5	0.8	近世層以下は遺構埋土か、溝3条・ピット9基	33	
21	1995	11	鹿田地区基幹整備	附属病院連絡通路新設	BG・BI18	1.5	1	造成土以下に茶褐色土・青灰色粘質土層、遺物なし	38
22		14		液酸タンク設置	CD07・08	2.3	1	中世2面、溝3条、溝内から古代・中世土器	
23		17		液酸タンクU字溝埋設	CD08~CC11	1.23	0.85	包含層、中世土器、攪乱で区間全長の1/2程度破壊	
24		23		防球ネット取設工事	DF56~67	3	0.8	径60cmを12ヶ所、内4ヶ所で土器片・石器、調査区西寄り：GL-2m以下は旧河道か	
30	1998	36	校舎新営に伴う仮設電柱工事	BV73、CN78	1.2	1	中世層まで	53	
33	1999	15	研究棟新営	給排水柵・管路	BV65~71	1.2~1.4	0.9	中世層まで	56
34		18		検水槽	BU65	2.2	1.1	面積8.2㎡、近世溝、中世：溝・ピット	
35		27	基幹整備(電気設備)：地中配管	BY42・43、 BI43・44	1.25~1.45	0.45~0.5	2ヶ所、中世層まで、時期不明遺構		
36		41	病棟新営	共同溝解体	CF21~28、 CF~CL28、 CD~CF28~33	1.7	-	面積18㎡、鹿田11次調査南側で中世ピット	
37		46		污水柵・管路	CN46~DE49	2.3	1.2	古墳時代：井戸1基・土坑1基、中世溝等	
38		47	グラウンド防球ネットボール	CM・CN・CP・CR・ CT58、CV・DA・ DC・DD・DF59	2.0~2.3	-	11ヶ所、南側6ヶ所：河道、7~10ヶ所：微高地、最北端：河道		
39		48	病棟新営	污水検水柵	BT51	2	1	古墳時代層まで	
41	25	病棟新営	管路・雨水柵	CD41~CN45	1.6~1.8	-	溝か？		
42	2000	26	電柱及び外灯の埋設工事	CN15・21・27、 CO31・42、 CS45、DV45	1.6	-	7ヶ所、灰白色土層・淡褐色砂質土層・暗褐色砂質土層、微高地部か	61	
43		29	医学部ガス配管切り離し用バルブ取付工事	DI27	0.8~1.15	0.7	GL-0.85mで黄灰色粘質土		
44		47	鹿田団地南側用水路境界擁壁改修	DG~DJ28~67	2.1~2.3	1.3~1.5	幅120mの壁面調査、古代の遺構・河道		

総合 番号	年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概要	文献	
45	2001	37	総合教育研究棟新営に伴う機械設置工事	BR~CA43、 CA43~55、 CA44~CL45、 BR~CA55	1.65	0.7~0.9	中世層まで、中世土器多数出土地点あり	66	
47	2002	10	鹿田団地ガス配管埋設工事	CH11~CN22	1~1.3	0.87	中世層まで	71	
48		19		BT・BU11	0.5~1.8	-	2ヶ所、GL-1.22mで古代or中世層		
49		22	共同溝排水管	CQ41~42	1.5	-	1ヶ所、包含層まで		
50		25	エネルギーセンター棟新営 外灯	CG41、CO34、 CF43、CO38	1.47~1.66	-	4ヶ所、中世層まで		
51		27		外溝	CV36~45	0.9~1.9	0.9		中世：井戸・柱穴・溝
52		36	総合教育研究棟新営その他工事	BI~BS45~53	1.85~2	0.8~1	5ヶ所、中世層まで		
53		52	本部棟新営その他工事：植栽移植	DC67	1.25	-	中世層		
54	56	旧混合病棟グリーストラップ改修	BG18	1.68	-	底面で弥生~古墳層、土器			
55	2003	5	総合教育研究棟 屋外排水	BS~BZ45、 CA~CO46、 CO45	1.7	0.7~1	弥生中期?包含層まで、近世土坑、中世ピット多数、低地部確認	74	
56		9		外構工事（雨水・汚水・実験排水）	BL~BS45~53	0.8~1.75	0.7~0.9		一部弥生中期包含層まで、古墳時代溝、中世井戸、近世土坑等
57		10		給水配管埋設	BR~BS50~54	1.33	0.8		一部で中世層まで
58		13		外構工事（外灯）	BR53、BL54	1.4	0.8		中世層まで
60	2004	3	医病構内支障ガス配管替工事	AF16、AF~AJ17、 AJ9~16	1~1.9	0.7~0.8	接続部：近世・近代水田層、中世畦畔、弥生~古墳河道（砂層）	81	
61		5	医病構内支障給水管配管替工事	AE4~16、 AF~AI16、 AI9~15、AJ~AO9	0.9~1.9	0.85	層：中世?~近代畦畔、弥生~古墳河道（砂層）		
62	2005	3	医学部変電所ピット周辺高圧ケーブル設置工事	DH~DJ18、DJ19	1.1~2.5	0.7~1.1	一部で弥生~近代層	83	
63	2006	6	エネルギーセンター棟新営に伴う工事	CT~CU45	2.5	0.9	鹿田第12次調査地点と重複	88	
67	2007	4	基幹環境整備（道路等）工事	CC13~20、 CD13~20	1.2~2.2	0.9~1.2	基盤層まで、中世：東西・南北溝	92	
68		5	中診棟屋上防水改修その他工事	AS03~07、 AV~AX07、 AY~BB09	0.6~0.9 1.4、1.8	0.7	古墳時代南北溝、中世東西溝		
69		7	中央診療棟新営：ガス管切断工事	BT11	1.28	0.5	中世溝		
70		10	基幹整備（電気設備）工事	CO42、CV36	1.3~1.65	1.3	中世層まで、遺構		
71		11	環境整備（道路等）工事	ガス配管1	CG08、CF09・10、 CG・CH1、CI11	0.85~1.3	0.9		中世：井戸（or墓）・ピット・溝
72		17		ガス配管2	CL12、CM13、 CN14~15	1~1.2	0.4		中世層、中世遺構
73		27	総合研究棟（医学系）新営その他工事	BT・BU65	1.35	1	中世層		
74		28	用水路改修工事	CJ7~CP12	1.7~2.0	0.6~0.8	包含層及び枝川東側に微高地		
75		30	高エネルギー治療室改修工事	BE33	1.4	0.6~0.7	中世~近代：畦畔・溝、弥生後期土器		
77		2008	5	基幹整備（西病棟とりこわし他）工事	現場打ち排水枡	BT24~25	0.98~1.4		0.7
78	6		ライトコート工事		BQ24、BR24	0.75	0.5	湿地性堆積層	
79	7	基礎医学棟一部とりこわしに伴う支障ガス配管移設工事	AO53~54、 AL54~AO54、 AL54~61、 AL62~AP65	0.76~1.0	0.5	近世層まで、土坑2基			
83	2009	3	鹿田遺跡第20次A調査矢板打ち	CB30、CB40	0.8~0.9	0.7	中世層まで	102	
90	2010	6	高精度放射線治療棟屋外排水工事	BH32~35、 BI~BL35	0.75~0.9	0.6	中~近世の遺構?	105	
91		7	中央診療棟新営：アース極設置工事	BR14~16・19・22	0.9~1.8	1.1	包含層		
92		17	外灯整備工事：研究棟南駐車場	BY46~50	1.2	1.2	遺構埋土?		
93		22	保育所改修工事	CV~CY28・29	1.6	1.15	弥生基盤層まで		
95	2011	4	立体駐車場新営<配管>	CN45~49、 CO~DF49、 CW~DD44、 DD45、DD~DF46、 DF~DG47~49	0.7~2.38	0.55~1	弥生時代土坑、古代土坑、中世溝、近世土坑・溝・畦畔	107	
98	2012	8	グラウンド防球ネット設置	CL~DF57	2	1	オーガ掘削	111	
99		9	医歯薬融合棟支障配管	BL~BM58	2	1.2	中世溝・土坑?、弥生基盤層まで		
100		13	講義実習棟改修	BU~BV66	1.6	1.1	中世以前（灰茶褐色砂質土）まで		
102	2013	3	医歯薬融合型教育研究拠点 施設新営	浄化槽撤去	BM57・58	3.6	1.1	弥生基盤層以下まで	112
103		4		共同溝撤去	BE65	2.3	1.1	弥生基盤層まで	
104		5		ボイラー撤去	BH・BI66~68	3.9	1.1	弥生基盤層以下まで	
105		6		重油タンク撤去	BC67・68	3.5	1.1	弥生基盤層以下まで	
106		7		煙突撤去	BJ・BK69	4.9	1.1	弥生基盤層以下まで	
107		8		工事に電気引き込み	AV68	2	1	中世層(?)確認	
108		9a		排水配管（A工区）	AD~AH66・67	2.45~2.68	1.2~1.65	古代河道、中世~近代層、近世溝	
109		9b		排水配管（B工区）	AI~AK67	2.2~2.45	1.6~1.65	古代河道、中世~近代層	
110		9c		排水配管（C工区）	AJ66・AK67・68・ AL~AP67・68	1.8~2.66	1.35~1.7	古代河道、中世~近代層	
111		9d		排水配管（D工区）	AO~AT68	1.7~2.05	1.2~1.35	弥生時代後期包含層、弥生~古代砂層、古代河道、中世~近代層	
112	9e	排水配管（E工区）	AS~AW68	1.45~1.9	0.7~0.75	弥生層、弥生ピット、弥生土器片出土、弥生~古代砂層、近代層			

総合番号	年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度(m)	造成土厚(m)	概要	文献		
113		9f	医菌薬融合型教育研究拠点施設新営	排水配管 (F工区)	AU・AX～AZ68、AX・AZ～BB69	1.33～1.84	0.7～0.75	弥生層、弥生～古代砂層、中世～近代層	116	
114		9g		排水配管 (G工区)	BC66～70、BD61・63・64、BE60～63	0.88～1.5	0.89～1.15	中世～近代層、近世土坑		
115		11	Jホール新営	給水管	AL53	1.5	0.8	中世?～近代層確認		
116		12		給排水管路	AL53～62、AK・AI62～67	0.65～1.85	1.3	中世～近代層確認		
117	2013	19	臨床研究棟改修	電気配管 (アース) 3ヶ所	BJ・BK43	1.64～1.73	0.6～0.71	古墳?・中世・近世層確認		
118		26a	図書館・学生支援センター改修	排水配管 (A工区)	AD40	2	1.3	中世層、近世土坑		
119		26b		排水配管 (B工区)	AD・AE39・40	1.75	1.5	中世～近代層、河道?		
120		26c		排水配管 (C工区)	AF40～42	1.52～1.63	1.06～1.2	中世～近代層確認		
121		30		給水・消火管	AU～AW40～42	1.4	0.8	中世?～近代層確認		
122		32a		中診Ⅱ期発掘調査に伴う支障物撤去	排水配管 (A工区)	BZ～CC42、BX・BY43	1.1～1.45	0.85～1		中世～近代層、近世土坑・畦畔
123		32c		排水配管 (C工区)	BT35	2.3	1.1	中世～近代層、中世溝		
126		6	動物実験施設改修	雨水排水柵	CC58	1.4	0.9	中世溝、近世近代層		121
127		11		機械設備柵	CJ58	1.8	1.1	弥生～古墳層まで掘削、中世土坑		
128		15	医菌薬融合型教育研究拠点施設新営	排水柵①	BB69	1.6	0.7	中世～近世近代層		
129		19		カーブミラー基礎	BL70	1.3	0.8			
130		24	グラウンド復旧工事	防球ネット移設	CP～DF68	2.1	1.1～1.2	オーガ掘削、1ヶ所で貝層確認 (GL-約1.6m)		
131		11	旧混合病棟とりこわし他工事	外灯1	BA21	1.3	0.75	中世溝、弥生後期の包含層確認	124	
132		13		外灯3	BF11	1.3	0.8～1.05	中世井戸2基・溝1条確認		
133		14		外灯4	AY・AZ08	1.3	0.5～0.6	中世ビット12基・溝2条確認。弥生後期包含層確認。	124	
134	2015	15	バリカー1	BG10	0.9	0.75	近世溝または河道確認			
135		16	バリカー2	BG09	0.9	0.65	近世土坑1基・溝1条確認			
136		17	バリカー3	BG09	0.9	0.7	近世溝または河道確認			
137		20	臨床講義棟改修工事	給排水	BV40～BW41	1	0.6	中世層確認		
138		2	中央診療棟新営	管路	CA44	1.15	1.05	中世層確認	128	
139		7	旧生化学棟改修工事	管路1	AD63～65	2.3	1.6	古代河道堆積砂まで確認		
140	2016	8		管路2	AF62～65、AD・AE66	1.7～2.3	1.5～1.7	古代河道堆積砂まで確認		
141		9		管路3	AI61～67	1.95	1.6	中世層まで確認		
143	2017	4		自家発電	ガス配管	CM43～CO46	1.2	1～1.1		中世層確認
145	2018	2	防球ネット移設		CL～DF57	2.0	0.9	貝類混じる地点1ヶ所あり	138	

<東山地区>

総合番号	年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度(m)	造成土厚(m)	概要	文献
1	1983	-	附属中学校新営	-	4.0～5.0	-	シルト層中	1
2	1997	29	附属小・中学校他開障改修工事	-	1.2	0.79	GL-1.1mで近世水田層、溝1条	50

<三朝地区：福呂遺跡>

総合番号	年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度(m)	造成土厚(m)	概要	文献
4	1997	18	実験研究棟新営に伴う電気埋設管路工事	-	1	-	GL-1.0mで中世包含層は東に向かい上昇	50

付表3 埋蔵文化財調査研究センター収蔵遺物概要 (2022年3月現在)

種類	遺跡名 (地区名)	調査名：工事名	箱数 (1箱：約30リットル)						特殊遺物ほか	文献		
			総数	土器	石器	木器*	種子*	その他				
発掘	鹿田	第1次調査：外来診療棟	546.5	503	6	20	0.5	1	16	丹塗り土師器・白磁・瓦器・木製短甲・人面線刻土器・ガラス滓・馬骨等	7	
		第2次調査：NMR-CT室	106.4	96	0.4	4.5	0.5	1	4	黒色土器・田舟・木簡・墨書土器・転用硯・円面硯等		
		第3次調査：医短校舎	58.6	36	0.3	18	0.3			4	石帯	10
		第4次調査：医短配管	4	2	0.3	0.5	0.2			1	古代土器・鹿角製品	
		第5次調査：管理棟	101.2	88	2.5	6	1.5	0.2		3	木器・炭化種子・牛頭骨・焼き印付き井戸枠	24
		第6次調査：RI総合センター	62	59	0.5	1	1.5				青銅製椀	40
		第7次調査：基礎医学棟	77.5	73	1	1.3	0.2	1	1	1	猿形木製品	85
		第8次調査：RI治療棟	10	10							備前焼椀・瓦器椀・播磨産椀	
		第9次調査：病棟	120.1	96	0.1	13			9	2	木簡3点	126
		第10次調査：共同溝	2	2							古代土器・杭	108
		第11次調査：病棟	74	66		4			2	2	木簡1点	126
		第12次調査：エネルギーセンター	147	77	1	54				15	近世漆塗り櫛、籠、須恵器壺	143
		第13次調査：総合教育研究棟	269	229	24	10				6	曲物	98
		第14次調査：病棟	66.2	55	1	2	0.2	1	7		木簡・瓦器椀	113
		第15次調査：総合教育研究棟	4	3						1	—	98
		第16次調査：立体駐車場	1	1							—	81
		第17次調査：総合研究棟	111.2	68	4	8	0.2	1	30		—	137
		第18次調査：中央診療棟 (本体)	155.5	116	19	18	0.5			2	—	92
		第18次調査：中央診療棟 (その他)	4	2						2	猫形木製品、近世護岸木材	108
		第19次調査：歯学部渡り廊下	185	145	1	4				35	壺棺、蹄脚硯、貝	95
		第20次調査 (A・B地点)：中央診療棟	296	148	68	62			6	12	—	102
		第20次調査 (C・D地点)：中央診療棟	86.1	55	16	7	1	0.1	7		—	105
		第21次調査：環境整備	10.1	4	1	3			0.1	2	陽物形木製品	105
		第22次調査：地域医療人育成センター	175	146	3	25			1		—	107
		第23次調査：Jホール	33	30		1				2	—	120
		第24次調査：医歯薬融合棟	105	52	4	21				27	絵馬 (猿駒曳・牛)	130
		第25次調査：中央診療棟Ⅱ期	85	52	3	4			5	21	烏帽子	131
		第26次調査：動物舎	75	34	4	7			2	28	—	135
		第27次調査：自家発電設備	2	2							—	143
		第28次調査：アメニティモール新営	122	81	3	37			1		—	138
第29次調査：先端治療・臨床検査センター予定地	30	18	2	7.5			0.5	2	—	本書		
津島岡大	津島岡大	第1次調査：NP-1	5	0.5	0.5	4				—	3	
		第2次調査：農学部合併処理槽他	15.5	12	1.5					2	突帯文土器・弥生前期土器	4
		第3次調査：男子学生寮	59	48	1.5	2	4.5			3	縄文後期土器・突帯文土器・石製指輪・蛇頭状土器片・鎌状石器・堅果類・種子	19
		第4次調査：屋内運動場	1	1							—	6
		第5次調査：大学院自然科学研究科棟	85	71	3	1	8			2	縄文後期：土器・耳栓・櫛・堅果類・種子	27
		第6次調査：生物応用工学棟	53	36	1	9	6			1	古代土器・人形木器・編み物、弥生前期人形土製品・堅果類	35
		第7次調査：情報工学科棟	13.5	10	0.5	1				2	—	
		第8次調査：遺伝子実験施設	11.5	11	0.5						—	32
		第9次調査：生体機能応用工学科	42.5	35	2.5	3	2				堅果類・種子・縄文後期土器	47
		第10次調査：健康管理センター	86	78	1	7					分銅形土製品、鍛冶関連、器台	64
		第11次調査：総合情報処理センター	4.5	3	0.5					1	—	36
		第12次調査：図書館	60.2	38	1	20	0.2			1	弥生木製農具・鏝	64
		第13次調査：福利厚生施設北	12.5	12	0.5						—	41
		第14次調査：福利厚生施設南	12.2	11	0.2					1	—	46
		第15次調査：サテライトベンチャービジネスラボラトリー	38	15	2	20				1	縄文後期耳栓・編み物、堅果類	72
		第16次調査：動物実験棟	2.3	0.3						2	—	44
		第17次調査：環境理工学部校舎	74	63	11						縄文後期土器	77
		第18次調査：南福利ポンプ槽	0.2	0.2							—	53
		第19次調査：コラボレーション・センター	28	21	1	4			1	1	炉壁・輪羽口	65
		第20次調査：環境理工学部ポンプ槽	0.2	0.2							—	53
		第21次調査：工学部エレベーター	7	5	2						縄文中期土器・横長削器	65
		第22次調査：環境理工学部校舎	33.9	26	4	3	0.2	0.2	0.5		古代塚部材	77
		第23次調査：総合研究棟	81	20	0.5	60	0.5				縄文後期杭、石棒	80
		第24次調査：総合研究棟渡り廊下	2.1	1	0.1	1					—	80
		第25次調査：農学部散水施設	0.3	0.1		0.2					—	61
		第26次調査：事務局本部棟	25	17	2	5				1	—	76
		第27次調査：創立五十周年記念館	18.2	14	1				0.2	3	縄文後期土器 (中津)	68
		第28次調査：自然科学系総合研究棟	15.2	13	2				0.2		—	87
		第29次調査：農学部共同溝	1.1	1	0.1						—	71
		第30次調査：インキュベータ	23.3	5	0.1	18				0.2	—	93

種類	遺跡名 (地区名)	調査名：工事名	箱数（1箱：約30リットル）						特殊遺物ほか	文献
			総数	土器	石器	木器*	種子*	その他 サンプル*		
発掘	津島岡大	第31次調査：大学生協東エリア店舗	5.7	5	0.5			0.2	—	95
		第32次調査：教育学部剣道場	17	12	3				編み物	100
		第33次調査：薬学部講義棟	12.6	11	1.5			0.1	縄文中期土器（船元）	117
		第34次調査：国際交流会館	1	1					—	105
		第35次調査：図書館（増築）	1	1					—	145
		第36次調査：職員宿舎	2.5	0.5				2	—	129
		第37次調査：異分野基礎科学研究所	38	37		1			—	141
		第39次調査：ライフライン再生	4.2	4	0.1	0.1			—	145
	福呂	第1次調査：実験研究棟	7	6	1				縄文早期土器	55
		第2次調査：実験研究棟スロープ	3.1	3				0.1	—	55
試掘 確認	鹿田	鹿田駐車場（1985）	1	1					—	5
		鹿田アイソトープ総合センター（1990）	1	1					—	18
		地域医療総合支援センター（2010）	1	1					—	105
	津島岡大	男子学生寮（1985）	1	0.7	0.3				—	5
		大学院自然科学研究科棟（1986）	1	1					—	6
		理学部身障者用エレベーター（1987）	0.3	0.3					—	8
		教養部身障者用エレベーター（1987）	0.7	0.7					—	8
		工学部校舎（1988）	1	1					—	11
		動物実験飼育棟・遺伝子実験棟（1988）	0.7	0.7					—	11
		国際交流会館（1988）	0.3	0.3					—	11
		大学院自然科学科合併処理槽（1989）	0.2	0.2					—	14
		学生合宿所（1989）	0.4	0.2				0.2	—	14
		教育学部身障者用エレベーター（1989）	0.3	0.3					—	14
		図書館（1989）	1	1					—	14
		学生合宿所ポンプ槽（1990）	0.4	0.4					—	18
		福利厚生施設（1990）	0.5	0.5					—	18
		農・薬学部動物実験施設（1993）	0.1	0.1					—	33
		環境理工学部校舎（1995）	0.1	0.1					—	53
		システム工学科棟（1998）	0.1	0.1					—	53
		正課外活動施設（2012）	2	0				2	—	111
	(土生)	外国人宿舎（1987）	1	1					—	8
		資源生物科学研究所（1990）	0.1	0.1					—	18
	(倉敷)	附属小学校校舎（2006）	1.1	0.1				1	—	87
(東山)	附属中学校体育館（2013）	1	0				1	—	116	
立 会	1983年度	2	2					分銅形土製品	1	
	1984年度	1	1					—	2	
	1985年度	1	1					—	3	
	1986年度	0.5	0.5					—	6	
	1987年度	0.5	0.5					—	8	
	1991年度・1992年度	0.3	0.3					—	21.25	
	1993年度～1999年度	0.8	0.8					—	30.33.38. 44.50.53. 56	
	2000年度	3	3					—	61	
	2002年度	8.5	2.5	6				弥生早期土器、中世、礎石	71	
	2003年度	2	2					—	74	
	2004年度	1	1					—	81	
	2005年度	1.1	0.1				1	—	83	
	2006年度	1.1	0.1				1	—	87	
	2007年度	0.5	0.5					—	92	
	2008年度	1	1					—	95	
	2009年度	0.2	0.2					—	102	
	2010年度	4.2	0.2				4	近現代、陸軍関連金属器、電線	105	
	2011年度	3	3					弥生後期土器	107	
	2012年度	0.5	0.5					—	111	
	2013年度	1.5	1.5					—	116	
	2014年度	0.6	0.1				0.5	貝サンプル	121	
	2015年度	0.5	0.5					—	124	
	2016年度	0.1	0.1					—	129	
2017年度	0.1	0.1					—	134		
分布調査	1989年度 三朝・本島	0.3	0.3					—	14	
合 計		3973.6	2975.4	218.4	487.5	32.5	35.4	223.4		

*：木器・種子・サンプルは整理の進行状況により容量および保管形態が変化するため、表中の数値は当該年度末の収蔵量を示す。

付表4 埋蔵文化財調査室刊行物

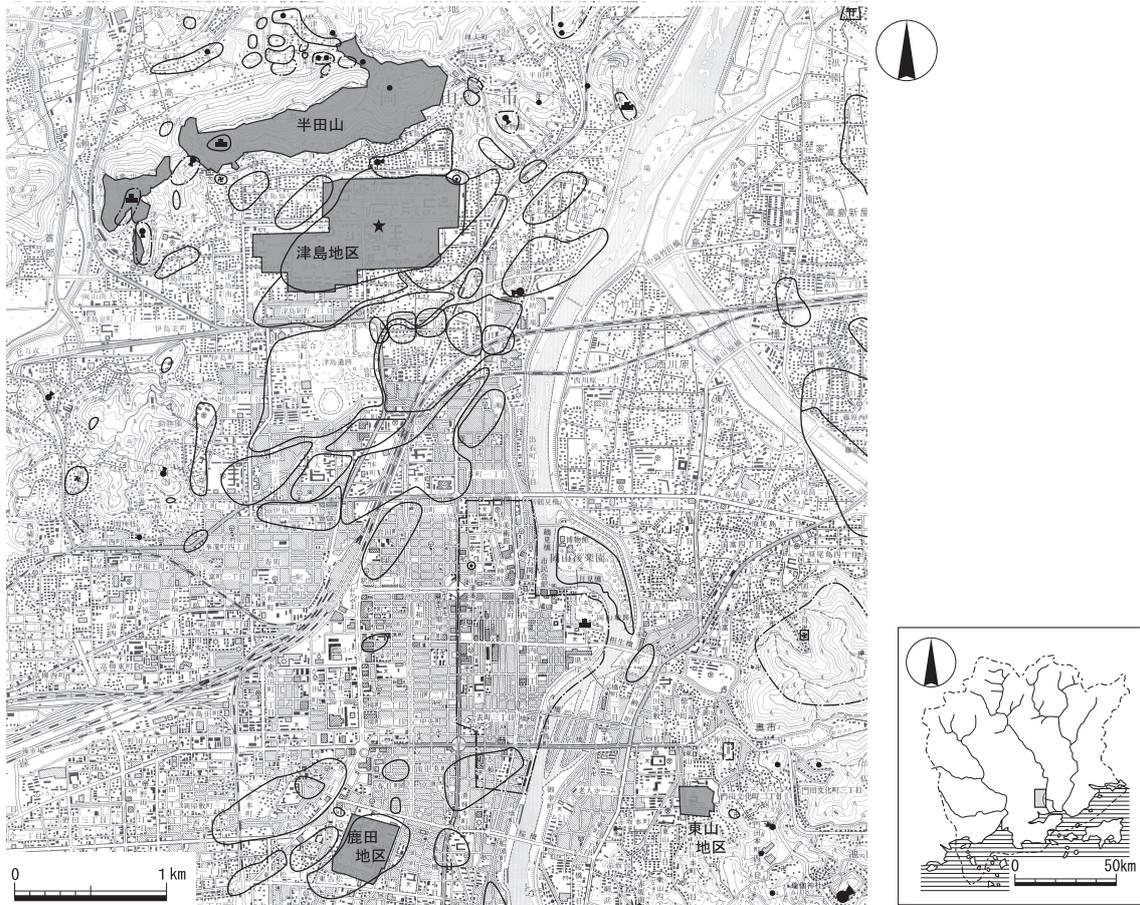
番号	名	称	発行年月日
1	岡山大学構内遺跡調査研究年報1	1983年度	1985年2月
2	岡山大学構内遺跡調査研究年報2	1984年度	1985年3月
3	岡山大学津島地区小橋法目黒遺跡(AW14区)の発掘調査	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第1集	1985年5月
4	岡山大学津島地区構内遺跡発掘調査報告Ⅱ(農学部構内BH13区他)	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第2冊	1986年3月
5	岡山大学構内遺跡調査研究年報3	1985年度	1987年3月
6	岡山大学構内遺跡調査研究年報4	1986年度	1987年10月

付表5 埋蔵文化財調査研究センター刊行物(2022年3月まで)

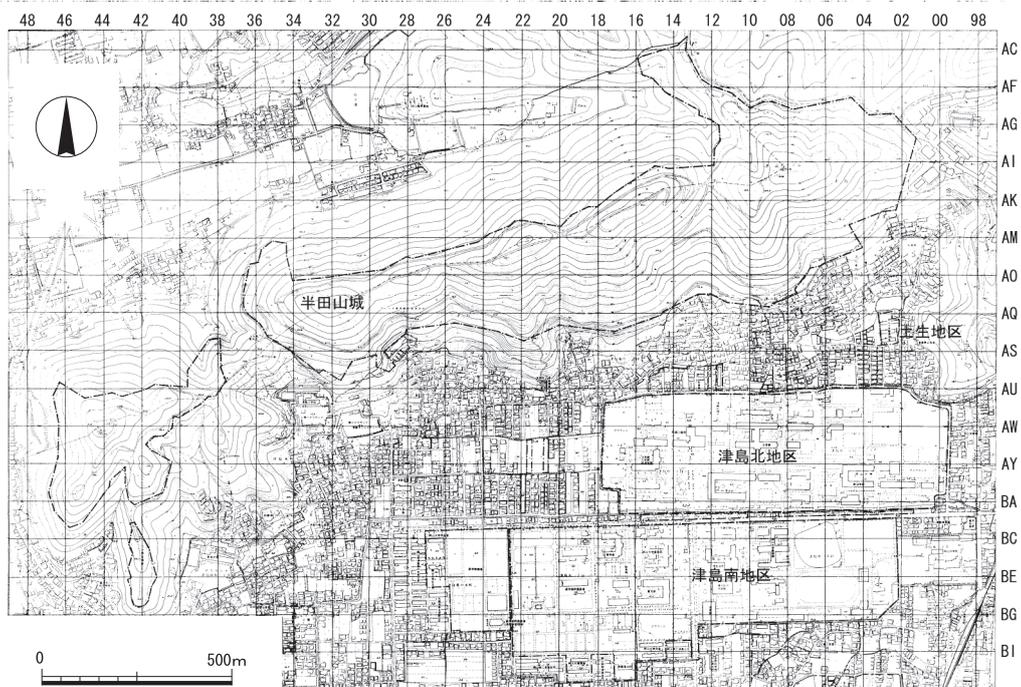
番号	名	称	発行年月日
7	鹿田遺跡Ⅰ	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第3冊(鹿田遺跡第1次・2次調査)	1988年3月
8	岡山大学構内遺跡調査研究年報5	1987年度	1988年10月
9	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第1号	1988年10月
10	鹿田遺跡Ⅱ	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第4冊(鹿田遺跡第3次・4次調査)	1990年3月
11	岡山大学構内遺跡調査研究年報6	1988年度	1989年10月
12	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第2号	1989年8月
13	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第3号	1990年2月
14	岡山大学構内遺跡調査研究年報7	1989年度	1990年11月
15	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第4号	1990年7月
16	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第5号	1991年3月
17	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第6号	1991年8月
18	岡山大学構内遺跡調査研究年報8	1990年度	1991年12月
19	津島岡大遺跡3	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第5冊(津島岡大遺跡第3次調査)	1992年3月
20	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第7号	1992年3月
21	岡山大学構内遺跡調査研究年報9	1991年度	1992年12月
22	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第8号	1992年8月
23	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第9号	1993年3月
24	鹿田遺跡3	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第6冊(鹿田遺跡第5次調査)	1993年3月
25	岡山大学構内遺跡調査研究年報10	1992年度	1993年12月
26	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第10号	1993年11月
27	津島岡大遺跡4	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第7冊(津島岡大遺跡第5次調査)	1994年3月
28	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第11号	1994年3月
29	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第12号	1994年10月
30	岡山大学構内遺跡調査研究年報11	1993年度	1995年2月
31	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第13号	1995年3月
32	津島岡大遺跡5	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第8冊(津島岡大遺跡第8次調査)	1995年3月
33	岡山大学構内遺跡調査研究年報12	1994年度	1995年12月
34	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第14号	1995年10月
35	津島岡大遺跡6	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第9冊(津島岡大遺跡第6次・7次調査)	1995年12月
36	津島岡大遺跡7	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第10冊(津島岡大遺跡第11次調査)	1996年2月
37	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第15号	1996年3月
38	岡山大学構内遺跡調査研究年報13	1995年度	1996年10月
39	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第16号	1996年10月
40	鹿田遺跡4	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第11冊(鹿田遺跡第6次調査)	1997年3月
41	津島岡大遺跡8	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第12冊(津島岡大遺跡第13次調査)	1997年3月
42	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第17号	1997年3月
43	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第18号	1997年9月
44	岡山大学構内遺跡調査研究年報14	1996年度	1997年11月
45	今、よみがえる古代	岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの10年	1997年11月
46	津島岡大遺跡9	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第13冊(津島岡大遺跡第14次調査)	1997年12月
47	津島岡大遺跡10	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第14冊(津島岡大遺跡第9次調査)	1998年3月
48	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第19号	1998年3月
49	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第20号	1998年10月
50	岡山大学構内遺跡調査研究年報15	1997年度	1999年1月

番号	名 称	発行年月日
51	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第21号	1999年3月
52	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第22号	1999年9月
53	岡山大学構内遺跡調査研究年報 16 1998年度	2000年1月
54	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第23号	2000年3月
55	福呂遺跡Ⅰ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第15冊 (福呂遺跡第1次・2次調査)	2000年3月
56	岡山大学構内遺跡調査研究年報 17 1999年度	2000年8月
57	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第24号	2000年9月
58	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価・外部評価報告書	2000年12月
59	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第25号	2001年3月
60	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第26号	2001年8月
61	岡山大学構内遺跡調査研究年報 18 2000年度	2001年10月
62	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第27号	2002年3月
63	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第28号	2002年9月
64	津島岡大遺跡11 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第16冊 (津島岡大遺跡第10次・12次調査)	2003年3月
65	津島岡大遺跡12 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第17冊 (津島岡大遺跡第19次・21次調査)	2003年3月
66	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2001	2003年3月
67	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第29号	2003年3月
68	津島岡大遺跡13 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第18冊 (津島岡大遺跡第27次調査)	2003年5月
69	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第30号	2003年8月
70	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第31号	2004年2月
71	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2002	2004年3月
72	津島岡大遺跡14 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第19冊 (津島岡大遺跡第15次調査)	2004年3月
73	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第32号	2004年9月
74	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2003	2004年12月
75	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第33号	2005年3月
76	津島岡大遺跡15 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第20冊 (津島岡大遺跡第26次調査)	2005年3月
77	津島岡大遺跡16 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第21冊 (津島岡大遺跡第17次・22次調査)	2005年3月
78	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第34号	2005年10月
79	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第35号	2006年3月
80	津島岡大遺跡17 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第22冊 (津島岡大遺跡第23次・24次調査)	2006年3月
81	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2004	2006年3月
82	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第36号	2006年10月
83	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2005	2007年3月
84	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第37号	2007年3月
85	鹿田遺跡5 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第23冊 (鹿田遺跡第7次・8次調査)	2007年3月
86	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第38号	2007年10月
87	津島岡大遺跡18 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第24冊 (津島岡大遺跡第28次調査)	2008年3月
88	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2006	2008年3月
89	岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの20年 - 自然と人間、地中に埋もれた命の対話 -	2008年3月
90	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第39号	2008年3月
91	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第40号	2008年9月
92	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2007	2008年12月
93	津島岡大遺跡19 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第25冊 (津島岡大遺跡第30次調査)	2009年3月
94	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第41号	2009年3月
95	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2008	2010年2月
96	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第42号	2010年2月
97	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第43号	2010年3月
98	鹿田遺跡6 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第26冊 (鹿田遺跡第13次・15次調査)	2010年8月
99	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第44号	2010年12月
100	津島岡大遺跡20 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第27冊 (津島岡大遺跡第32次調査)	2011年3月
101	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第45号	2011年3月
102	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2009	2011年3月
103	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第46号	2011年11月
104	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第47号	2012年3月
105	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2010	2012年3月

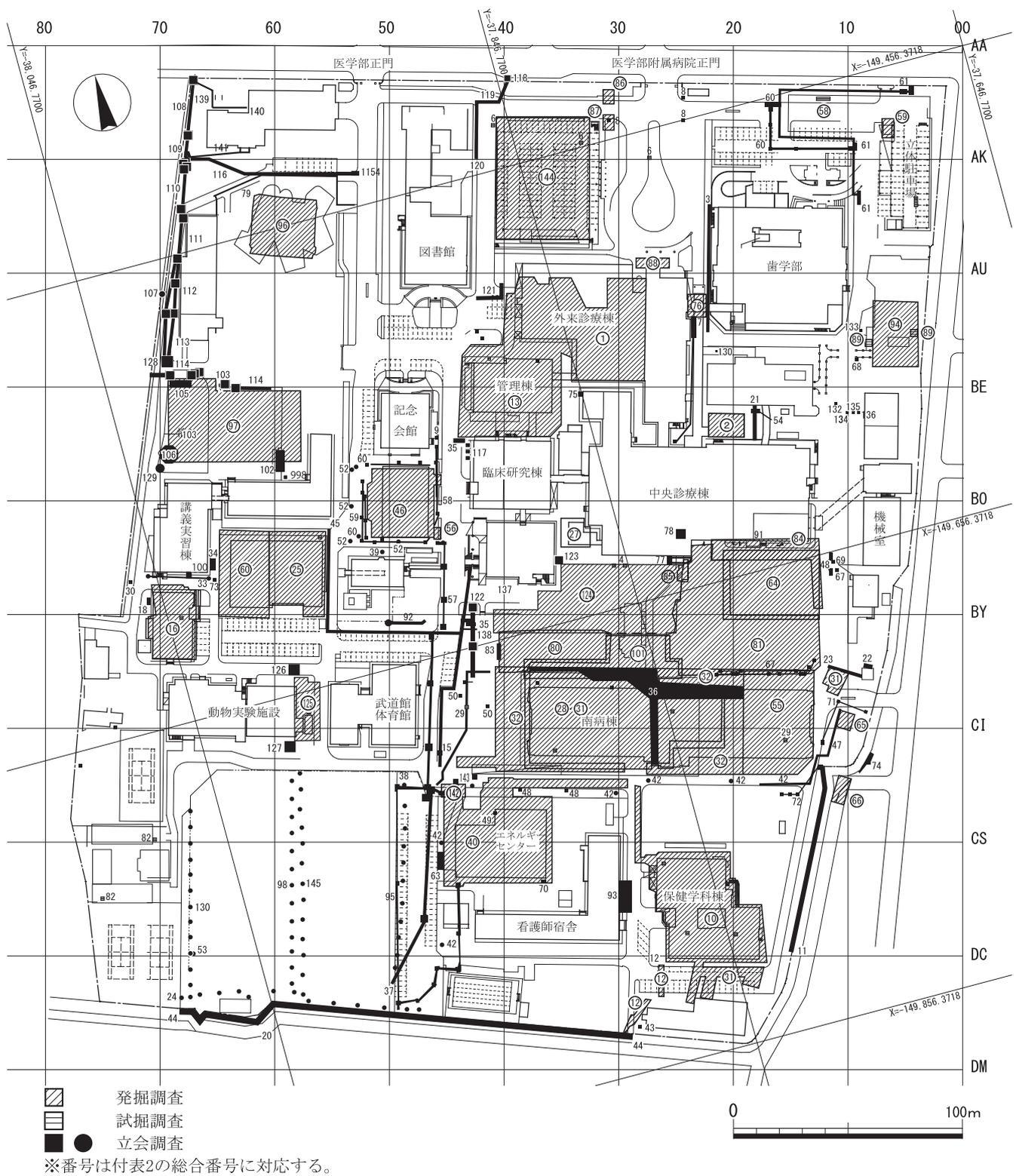
番号	名 称	発行年月日
106	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第48号	2012年9月
107	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2011	2013年1月
108	鹿田遺跡7 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第28冊 (鹿田遺跡第10次、18次調査B・C地点)	2013年3月
109	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第49号	2013年3月
110	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第50号	2013年10月
111	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2012	2013年12月
112	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第51号	2013年12月
113	鹿田遺跡8 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第29冊 (鹿田遺跡第14次調査)	2014年3月
114	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第52号	2014年12月
115	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第53号	2015年3月
116	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2013	2015年3月
117	津島岡大遺跡21 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第30冊 (津島岡大遺跡第33次調査)	2015年3月
118	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第54号	2015年10月
119	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第55号	2016年2月
120	鹿田遺跡9 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第31冊 (鹿田遺跡第23次調査)	2016年2月
121	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2014	2016年3月
122	吉備の弥生時代	2016年3月
123	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第56号	2016年12月
124	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2015	2017年3月
125	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第57号	2017年3月
126	鹿田遺跡10 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第32冊 (鹿田遺跡第9・11次調査)	2017年3月
127	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第58号	2017年10月
128	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第59号	2018年1月
129	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2016	2018年2月
130	鹿田遺跡11 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第33冊 (鹿田遺跡第24次調査)	2018年3月
131	鹿田遺跡12 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第34冊 (鹿田遺跡第20A・25次調査)	2018年3月
132	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第60号	2018年8月
133	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第61号	2019年3月
134	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2017	2019年3月
135	鹿田遺跡13 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第35冊 (鹿田遺跡第26次調査)	2019年3月
136	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第62号	2019年12月
137	鹿田遺跡14 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第36冊 (鹿田遺跡第17次調査)	2020年3月
138	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2018	2020年3月
139	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第63号	2020年3月
140	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第64号	2020年11月
141	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2019	2021年3月
142	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第65号	2021年3月
143	鹿田遺跡15 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第37冊 (鹿田遺跡第12・27次調査)	2021年3月
144	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第66号	2021年10月
145	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2020	2021年10月
146	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第67号	2022年3月
147	鹿田遺跡16 岡山大学構内遺跡発掘調査報告38冊 (鹿田遺跡第20次B・D地点)	2022年3月



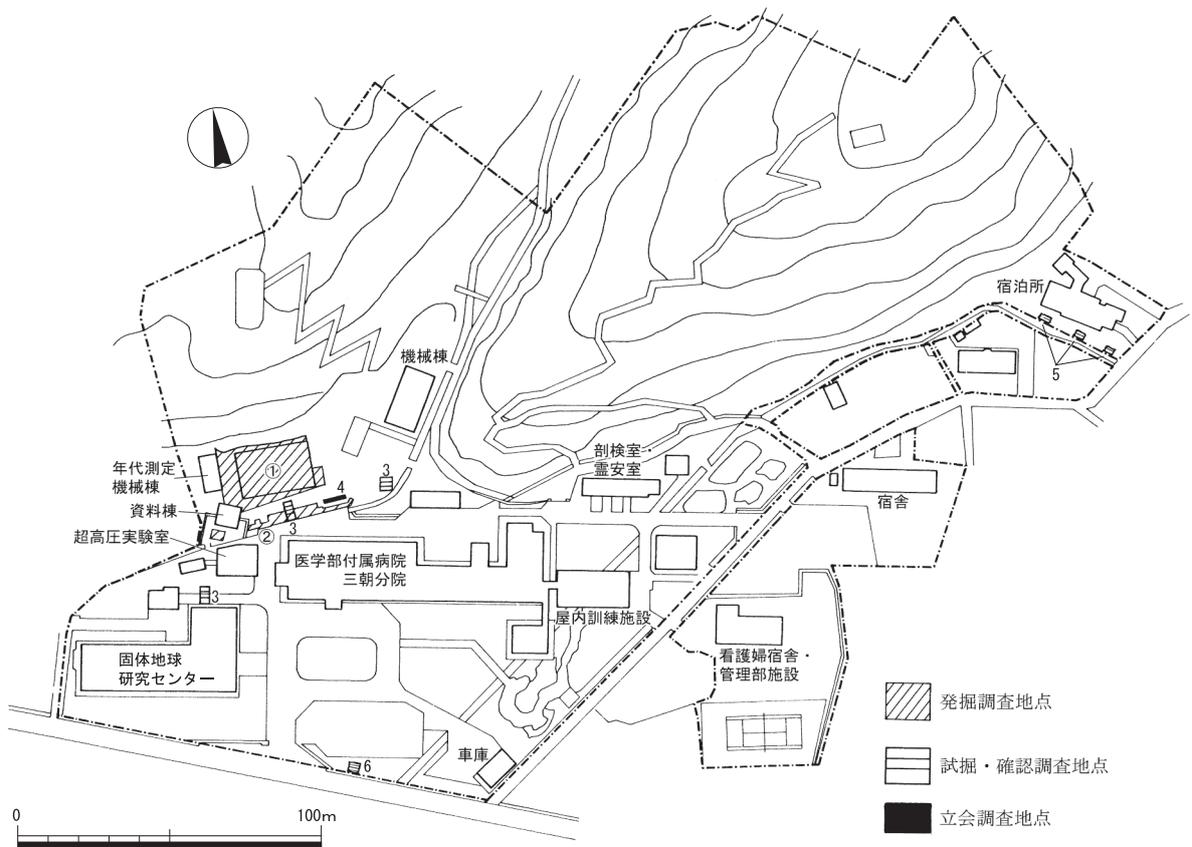
付図1 岡山大学の位置と周辺の遺跡分布 (縮尺1/50,000・1/3,750,000)



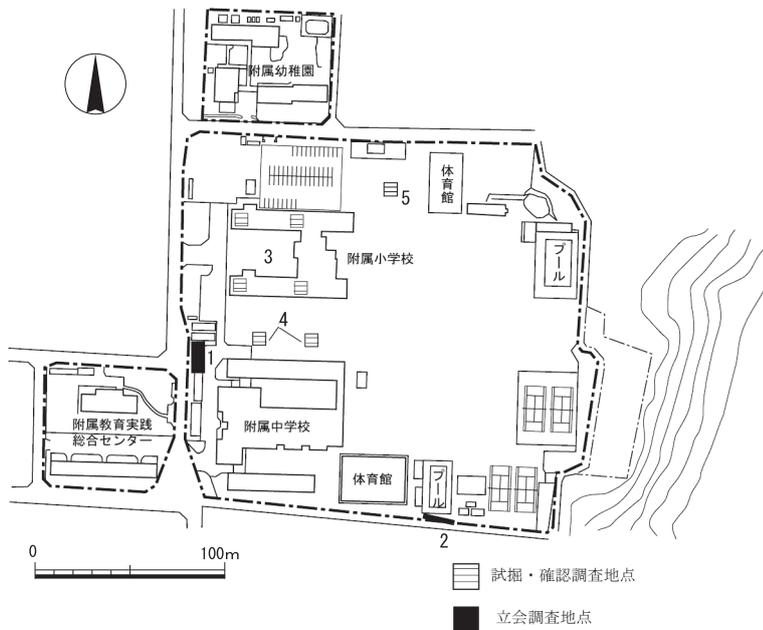
付図2 津島地区全体図 (縮尺1/20,000)



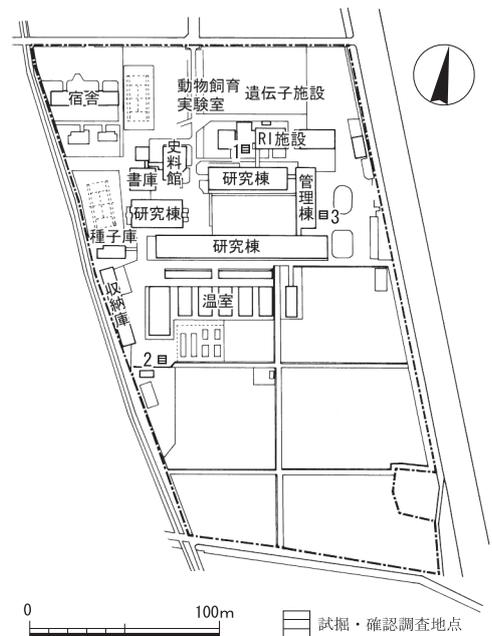
付図4 2020年度以前の調査地点【2】—鹿田地区— (縮尺1/2,500)



付図5 2020年度以前の調査地点【3】
—三朝地区—（縮尺1/2,500）



付図6 2020年度以前の調査地点【4】
—東山地区—（縮尺1/4,000）



付図7 2020年度以前の調査地点【5】
—倉敷地区—（縮尺1/4,000）

Copyright©Cultural Heritage Management Division,
Research Institute for the Dynamics of Civilizations, Okayama University
Printed in Okayama, Japan

2022年11月30日 印刷
2022年11月30日 発行

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要
2021

編集・発行 岡山大学文明動態学研究所
文化遺産マネジメント部門
岡山市北区津島中三丁目1番1号
(086) 251-7290
印刷 友野印刷株式会社



**BULLETIN of
Archaeological Research Center
Okayama University
2021**

Cultural Heritage Management Division, Research Institute for the Dynamics of Civilizations, Okayama University
3-1-1 Tsushima-Naka Kita-ku Okayama-city, 700-8530 Japan
<https://ridc.okayama-u.ac.jp>